

がん検診の実施状況及び精度管理について

令和 5 年度京都府生活習慣病検診等管理指導協議会がん検診部会



令和 6 年 3 月 11 日 (月) 15:00 ~ 17:00

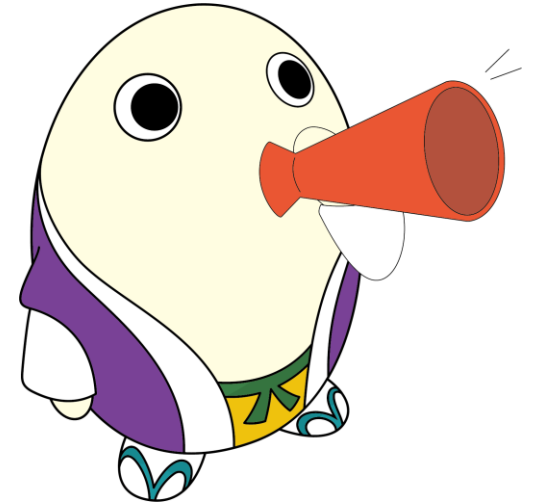
京都府健康福祉部健康対策課がん対策係

本日の内容

○がん検診の精度管理について

- ・がん検診全般（検診実施状況・検診受診率・プロセス指標・チェックリスト等）
- ・胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）
- ・肺がん検診
- ・大腸がん検診
- ・乳がん検診
- ・子宮頸がん検診

○指針外のがん検診実施状況について



第3期京都府がん対策推進計画の概要（案）R6年度からR11年度

全体目標・分野別目標及び分野別施策

全体目標：誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての府民とがんの克服を目指す

（1）がん予防・がん検診の強化

がんを予防し、早期発見・早期治療により、がんで亡くなる人を減らす

【1次予防：がんのリスクの減少】

- ①食生活・身体活動・飲酒等生活習慣の改善
- ②たばこ対策
- ③感染に起因するがん対策（ウイルス、細菌など）

【2次予防：がんの早期発見、がん検診】

- ①検診の受診率向上
- ②精度管理・検診従事者の資質向上

（2）がん医療体制の整備・充実

患者本位の適切な医療を実現し、がん患者及びその家族等の苦痛や精神的不安の軽減並びに療養生活の質の維持向上

- ①手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法の推進
- ②緩和ケア・支持療法の推進
- ③在宅医療の充実
- ④連携体制の強化
- ⑤小児がん及びAYA世代のがん対策
- ⑥がんゲノム医療の普及
- ⑦その他治療機能の充実
- ⑧新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

（3）がんと共生社会の実現

がんになっても安心して暮らせる社会の構築

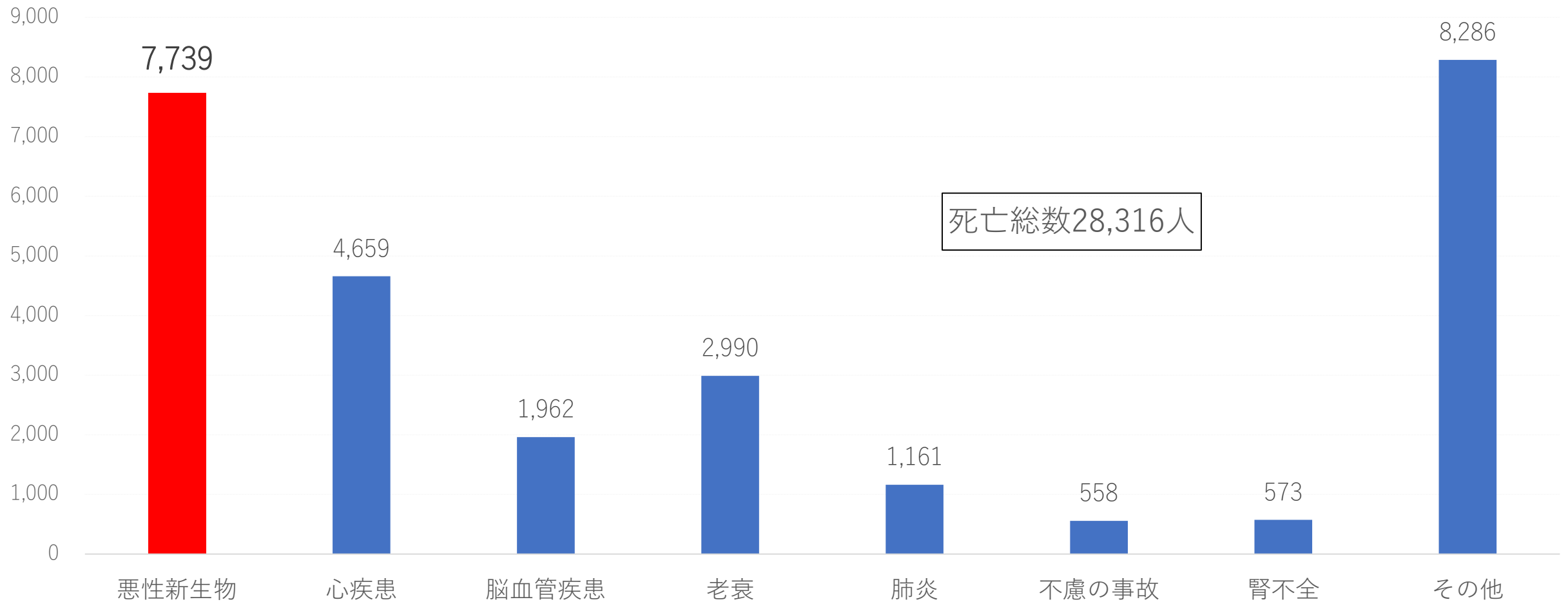
- ①相談支援体制、情報提供体制の充実
- ②就労支援の強化
- ③社会的な問題への対応の充実
- ④小児・AYA世代、高齢者に対する支援の強化
- ⑤ピアランスケアについて
- ⑥がん診断後の自殺対策について

（4）これらを支える基盤の整備

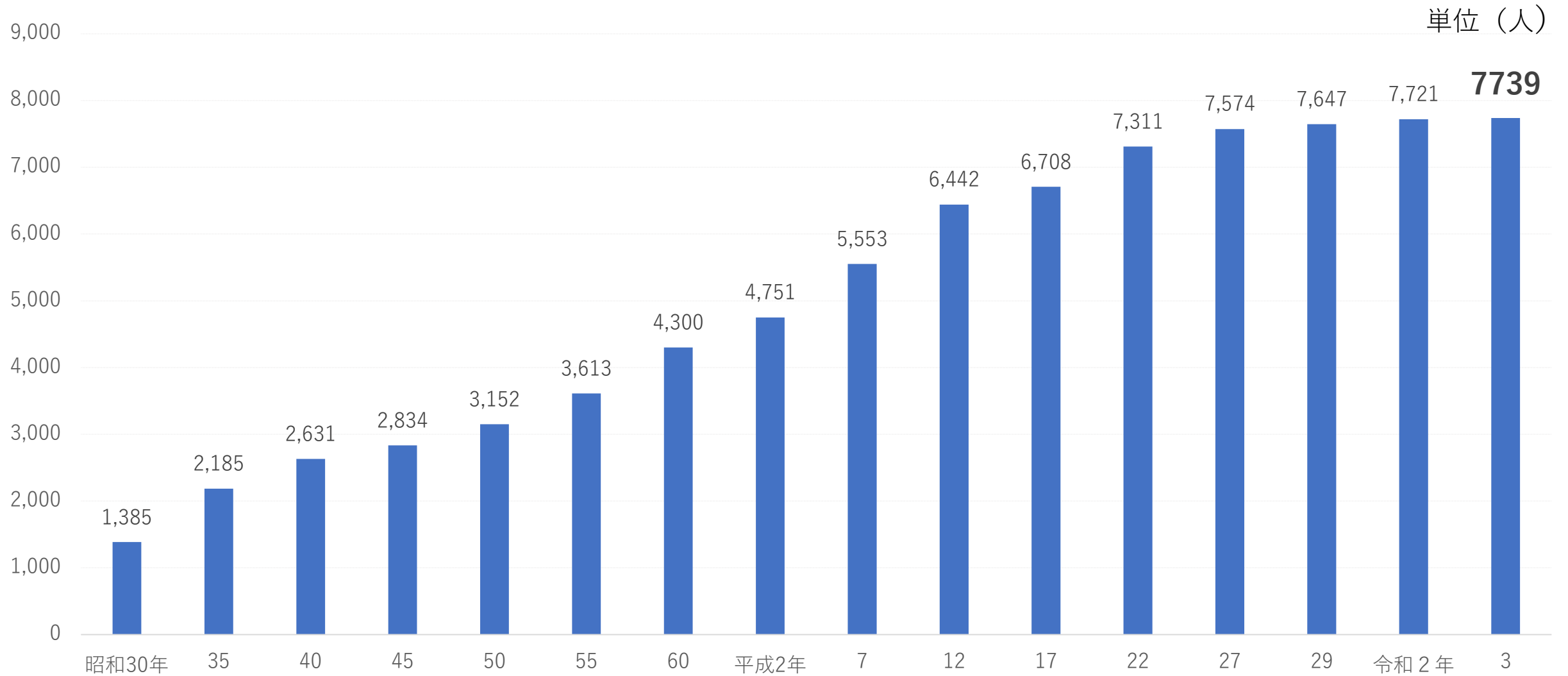
- ①人材育成の強化
- ②がん教育・がんの正しい知識の普及啓発の推進
- ③がん登録の推進
- ④患者・府民参画の推進
- ⑤デジタル化の推進
- ⑥感染症発生・まん延時や災害時を見据えた対策

R3年 京都府死因別死亡者の状況

単位 (人)

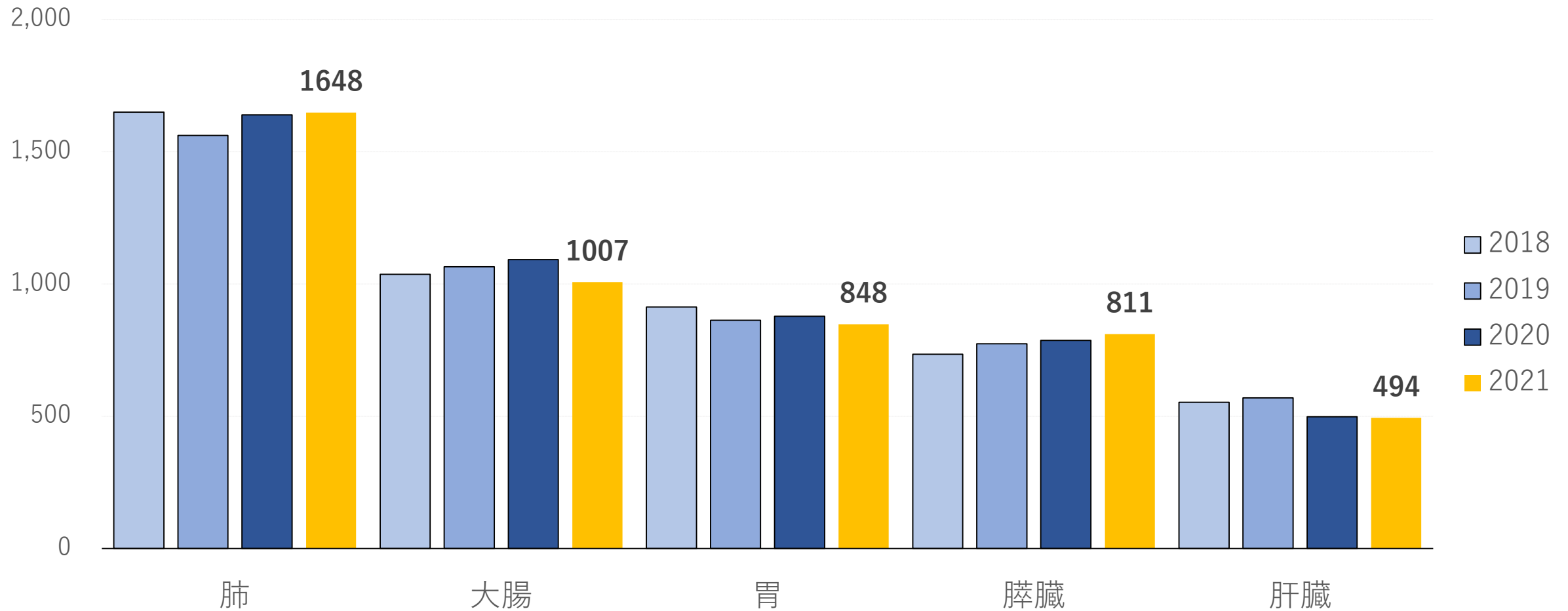


京都府悪性新生物による死亡者数の推移

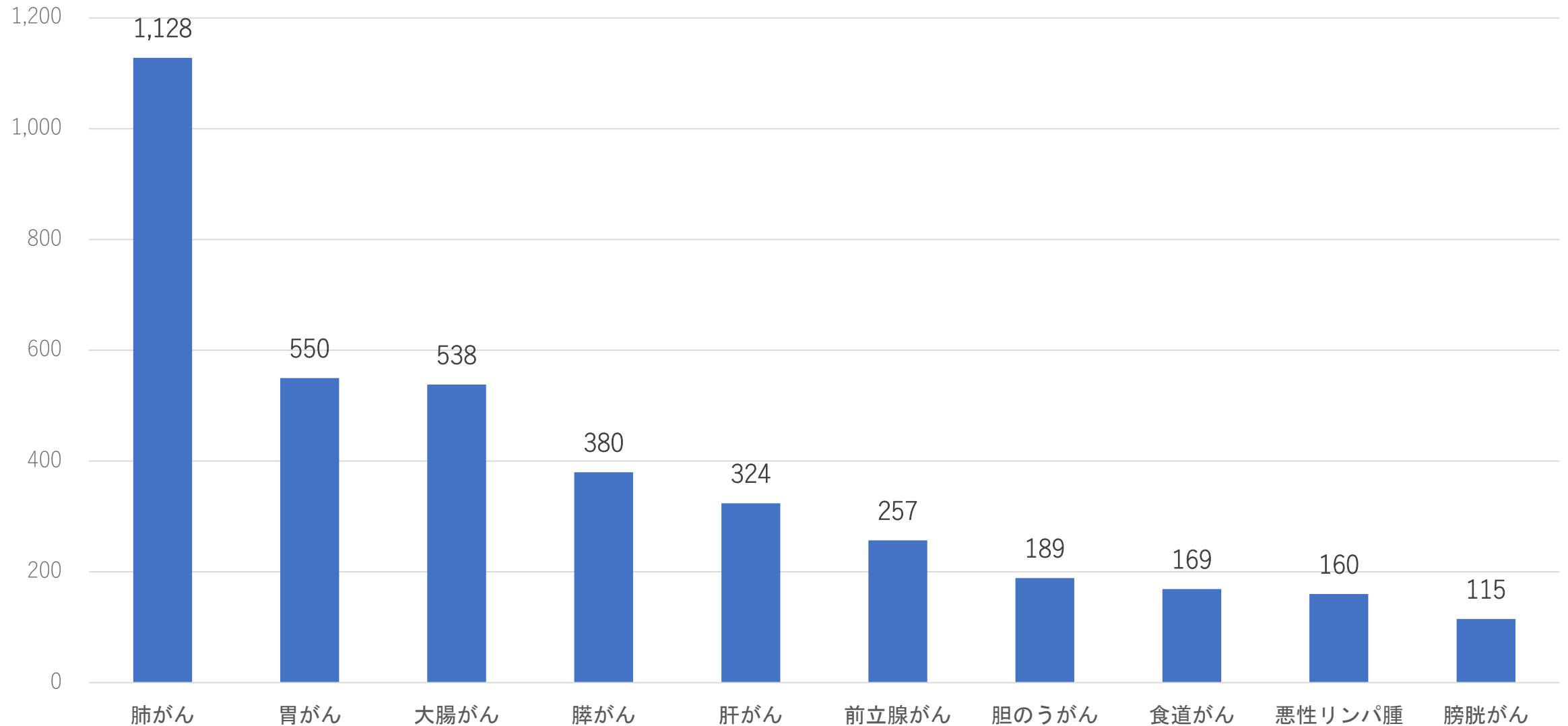


京都府のがんの状況＜R3年 部位別死亡者数（男女）＞

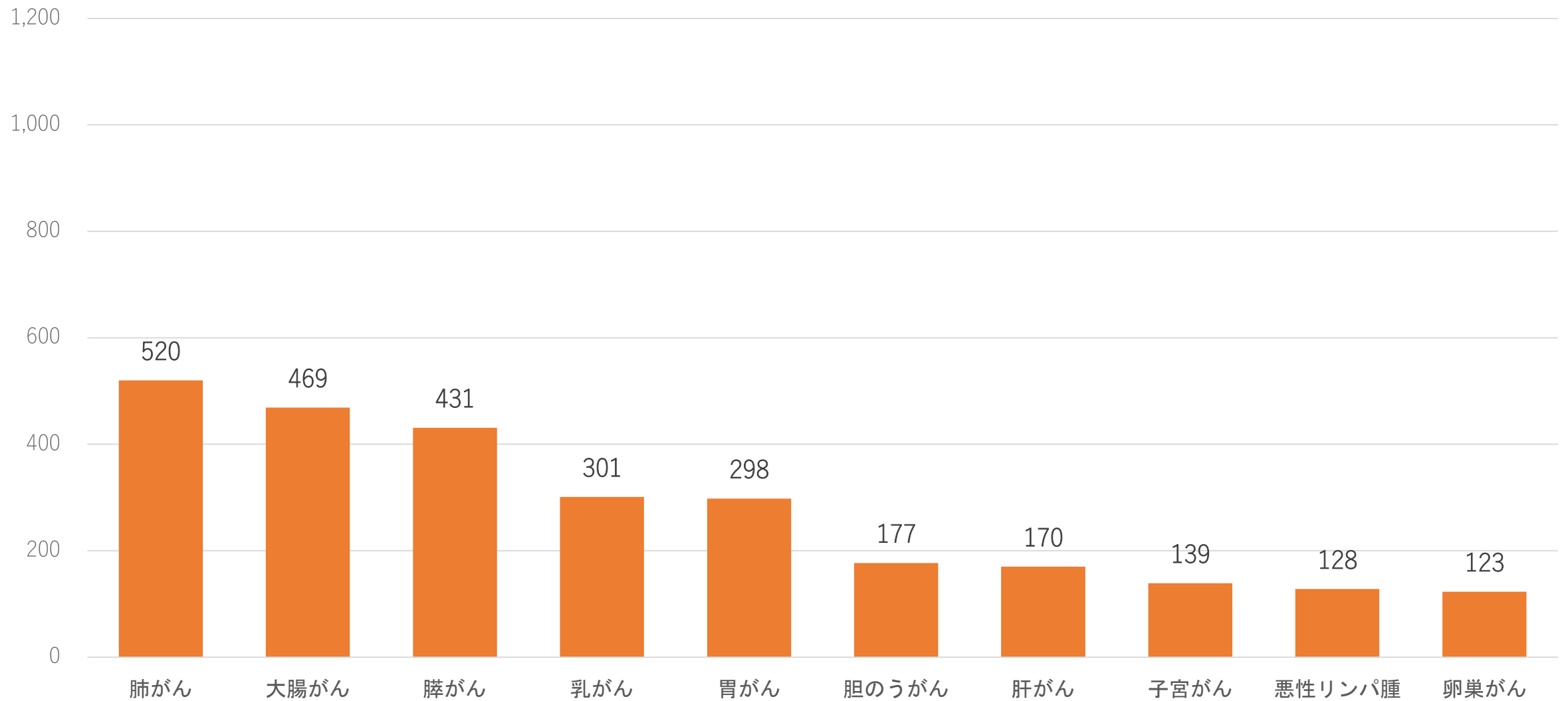
部位別死亡者数（男女計）（単位：人）



京都府のがんの状況＜R3年 部位別死亡者数（男）＞

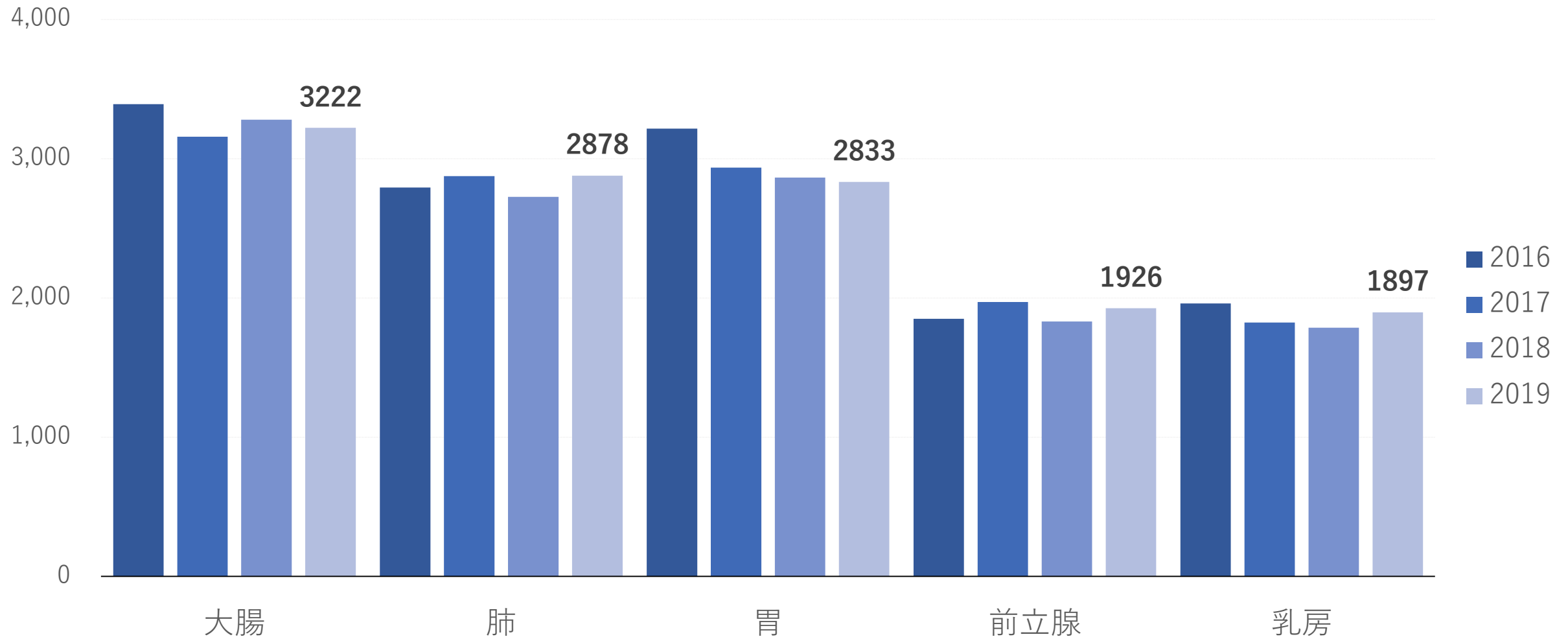


京都府のがんの状況＜R3年 部位別死亡者数（女）＞

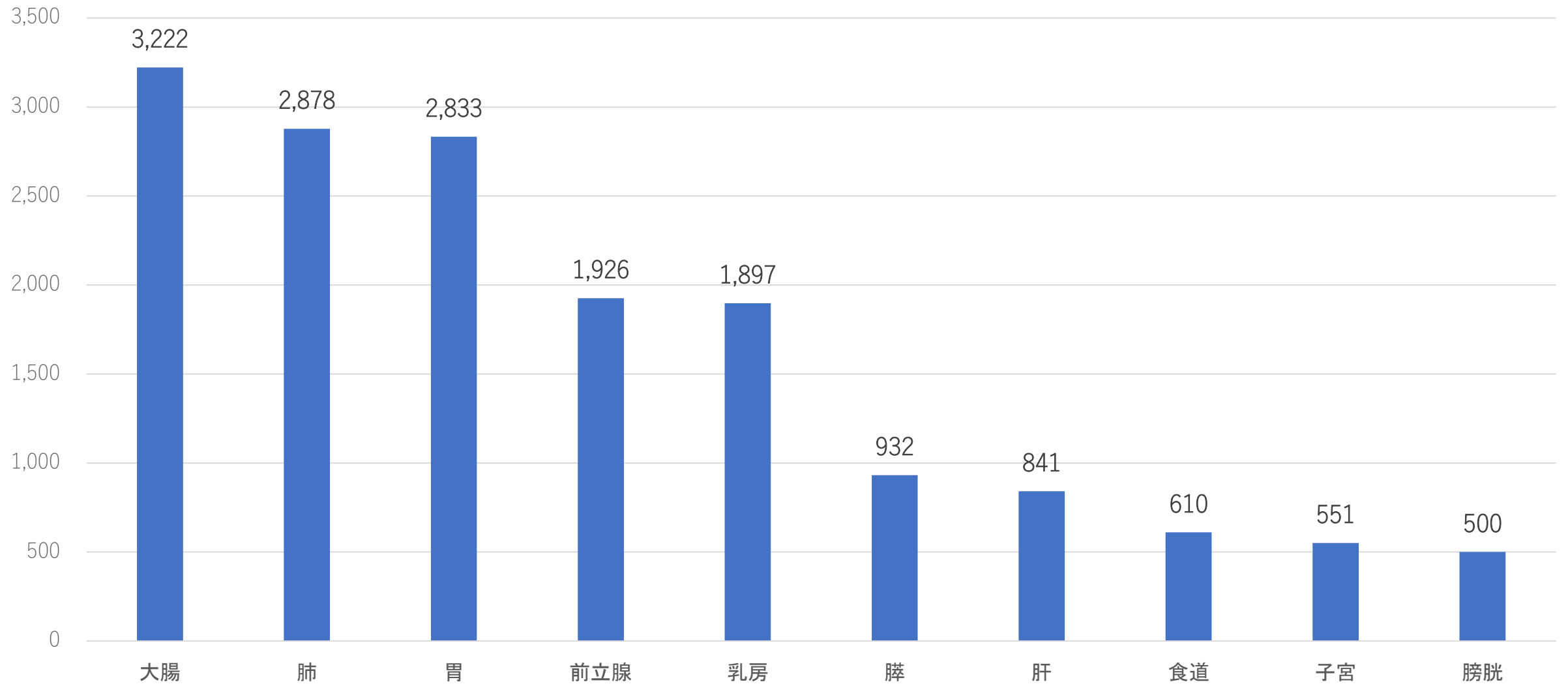


京都府のがんの状況＜部位別罹患者数（男女）＞

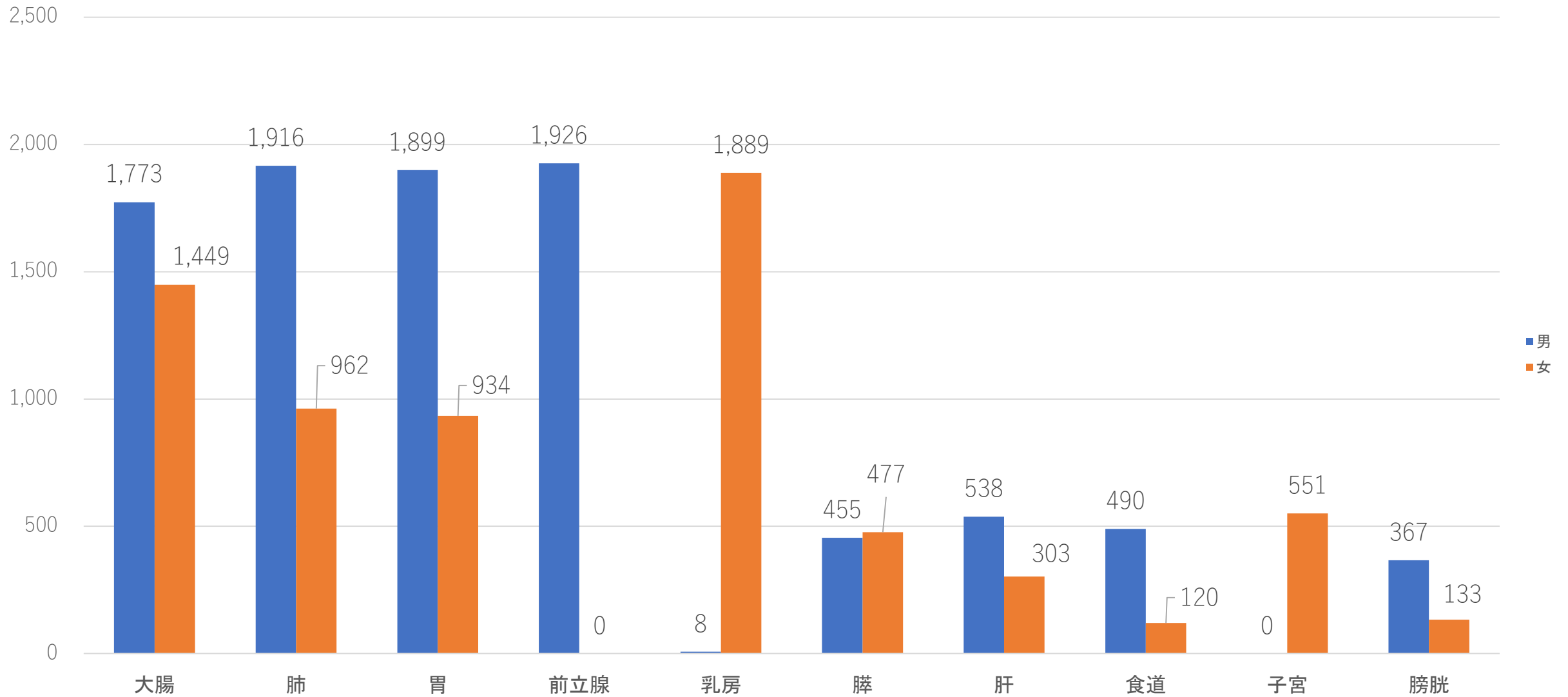
部位別罹患者数（単位：人）



京都府のがんの状況＜R1年 部位別罹患者数（男女）＞



京都府のがんの状況＜R1年 部位別罹患者数（男女別）＞



項目 1：がん事業評価のためのチェックリスト遵守状況調査

（令和 4 年度の検診体制）

達成率（実施率）を5段階で評価。自己チェックの側面も大きい。

項目 2：精度管理指標数値の調査

（令和 3 年度受診率及び令和 2 年度プロセス指標）

評価基準は、厚生労働省「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」の許容値と目標値を使用。

- がん検診毎に状況確認し、原因や改善策を検討。
- 結果を報告市、必要に応じて個別に助言や追加調査を実施。
- 調査結果、評価結果等を京都府ホームページで公表。

プロセス指標の意味と活用方法①

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	各指標値の評価	備考
受診率	<p>検診を受けるべき対象者が、実際に検診を受けたかを測る指標</p> <p>【受診者数/対象者数 × 100】</p>	高いことが望ましい	<p>【高値】 望ましい※²</p> <p>【低値】</p> <p>①対象者を把握していない（対象者の名簿が作成されていない）</p> <p>②受診勧奨を実施していない</p> <p>③検診の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）</p>
要精検率	<p>検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標</p> <p>【要精検者数/受診者数 × 100】</p>	対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	<p>【高値】</p> <p>①受診者が有病率の高い集団に偏っている</p> <p>②擬陽性が多い</p> <p>【低値】</p> <p>①受診者が有病率の低い集団に偏っている</p> <p>②偽陰性が多い</p>
精検受診率	<p>要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標</p> <p>【精検受診者数/要精検者数】 × 100</p>	高いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない）	<p>【高値】 100%に近いことが理想</p> <p>【低値】</p> <p>①精検受診の有無について未把握が多い</p> <p>②精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握出来ない場合は精検受診にカウントされない）</p> <p>③精検受診勧奨が適切でない</p> <p>④精検の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）</p>

プロセス指標の意味と活用方法②

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	各指標値の評価	備考
精検未受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標 【未受診者数/要精検者数×100】	低いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない）	【高値】 ①精検の受診勧奨が適切でない ②精検の提供体制が不十分（キャパシティ、悪アセス） 【低値】0%に近いことが理想（ただし、精検見把握率が高い場合には、見かけ上未受診率も低くなることに注意）
精検未把握率	精検受診の有無や精検結果が、適切に把握されたかを測る指標 【未把握者数/要精検者数×100】	低いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、精検受診率、未受診率、がん発見率、陽性反応適中度を適切に評価できない）	【高値】 ①精検受診の有無について未把握が多い ②精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握できない場合は精検受診にカウントされない） 【低値】0%に近いことが理想
がん発見率	その検診において、適正な頻度でがんを発見出来たかを測る指標 【がんであった者/受診者数×100】	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【極端に高値】 受診者が有病率の高い集団に偏っている 【低値】※5 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い

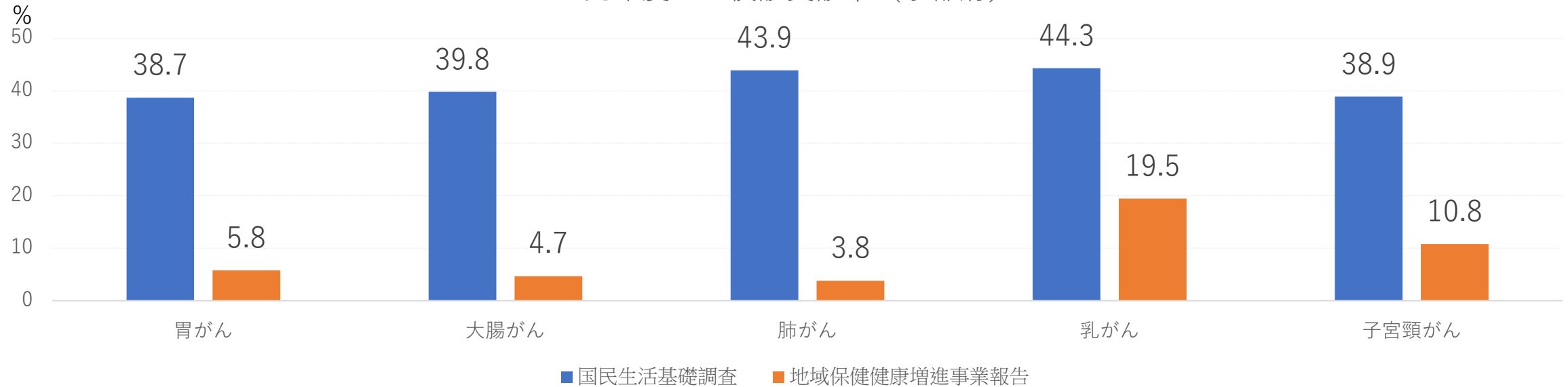
プロセス指標の意味と活用方法③

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	各指標値の評価	備考
陽性反応適中度	その検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標（検診の精度を測る指標） 【がんであった者/要精検者数×100】	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【極端に高値】 受診者が有病率の高い集団に偏っている 【低値】 ※5 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い

- ※1 出典：厚生労働省 がん検診事業の評価に関する委員会報告書「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（平成20年3月）」ただし、受診率の目標値については、厚生労働省がん対策推進基本計画（平成30年3月）
- ※2 がん検診によって死亡率を減少させるためには、検診の質を高く保つことが第一の条件で、その上で受診率を上げていく必要がある。つまり、受診率を上げることも重要だが、それ以上にその他の指標（特に精検受診率）の改善が重要。
- ※3 子宮頸がん検診の要精検率は近年増加傾向にあり、国の許容値を満たしていない都道府県が増加。要精検率増加の一因として、国の補助事業の無料クーポン券導入（2009年）の影響が考えられる。無料クーポン券の配布対象は原則はじめて受診する人で、この事業開始後に若年の受診者が増えていることが分かっている。このことから、近年罹患率の高い集団が多く受診するようになり、その結果、要精検率が増加傾向にあることが考えられている。ただし、その原因はまだ明確に特定されておらず、今後の検討課題である。
- ※4 「地域保健・健康増進事業報告」の様式が改定され、H25年度までの報告では「上皮内がん」として「がんで会った者」に計上されていたものが、H26年度以降の報告では「CIN3」として計上されるようになった。
- ※5 陽性反応適中度とがん発見率は、「精検受診率が低い場合」、「自治体の精検結果の把握状況に漏れがある場合」正確に評価できない。

がん検診受診率には2つある

R元年度がん検診受診率（京都府）



国民生活基礎調査

抽出された世帯に対する質問票で把握した**推計値**。指針外の検査法も対象となる。がん対策推進基本計画の評価指標。3年に1度の調査。

地域保健健康増進事業報告

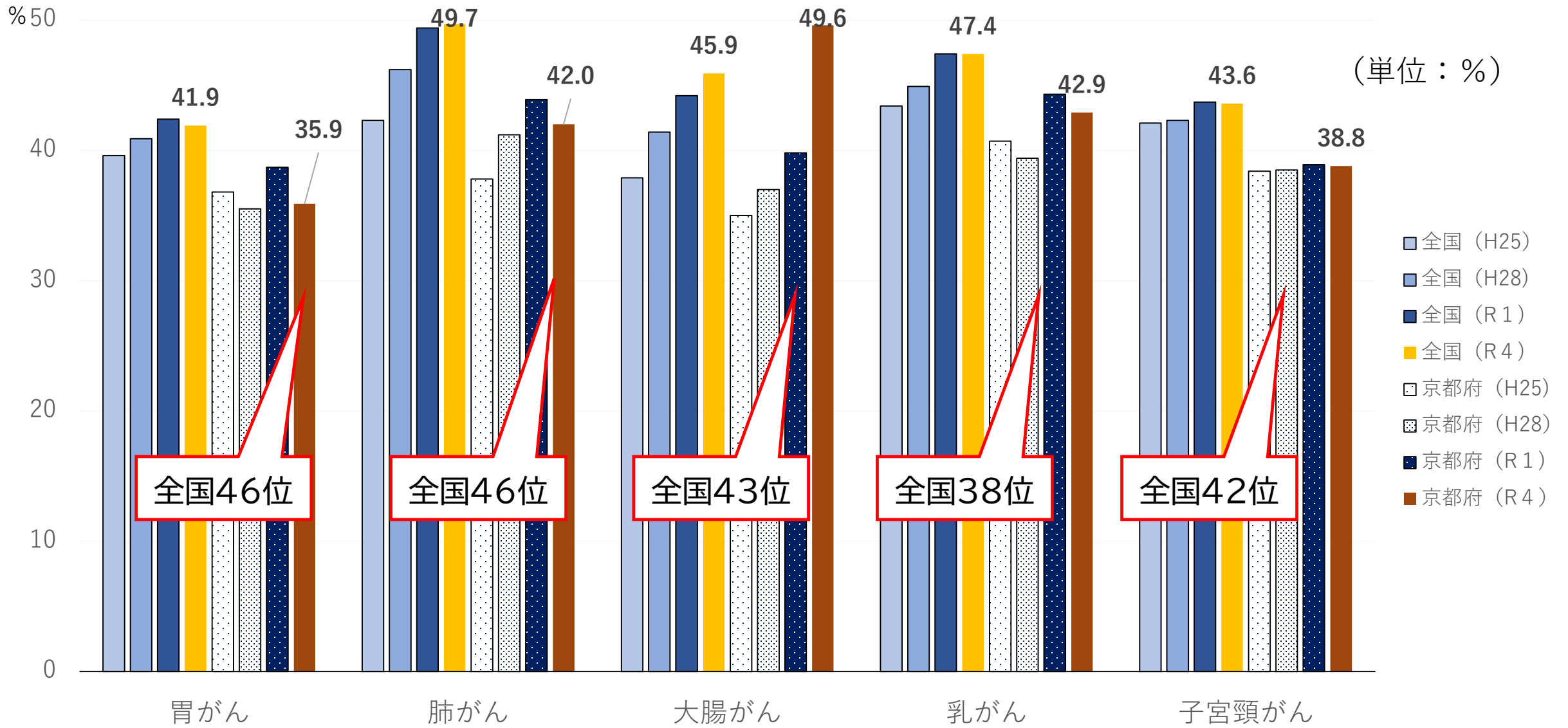
自治体を実施している対策型検診を受診した**実測値**。職場や人間ドックで受診した人は含まれない。毎年の調査。

R5年度京都府内市町村のがん検診の実施状況（京都府調べ）

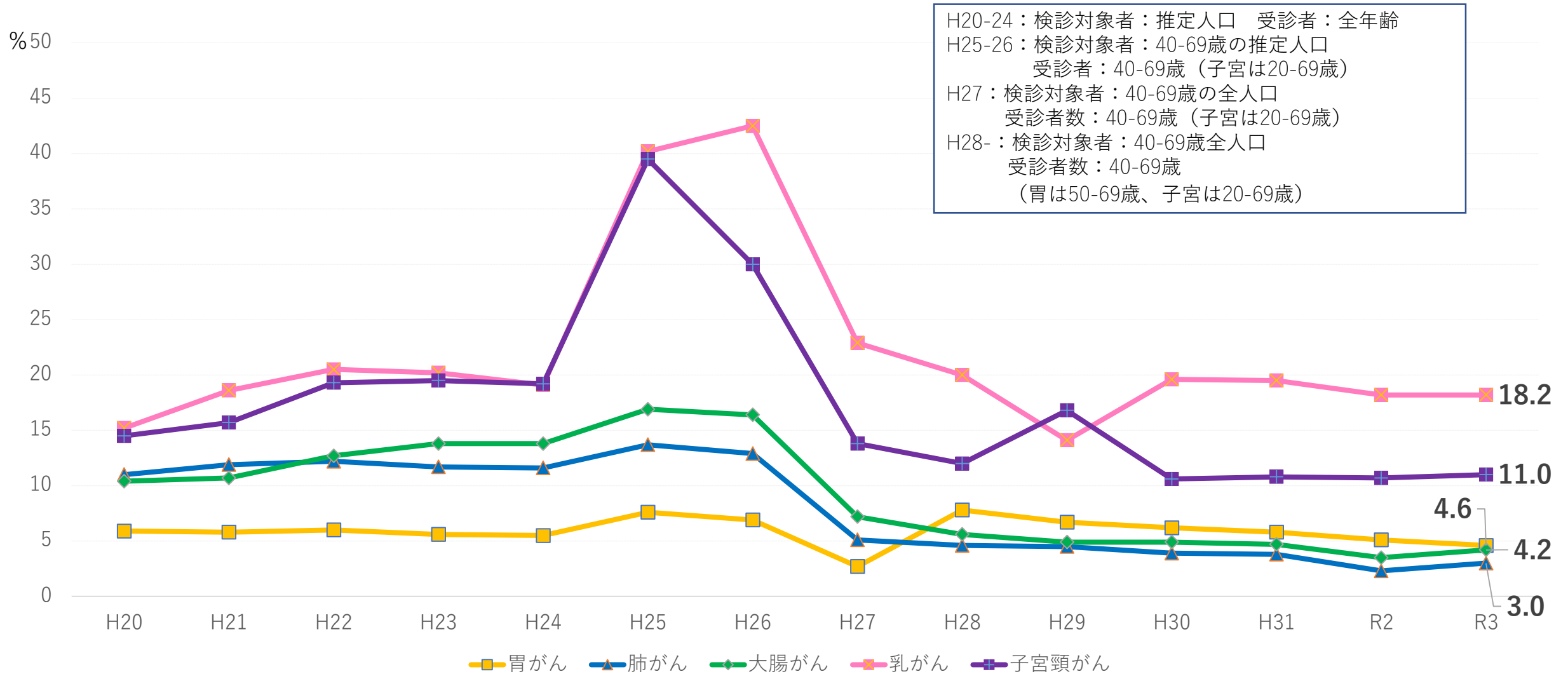
R5年度	検査方法		検査方式		備考（課題・現状等）
			集団	個別	
胃がん	胃部エックス線検査	26	25	1	受診率が全国と比較しても低い。
	胃内視鏡検査	6	0	6	R5から3市町村が新たに開始
肺がん	胸部X線＋喀痰細胞診	26	26	0	個別方式はゼロ。導入には精度管理が課題。
大腸がん	便潜血二日法	26	20	16	精密検査受診率が低い。
乳がん	マンモグラフィ	23	18	20	R3指針の改正により、集団方式では一定の条件のもと医師の立ち会いが不要になった。
	マンモ＋視触診	3	0	3	
	エコー	0	0	0	R3より、京都市においてエコー検診が廃止
子宮頸がん	頸部細胞診	26	12	25	

※京都府内検診実施自治体数（N=26自治体）

国民生活基礎調査での京都府がん検診受診率

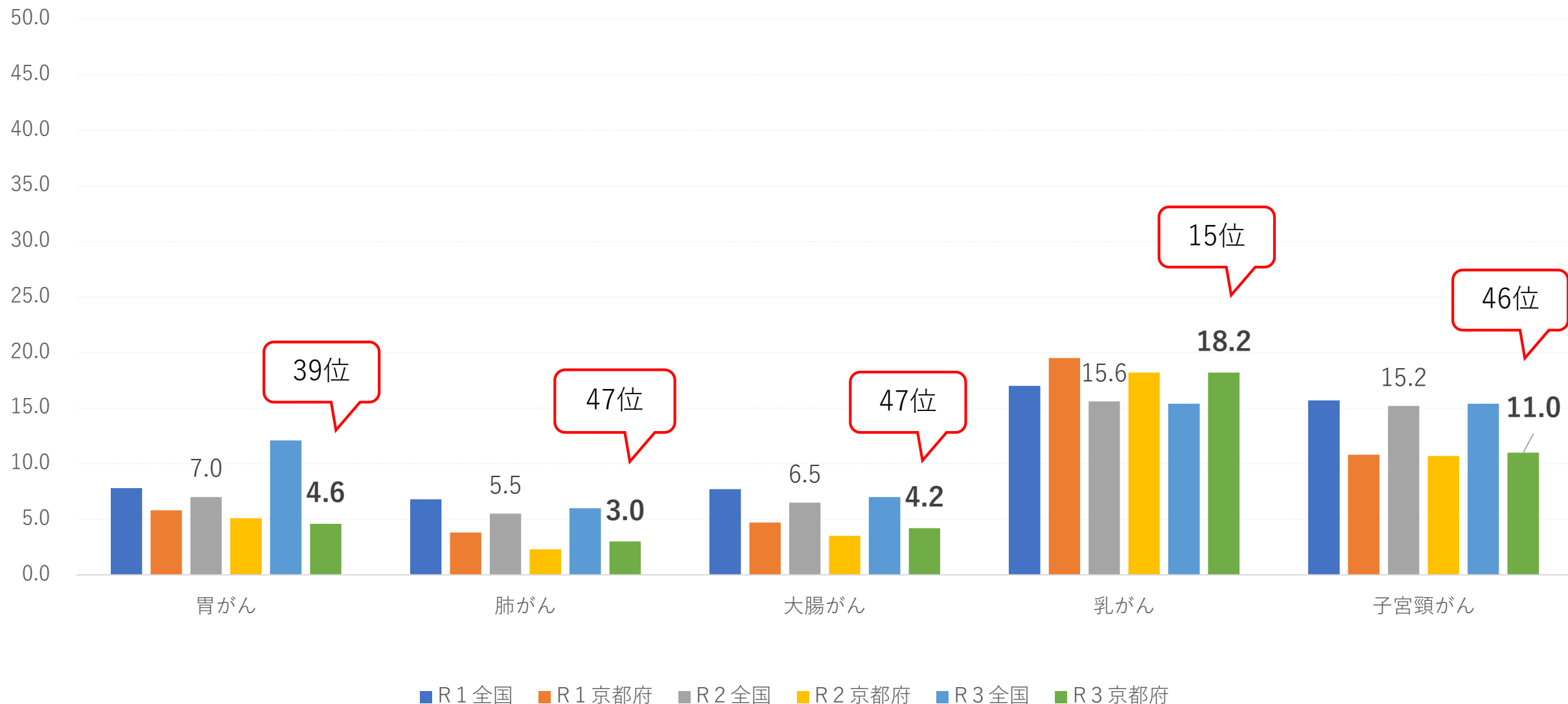


京都府がん検診受診率の推移（地域保健健康増進事業報告）



受診率の算定方法が年々変わっているので、単純に比較が出来ない点に注意が必要

R1～3年度地域保健健康増進事業報告での京都府がん検診受診率



R2年度市町村プロセス指標（地域保健康増進事業報告） ※修正後※

	胃がん （集団 ・X線）1年 間隔	胃がん （個別 ・内視鏡）・ 2年間隔	肺がん （集団）	大腸がん （集団）	大腸がん （個別）	乳がん （集団）	乳がん （個別）	子宮頸がん （集団）	子宮頸がん （個別）
受診率<R3年度> （）は全国値	4.6（6.5）		3.0 （6.0）	4.2（7.0）		18.2（15.4）		11.0（15.4）	
要精検率	6.1% （7.6%以下）	4.6% （7.7%以下）	2.4% （2.4%又は 2.3%以下）	7.2% （6.8%以下）	7.5% （6.8%以下）	4.2% （6.5%又は 6.4%以下）	6.8% （6.5%又は 6.4%以下）	3.1% （2.5%以下）	2.8% （2.5%以下）
精検受診率	83.9% （90%以上）	79.1% （90%以上）	86.8% （90%以上）	76.1% （90%以上）	72.2% （90%以上）	94.4% （90%以上）	95.0% （90%以上）	88.3% （90%以上）	82.3% （90%以上）
精検未受診率	7.9%	14.0%	9.8%	14.8%	13.7%	4.6%	4.0%	5.9%	14.7%
精検未把握率	6.2%	7.0%	3.4%	9.1%	14.1%	0.9%	1.0%	5.9%	3.0%
がん発見率	0.11% （0.11%以上）	0.43% （0.19%以上）	0.03% （0.10%又は 0.05%以上）	0.20% （0.21%以上）	0.27% （0.21%以上）	0.22% （0.4%又は 0.31%以上）	0.31% （0.4%又は 0.31%以上）	0.28% （0.15%以上）	0.25% （0.15%以上）
陽性反応適中度	1.9% （1.5%以上）	9.3% （2.5%以上）	1.3% （4.1%又は2.2% 以上）	2.8% （3.0%以上）	3.6% （3.0%以上）	5.4% （6.1%又は4.8% 以上）	4.6% （6.1%又は4.8% 以上）	9.0% （5.9%以上）	8.9% （5.9%以上）

※子宮頸がんのがん発見率及び陽性反応適中度はCIN3以上

○要精検率からがん発見率の下段は許容値

○プロセス指標は74歳以下、受診率は69歳以下

※参考資料集4 P15-26

R4年度市町村チェックリスト＜全体の傾向＞

○集団検診 がん検診別チェックリスト達成率（遵守率） ※○のみ（△は除く）

	胃（X線）	肺	大腸	乳	子宮
京都府（○のみ）	74.2	75.8	71.1	68.4	62.7
全国	82.5	82.0	81.8	82.4	82.2
順位	40位	38位	39位	44位	47位

○個別検診 がん検診別チェックリスト達成率（遵守率） ※○のみ（△は除く）

	胃（X線）	胃（内視鏡）	大腸	乳	子宮
京都府（○のみ）	15.4	59.6	68.1	73.4	67.8
全国	73.2	75.9	74.3	75.3	75.7
順位	47位	43位	35位	32位	37位

- ・昨年度とほぼ同様の状況。
- ・全体として、全国平均よりやや低く、市町村により、ばらつきが大きい。
- ・検診機関の質の担保、がん発見率、陽性反応適中度、早期がん割合等の把握
→どの検診においても、比較的達成率が低い
- ・検診対象者・受診者の精度管理、検診結果・精密検査結果の把握と受診勧奨、受診率、要精検率の把握
→どの検診においても、達成率が高い

R4 年度検診機関チェックリスト＜全体の傾向＞

- ◆昨年度より改善傾向
- ◆受診者への説明（Q1）については、5つの検診とも全て達成。
- ◆未達成項目（一部抜粋）
 - 要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度のプロセス指標の把握
→検診機関により差が見られる。
 - 検診結果の通知（肺がん）
 - 読影に関する項目（肺がんの読影医師の要件等）
 - 検体が不適正との判定を受けた場合の対応（子宮頸がん）
 - がん発見例の、過去の細胞所見の見直し（肺がん・子宮頸がん）
 - 細胞診業務の委託機関名を仕様書に明記（子宮頸がん）

R3年度都道府県チェックリスト

<目的>

都道府県が、市区町村や検診機関の体制や検診データを把握し、適切な精度管理を行っているかを評価するもの。都道府県が自己点検を行うことも目的。

<結果評価>

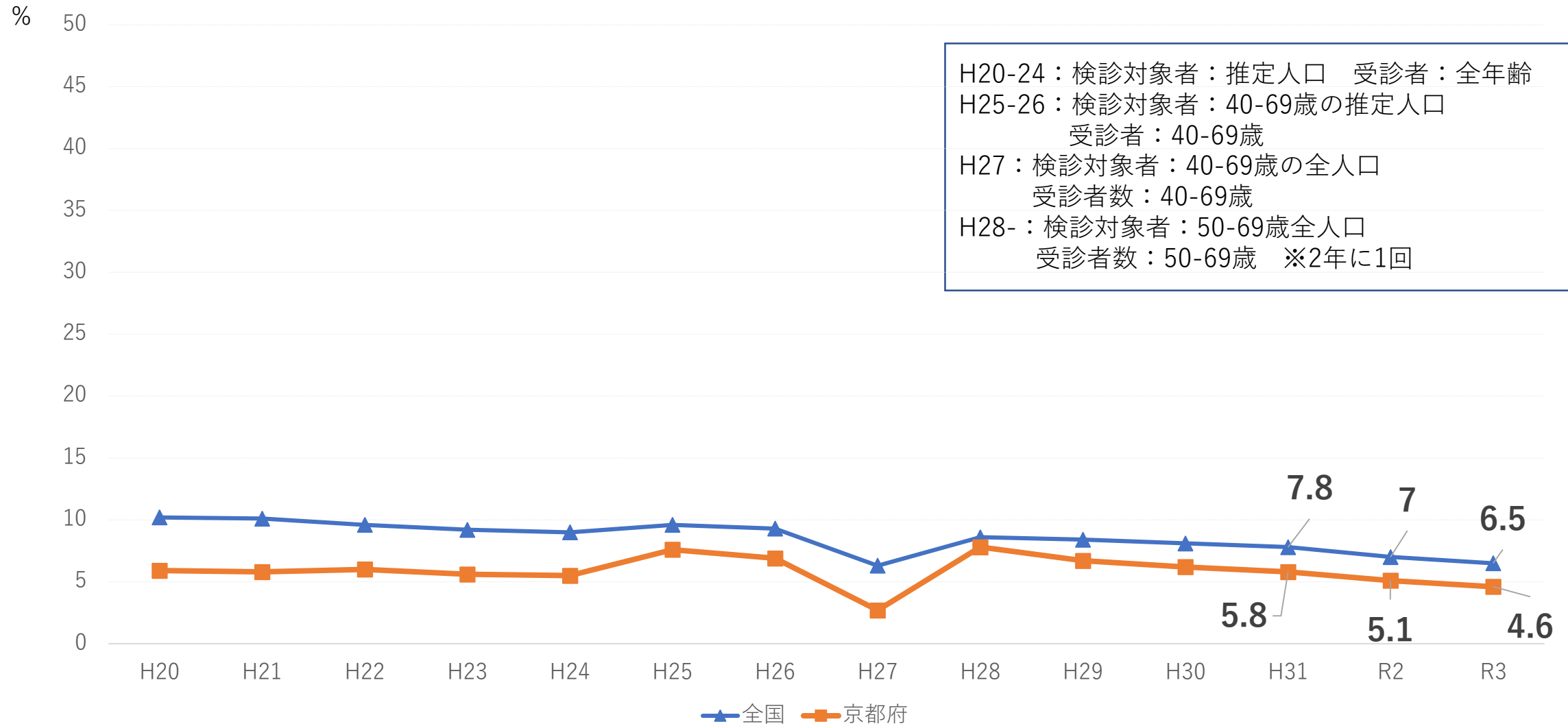
- ・実施率は、全国平均と比較して低い。
- ・京都府では、「7 追跡調査」（発見がんの病期、進行度・組織型、治療法の把握、がん登録を活用した、感度・特異度の算出等）及び「9 評価の改善策とフィードバック」（個々の市町村、検診機関、実施医療機関に対し、個別のフィードバック、指導、改善策の実施状況の把握を等）を実施していない。今後、実施有無、実施方法等を含め検討予定。
- ・その他の項目については、ほぼ達成。

※令和元年度まで実施されていたA～Eの評価については、基準の見直し中であり今年度も評価なし。

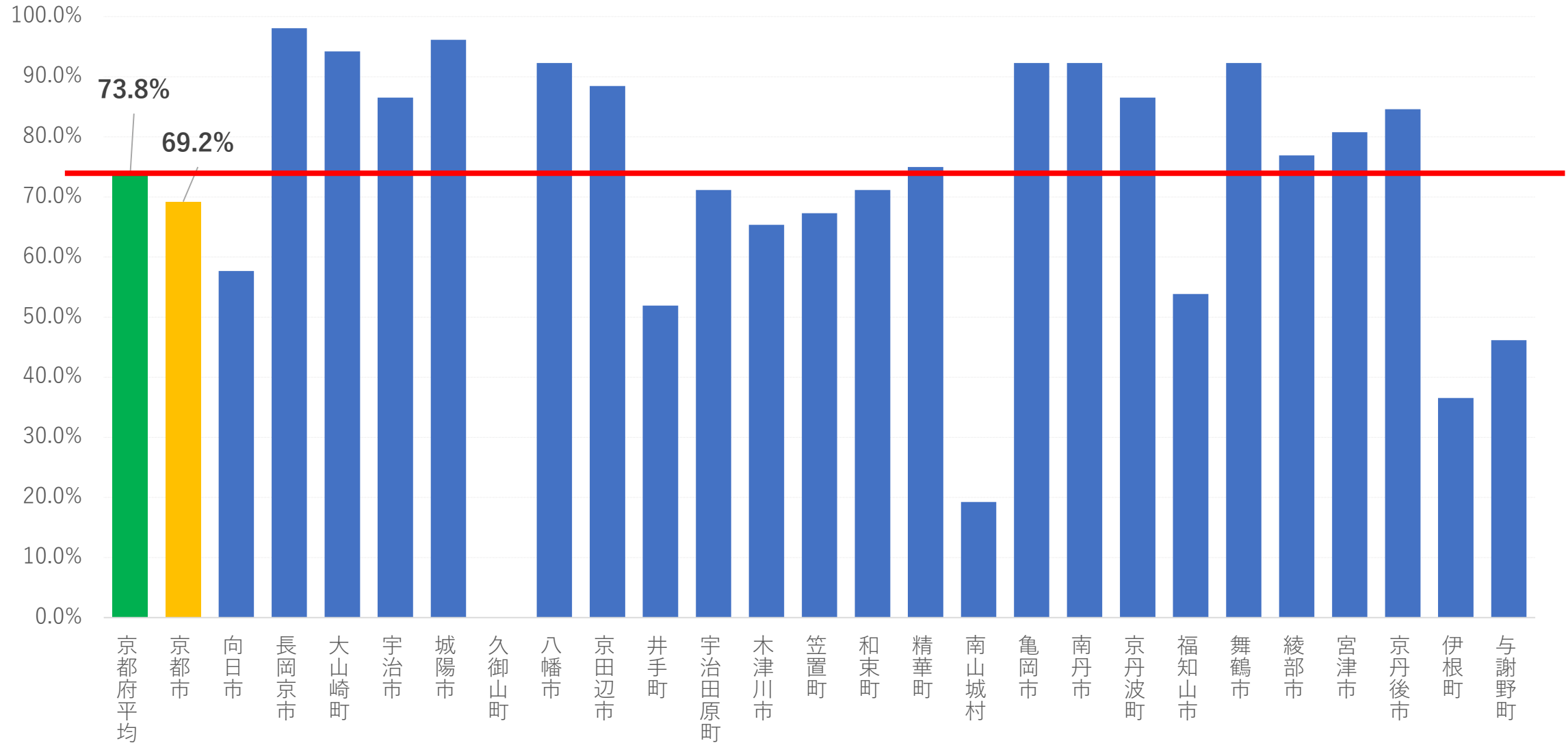
胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）

項目	内容
対象者	50歳以上（当分の間、胃部エックス線検査に関しては、40歳以上に実施しても可）
検診間隔	2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査に関しては、年1回の受診も可）
検診項目	問診に加え、胃部エックス線検査もしくは、胃内視鏡検査のいずれか
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	50～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。 2年連続受診者は差し引いて算出。
府内の状況（R5年度）	◆胃部エックス線検査単独 23市町村（全て集団方式） ◆胃部エックス線検査と胃内視鏡検査併用 6市町村（胃部エックス線検査：5市町村は集団方式、1市町村は個別方式、 胃内視鏡検査：6市町村とも個別方式）
R2年度 受診者数とがん発見数（50～74歳）	胃部エックス線検査（受診者数 13,111人 、がん発見数 15人 ） 胃内視鏡検査（受診者数 925人 、がん発見数 4人 ）

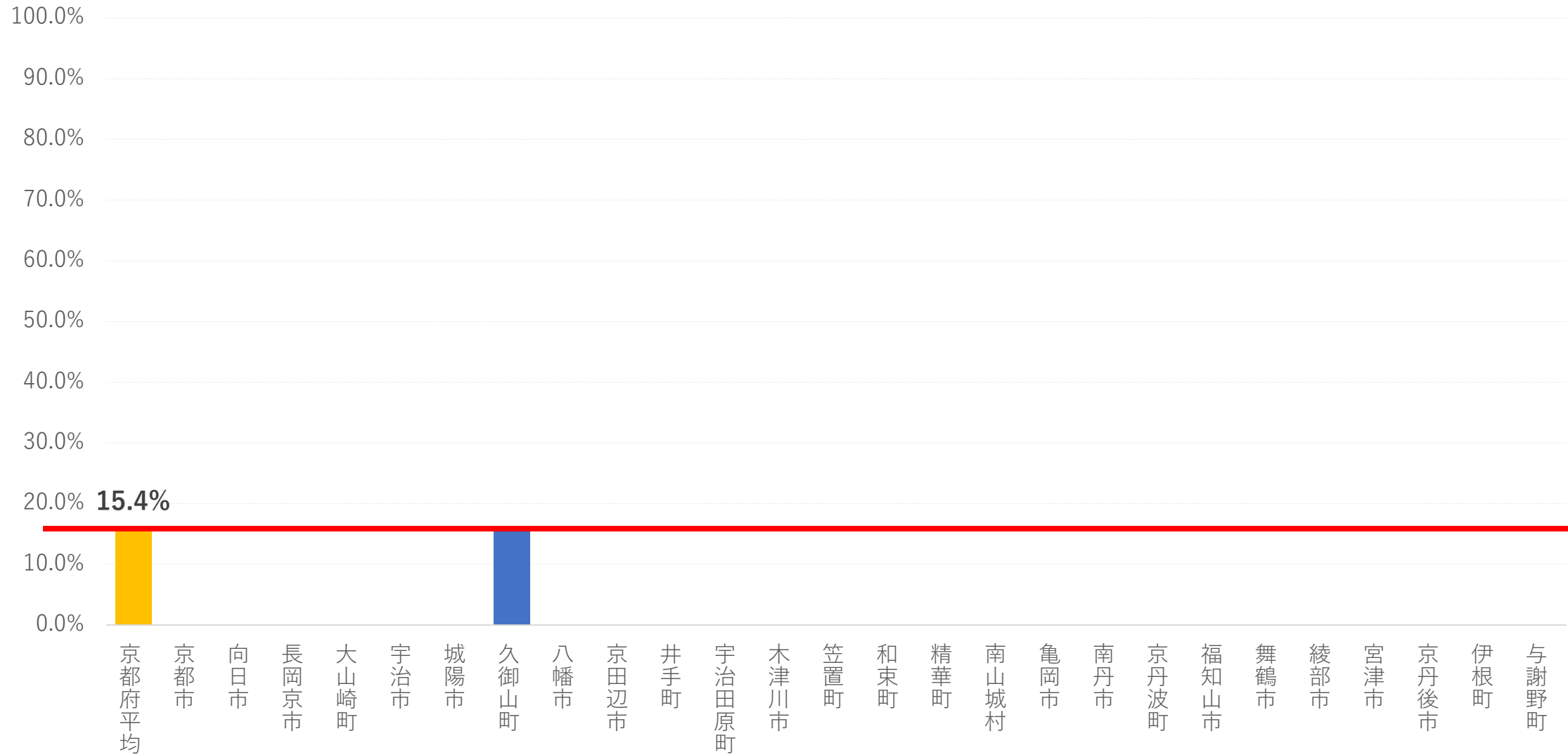
胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）受診率推移



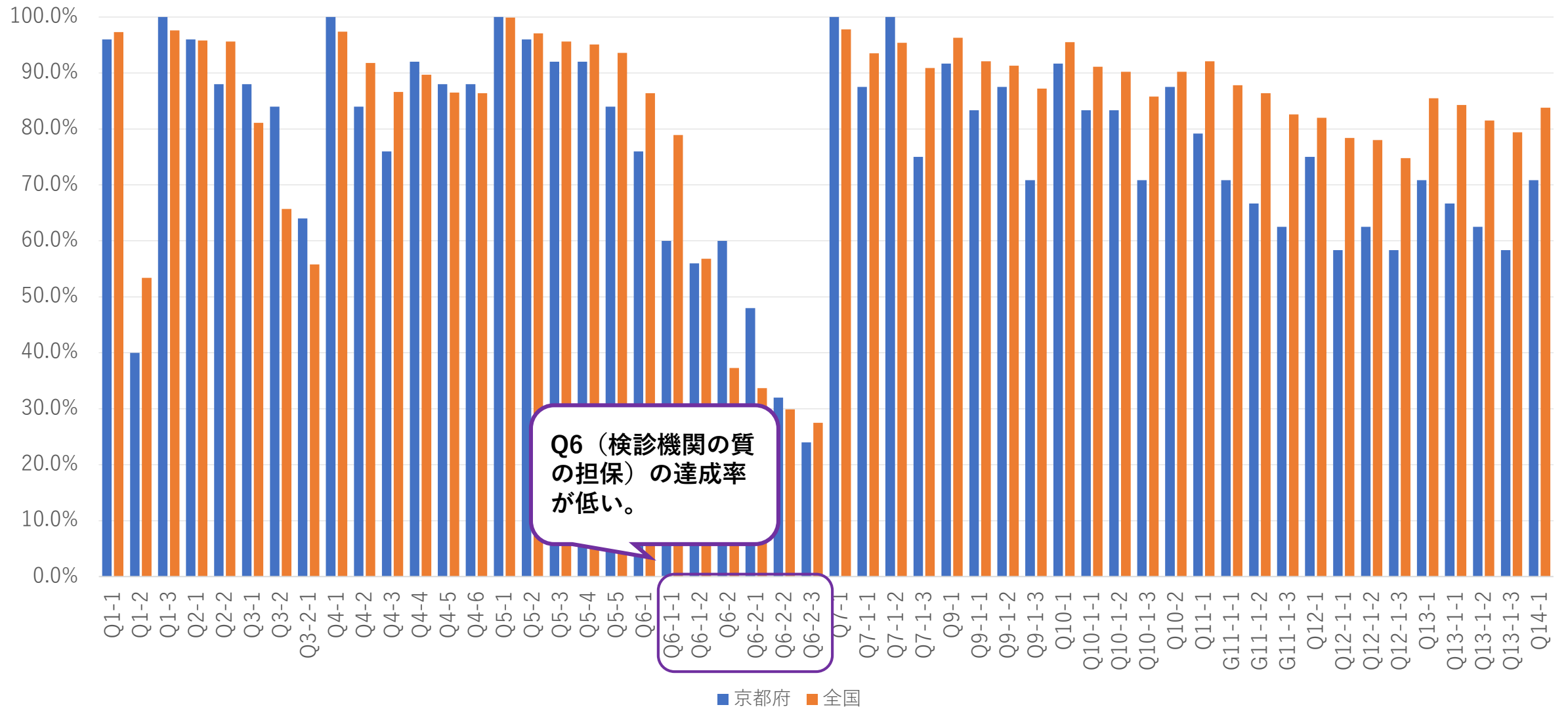
R4 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞胃がん・エックス線（集団）



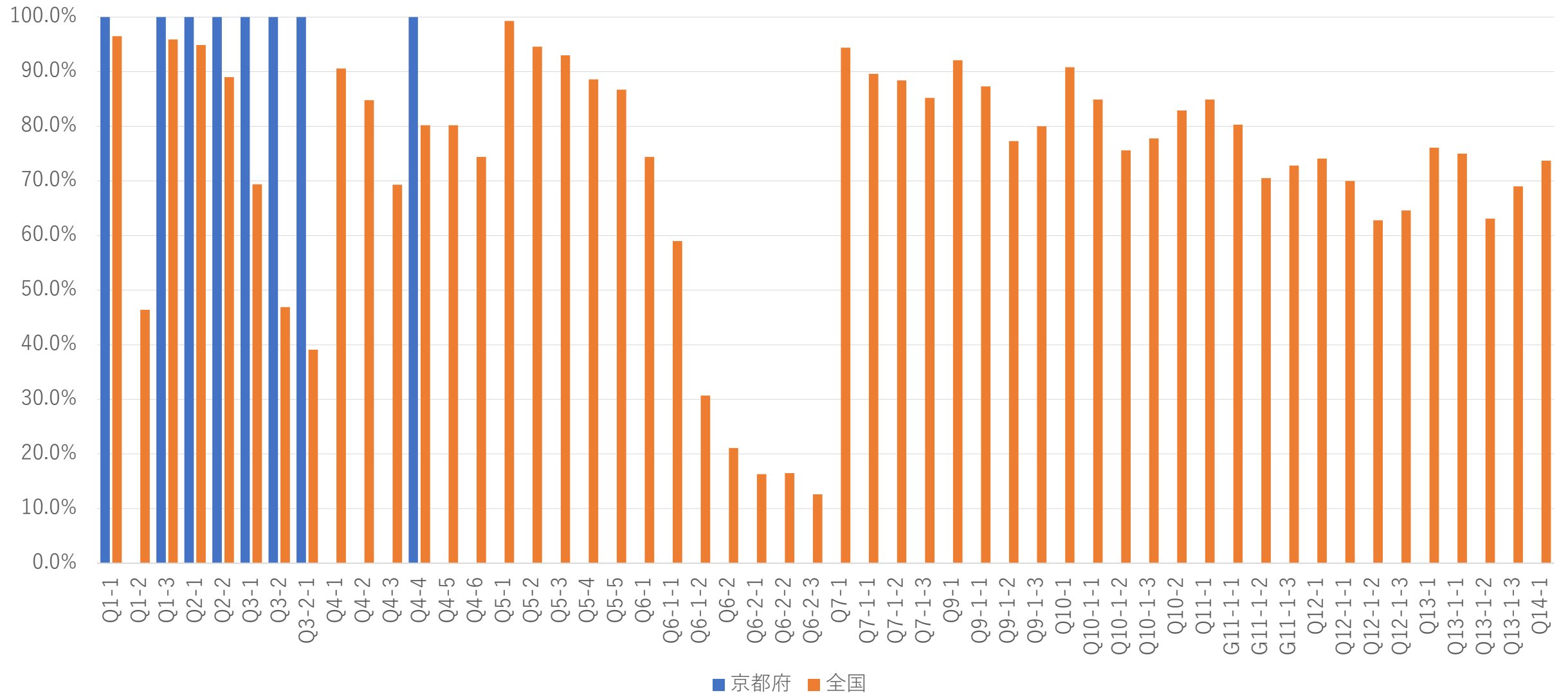
R4 市町村チェックリスト達成率<市町村別> 胃がん・エックス線 (個別)



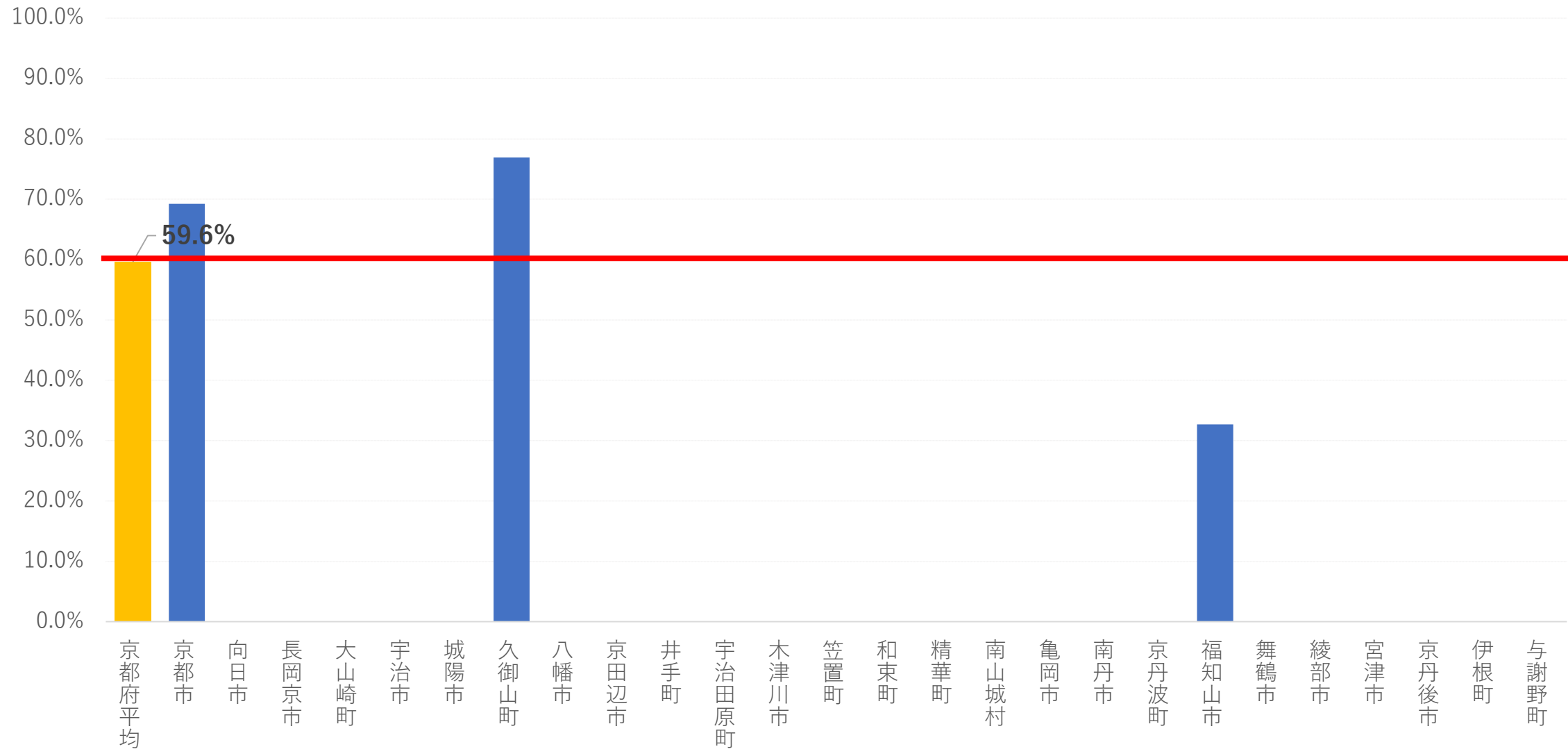
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>胃がん・エックス線（集団）



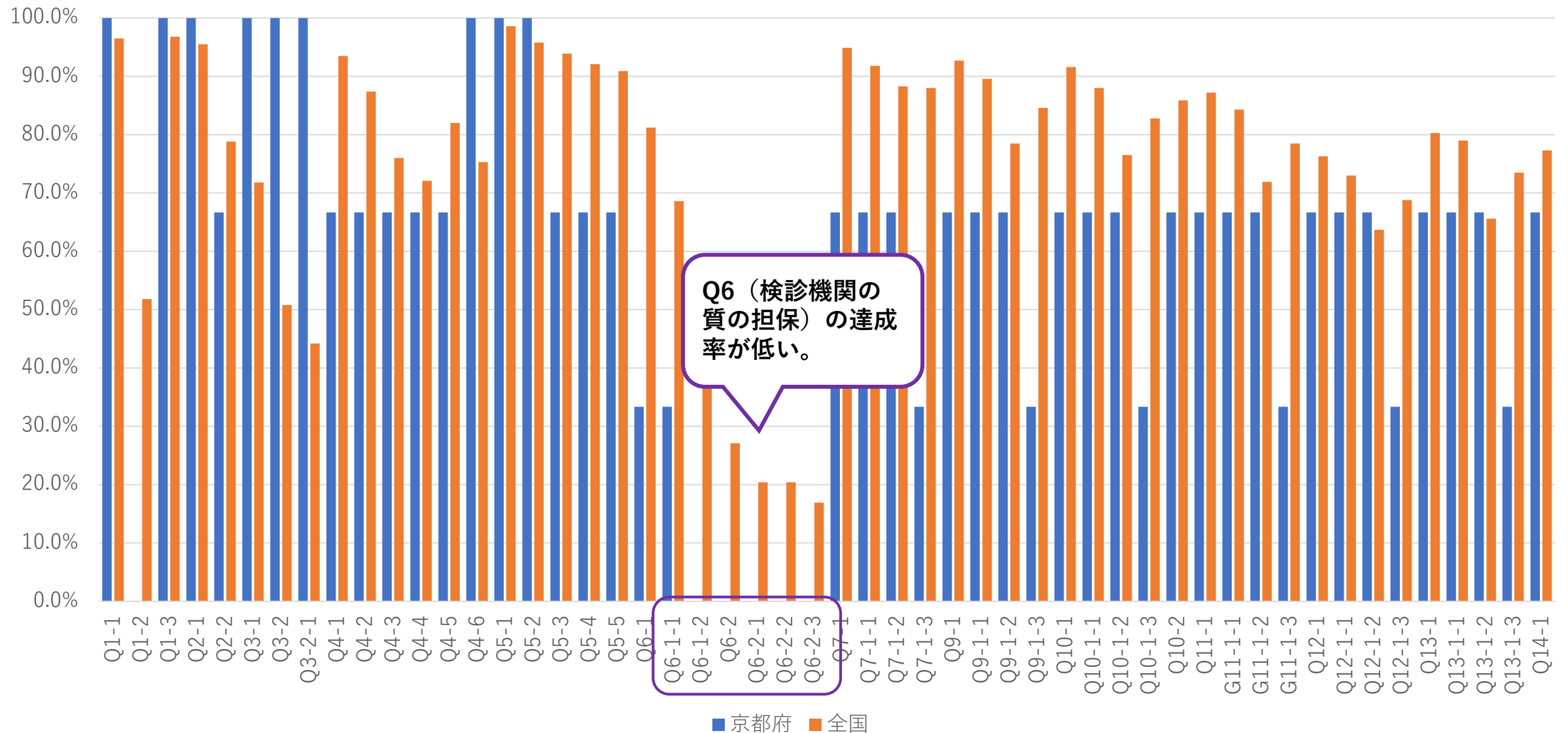
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>胃がん・エックス線（個別）



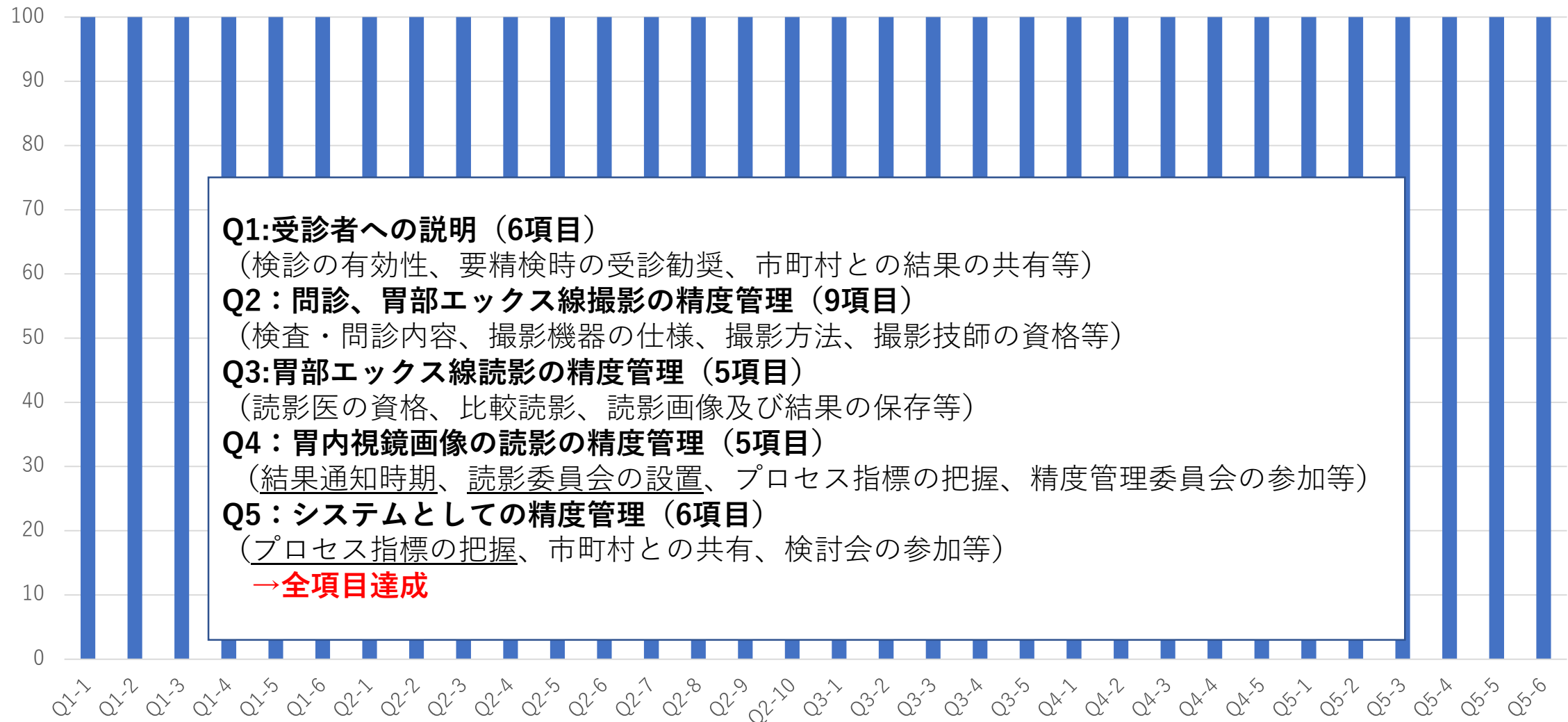
R4 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞胃がん・内視鏡検査（個別）



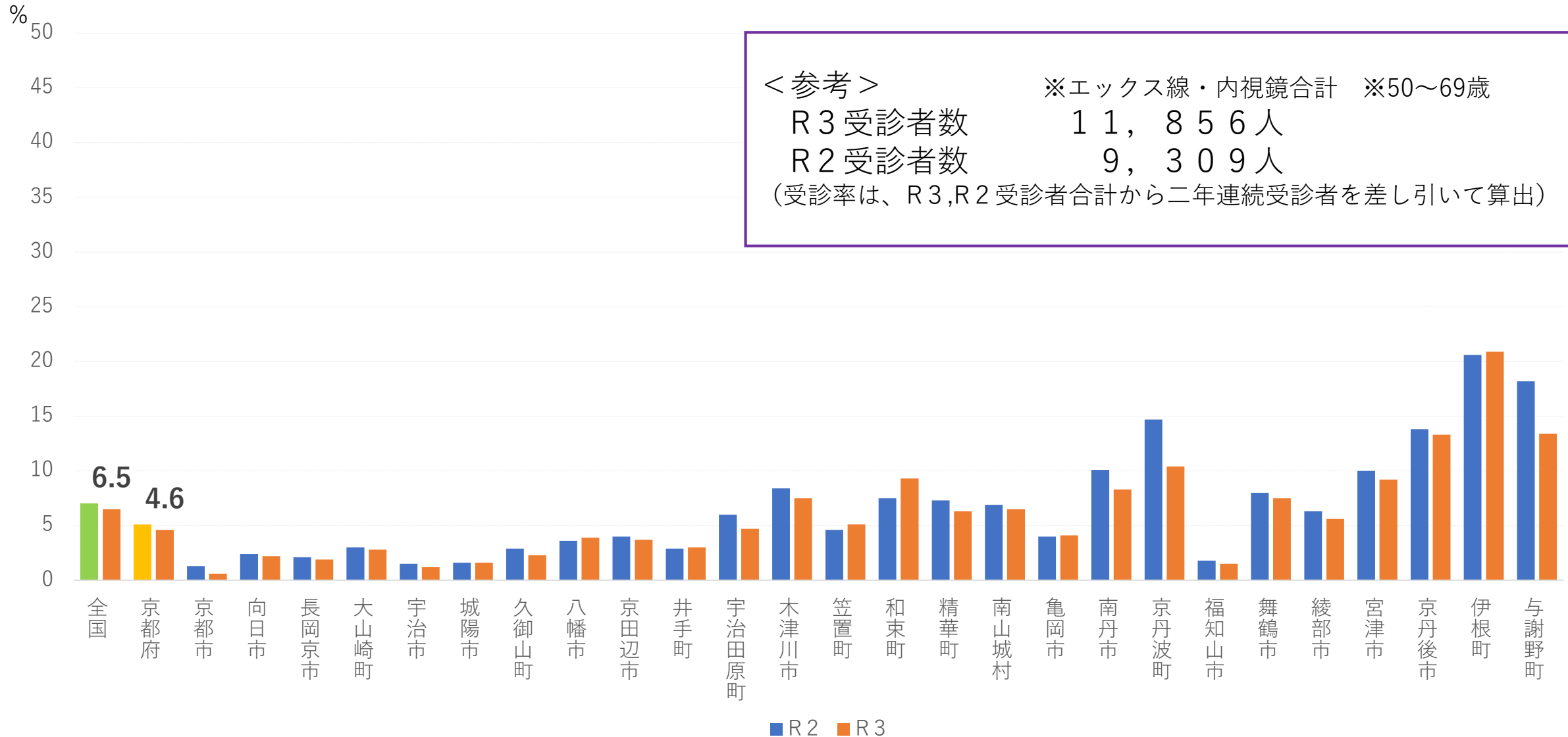
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>胃がん・内視鏡検査（個別）



R4 検診機関チェックリスト達成率<項目別> 胃がん検診



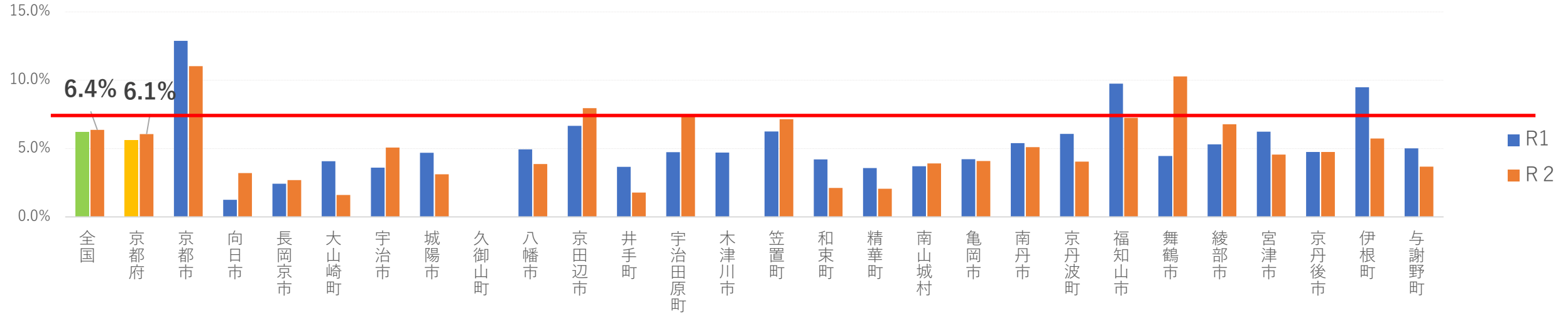
R3 胃がん検診（X線・内視鏡）受診率



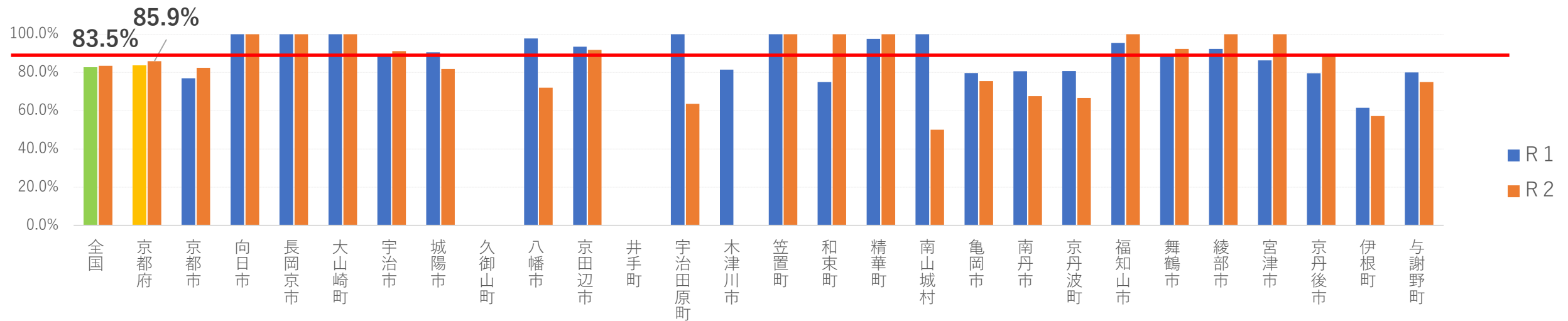
R2 胃がん検診（X線・集団）市町村プロセス指標①

(R2) 対象受診者数 13,111人 がん発見数 15人 ※50~74歳

要精検率（許容値7.6%以下）



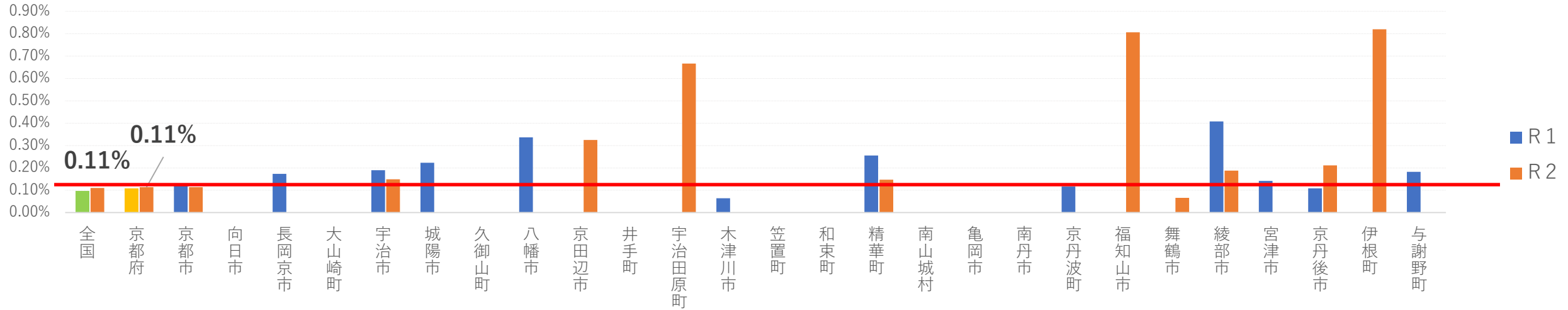
精検受診率（許容値90.0%以上）



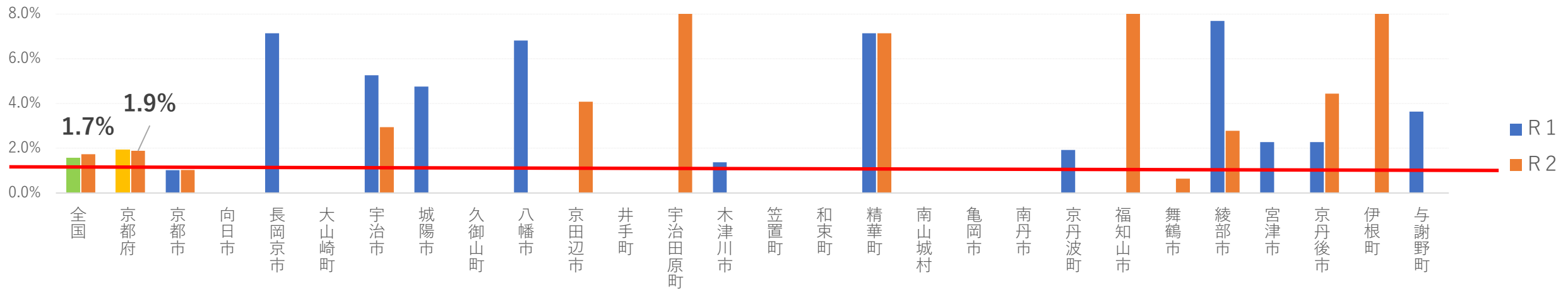
R2 胃がん検診（X線・集団）市町村プロセス指標②

(R2) 対象受診者数 13,111人 がん発見数 15人 ※50～74歳

がん発見率（許容値0.11%以上）



陽性反応適中度（許容値1.5%以上）



R2 胃がん検診（X線・個別）市町村プロセス指標①

要精検率（許容値7.6%以下）

(R2) 対象受診者数 0人 がん発見数 0人 ※50~74歳



精検受診率（許容値90.0%以上）



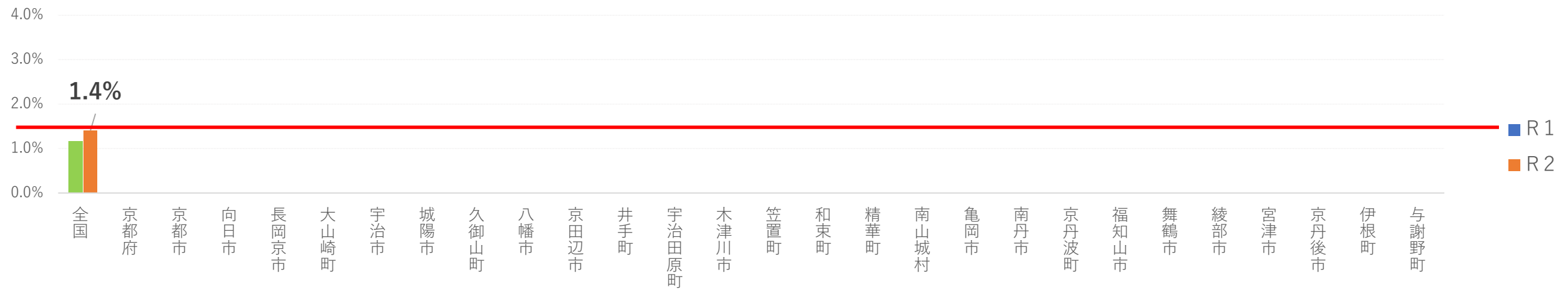
R2 胃がん検診（X線・個別）市町村プロセス指標②

がん発見率（許容値0.11%以上）

(R2) 対象受診者数 0人 がん発見数 0人 ※50~74歳



陽性反応適中度（許容値1.5%以上）



R2 胃がん検診（内視鏡検査・個別）市町村プロセス指標①

(R2) 対象受診者数 925人 がん発見数 4人 ※50~74歳

要精検率（許容値7.7%以下）



精検受診率（許容値90.0%以上）



R2 胃がん検診（内視鏡検査・個別）市町村プロセス指標②

(R2) 対象受診者数 925人 がん発見数 4人 ※50～74歳

がん発見率（許容値0.19%以上）

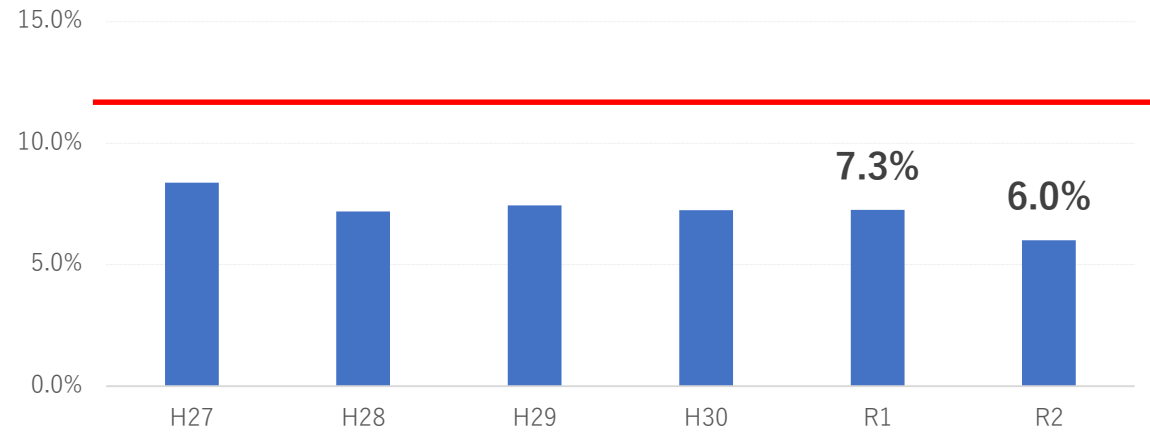


陽性反応適中度（許容値2.5%以上）

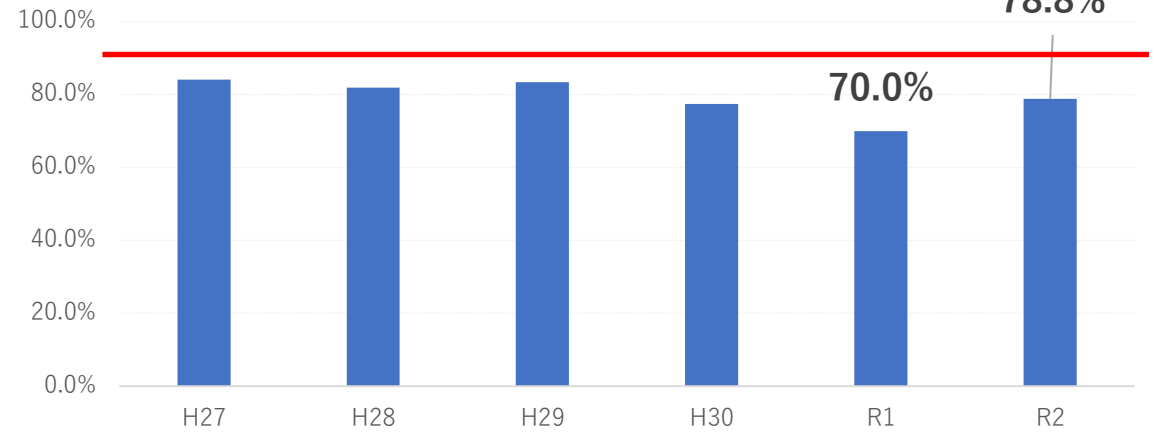


R2 胃がん検診（X線・集団） 検診機関プロセス指標（A機関・全年齢）

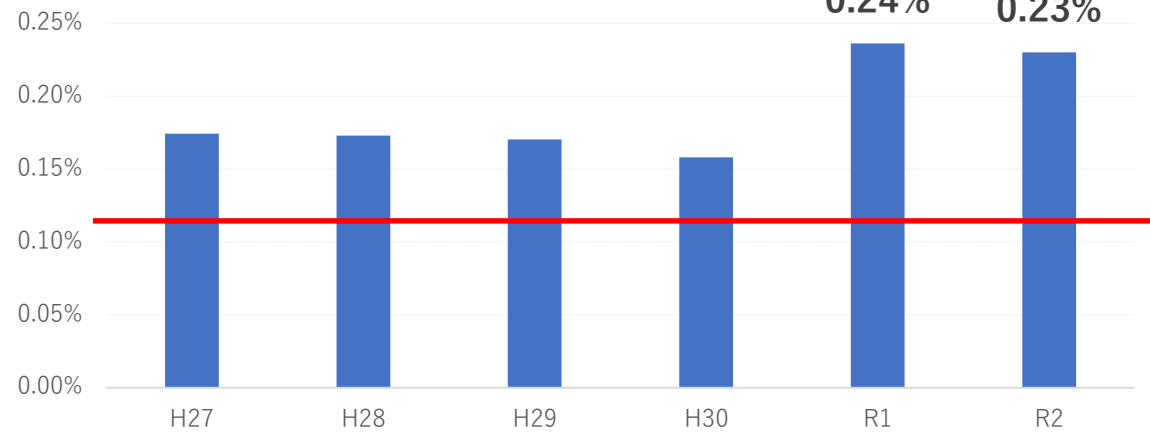
要精検率（許容値7.6%以下）



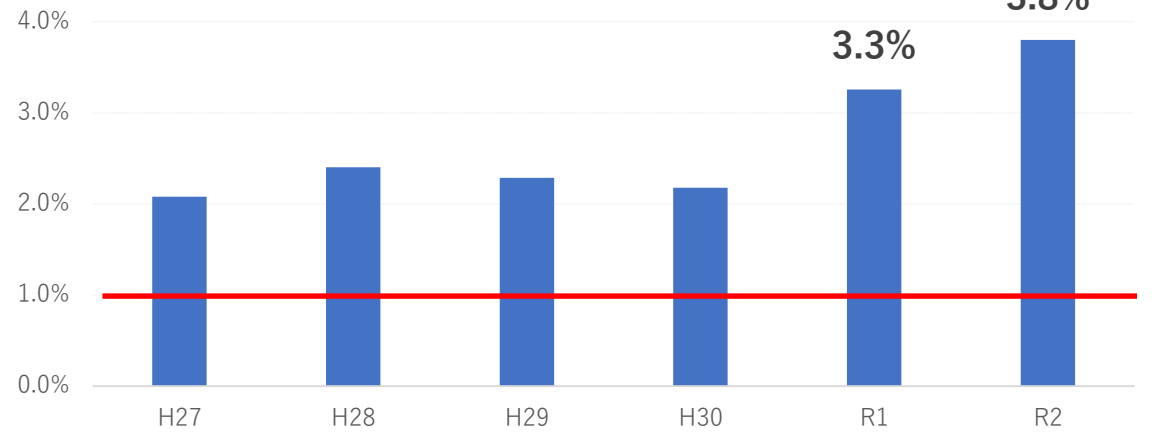
精検受診率（許容値90.0%以上）



がん発見率（0.11%以上）

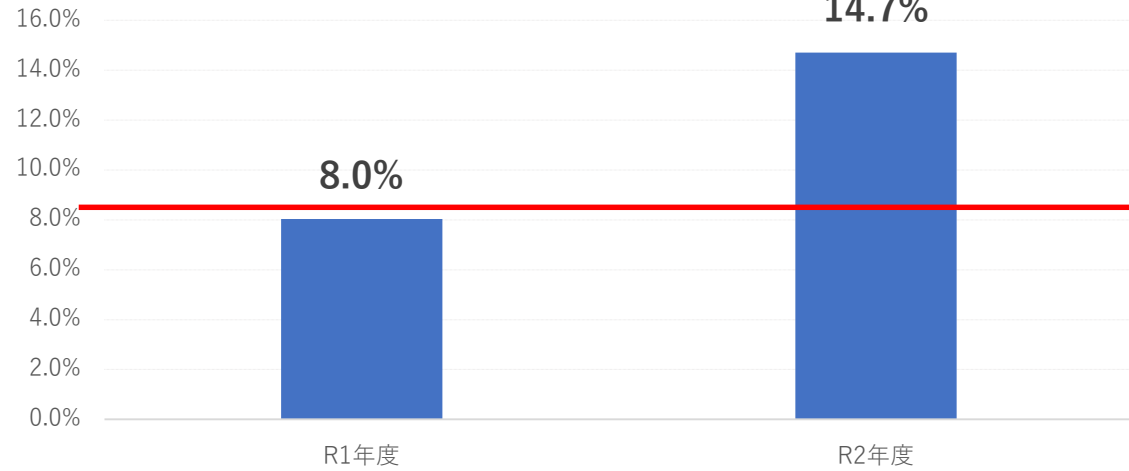


陽性反応適中度（許容値1.5%以上）

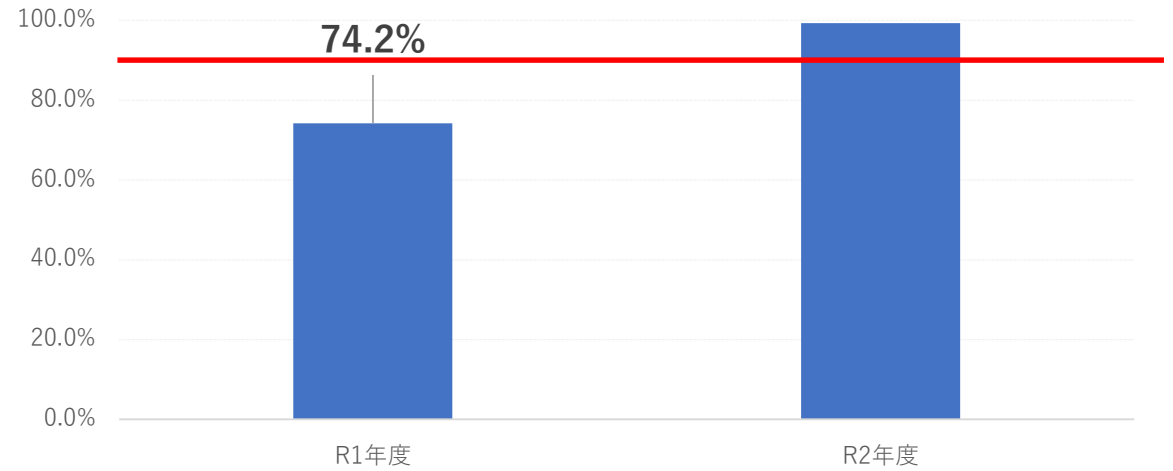


R2 胃がん検診（内視鏡・個別） 検診機関プロセス指標（D機関・全年齢）

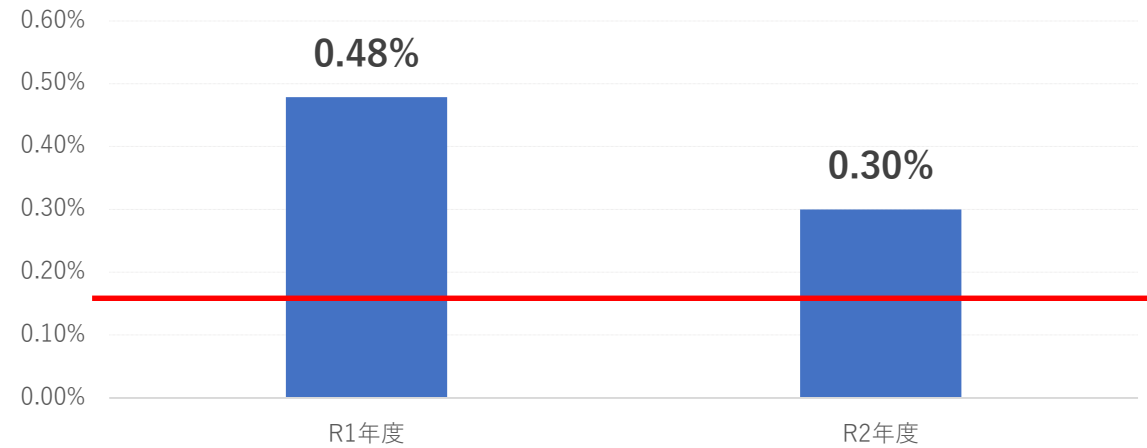
要精検率（許容値7.6%以下）



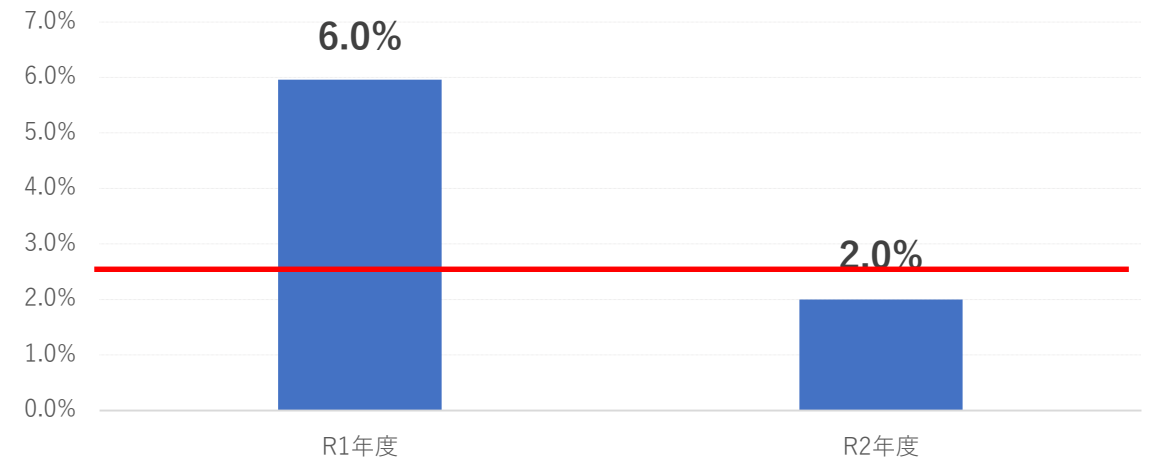
精検受診率（許容値90.0%以上）



がん発見率（許容値0.19%以上）



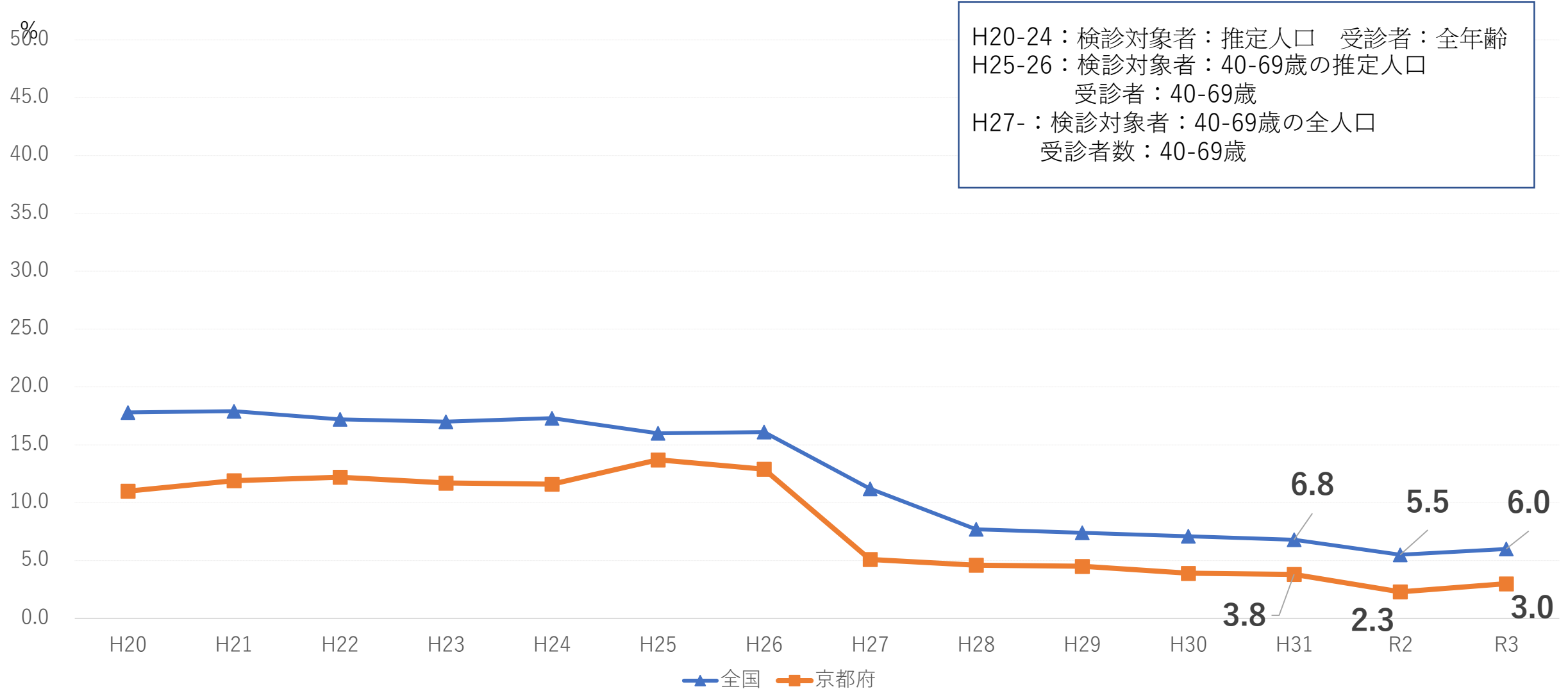
陽性反応適中度（2.5%以上）



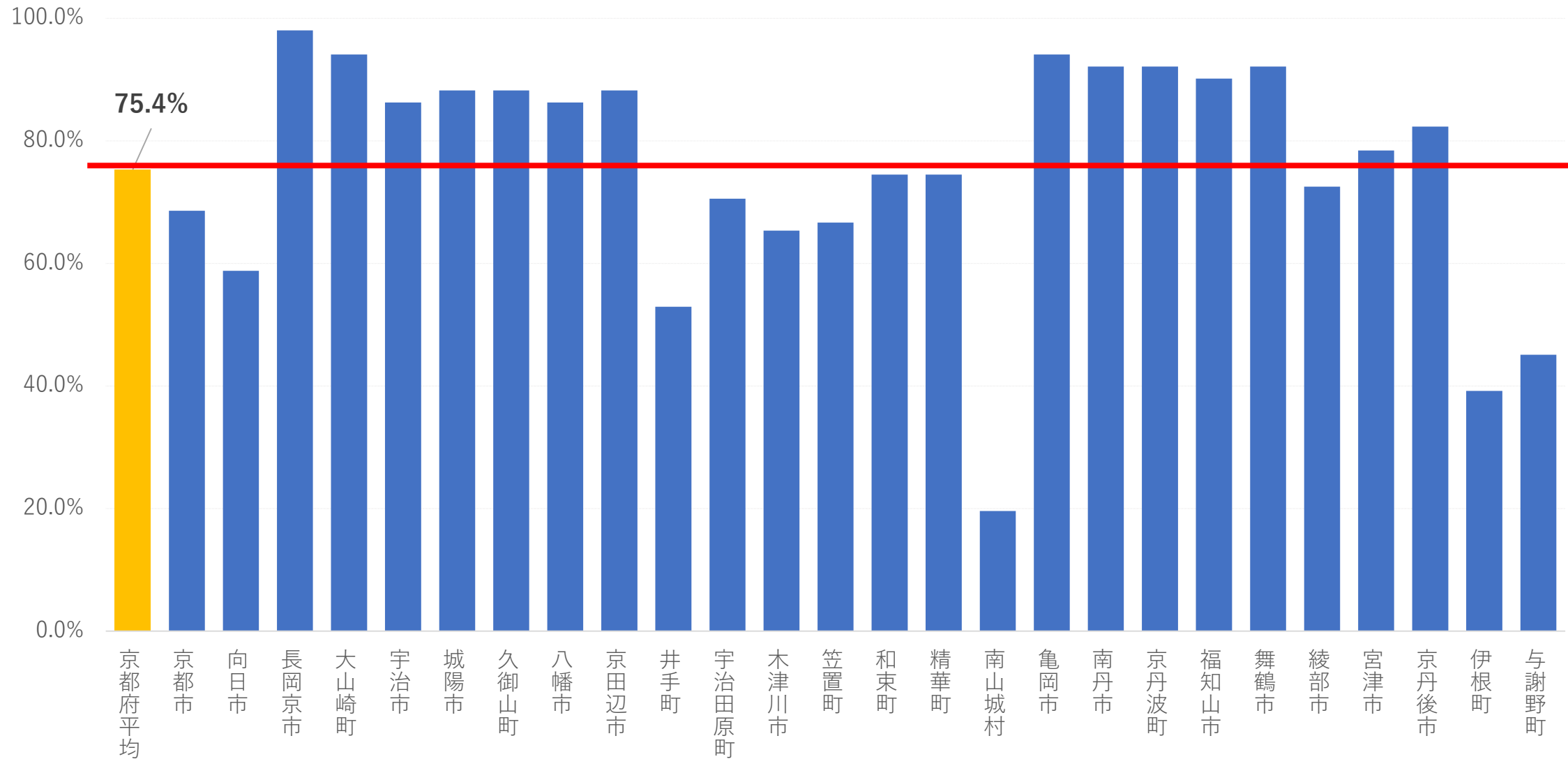
肺がん検診

項目	内容
対象者	40歳以上
検診間隔	1年に1回
検診項目	質問（医師が自ら対面により行う場合は問診）、胸部X線検査および喀痰細胞診（ただし喀痰細胞診は、原則50歳以上で喫煙指数が600以上の人のみ。過去の喫煙者も含む）
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況（R5年度）	◆集団方式 26市町村 ◆個別方式 0
R2年度 受診者数とがん発見数（40～74歳）	集団方式（受診者数 33,954人 、がん発見数 9人 ）

肺がん検診 受診率推移



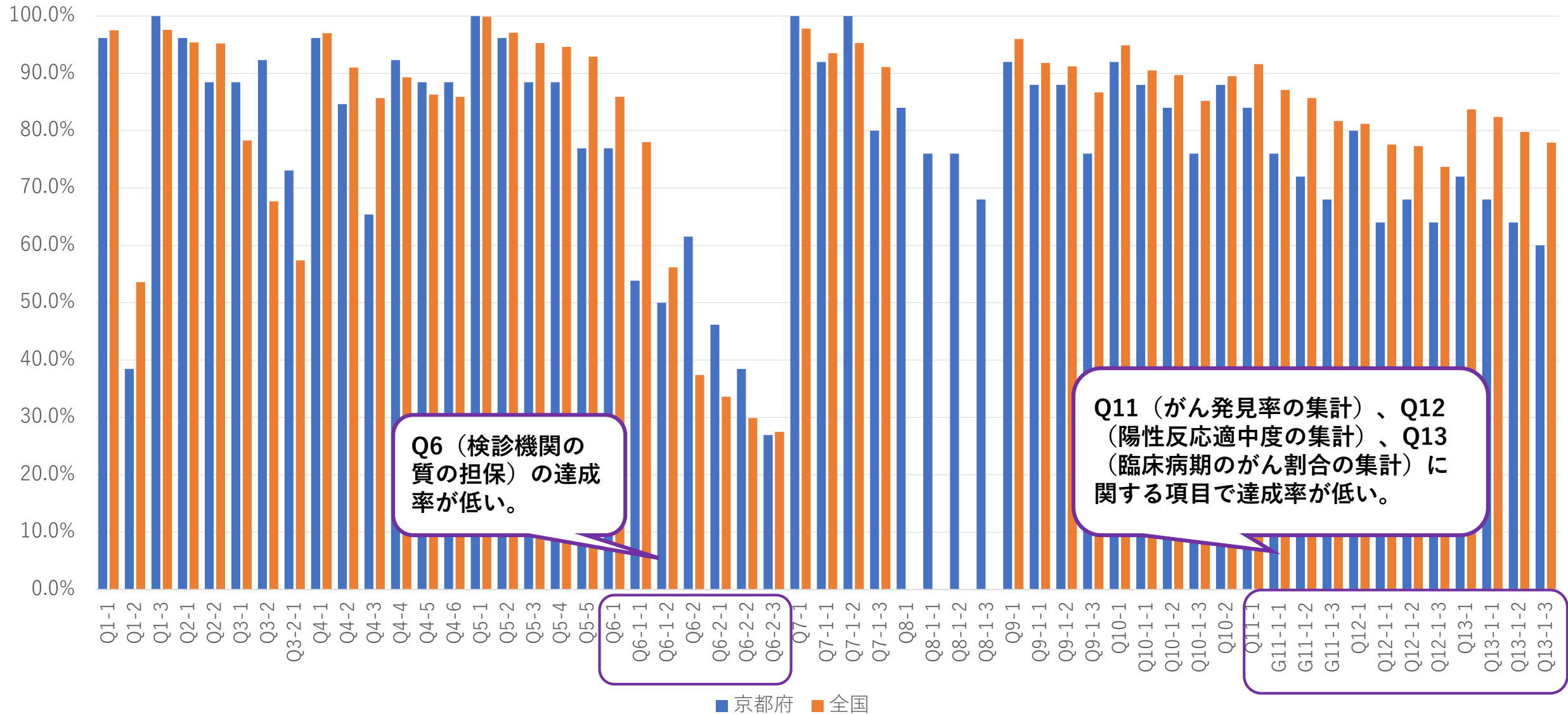
R4 市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞肺がん（集団）



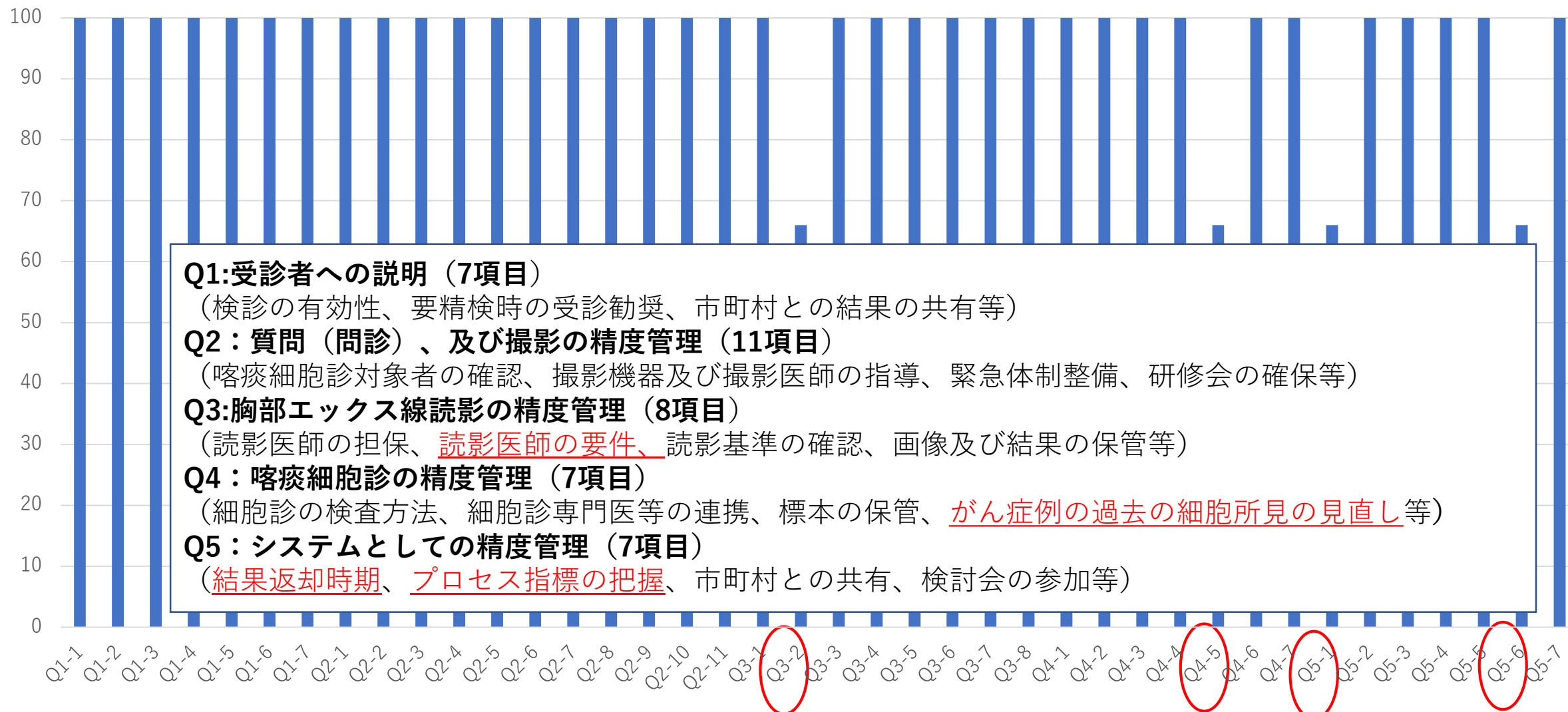
＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査 R4:N=26 R2:N=25

※参考資料集4 P31

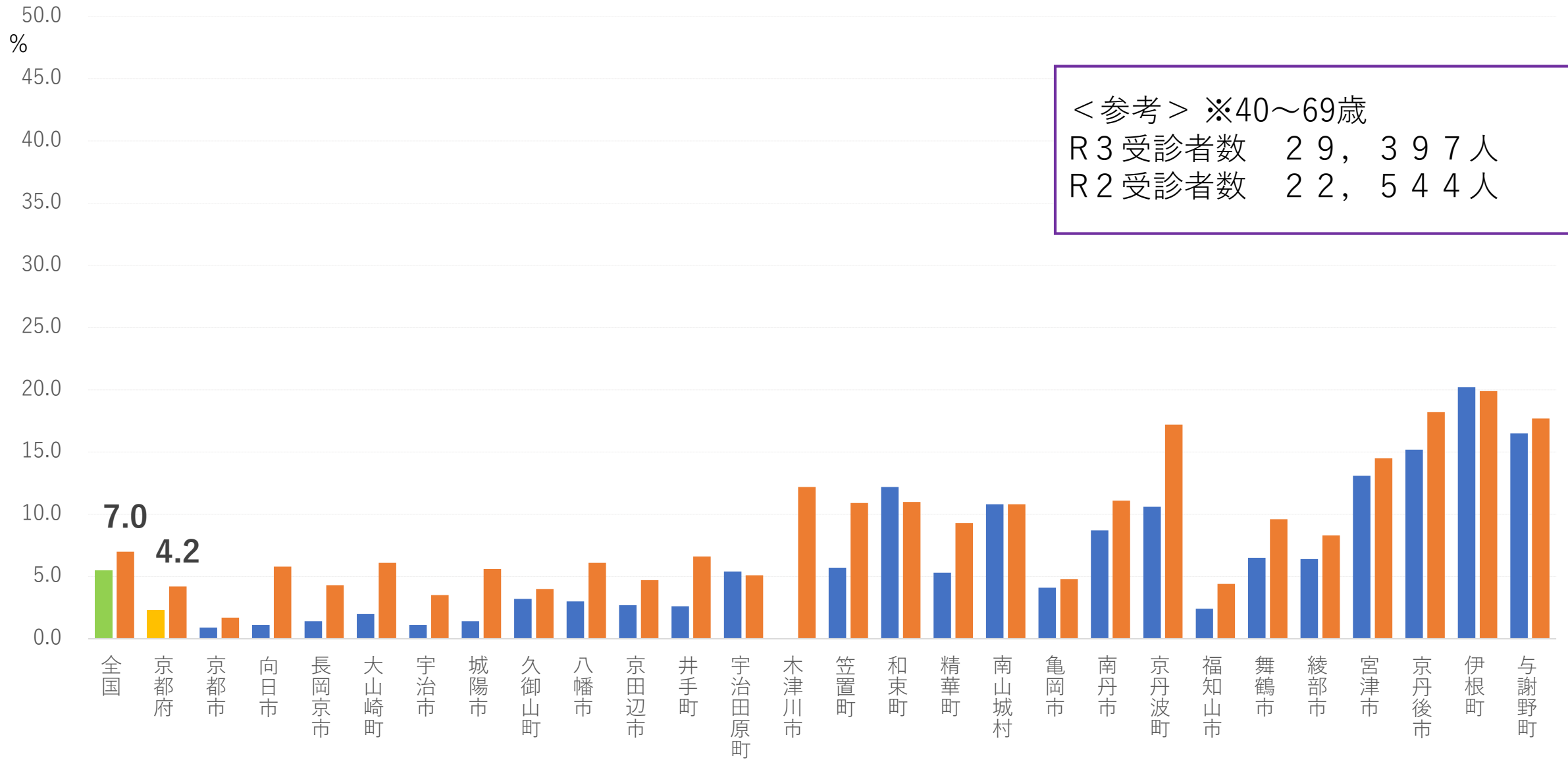
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>肺がん（集団）



R4 検診機関チェックリスト達成率<項目別>肺がん検診



R3 肺がん検診受診率



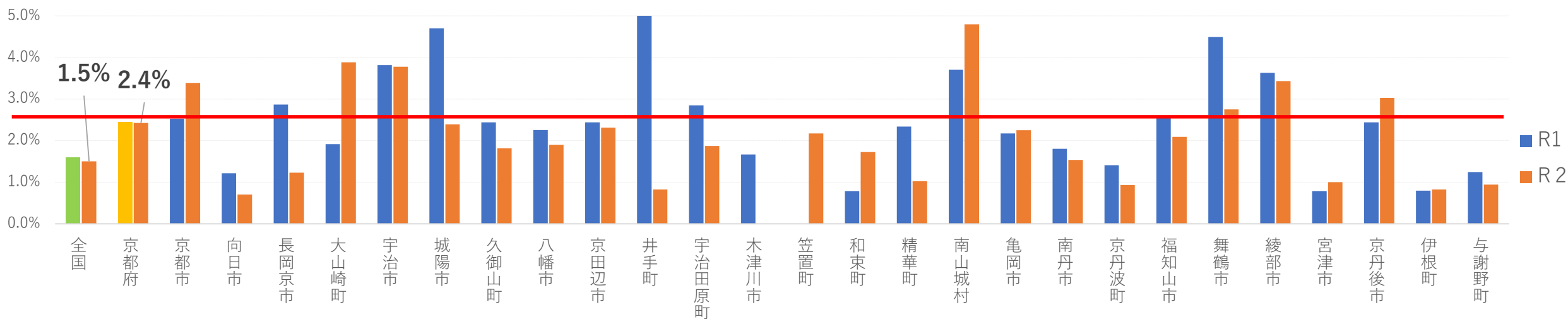
<参考> ※40~69歳
 R3 受診者数 29,397人
 R2 受診者数 22,544人

R2肺がん検診（集団）

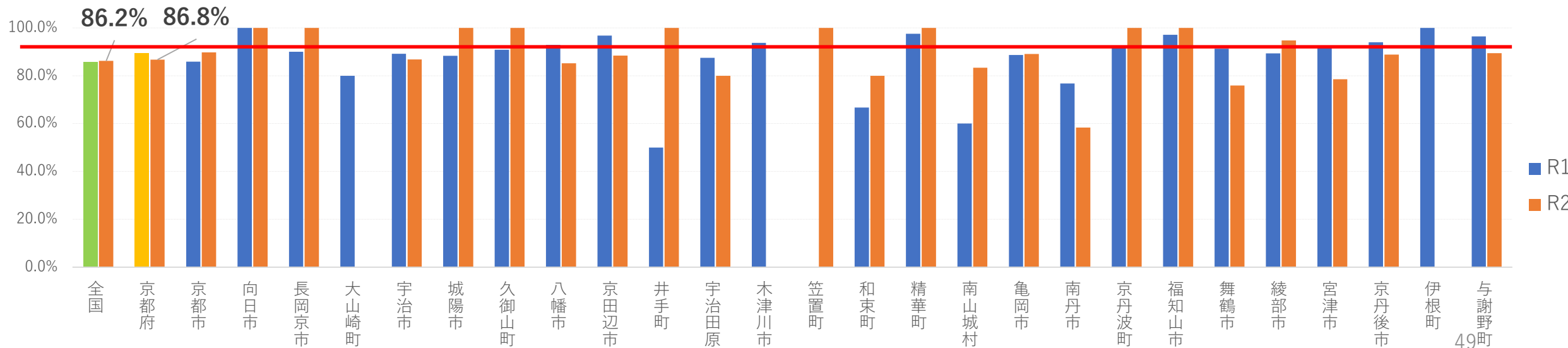
市町村プロセス指標①

要精検率（許容値2.4又は2.3%以下）

(R2) 対象受診者数 33,954人 がん発見数 9人 ※40~74歳



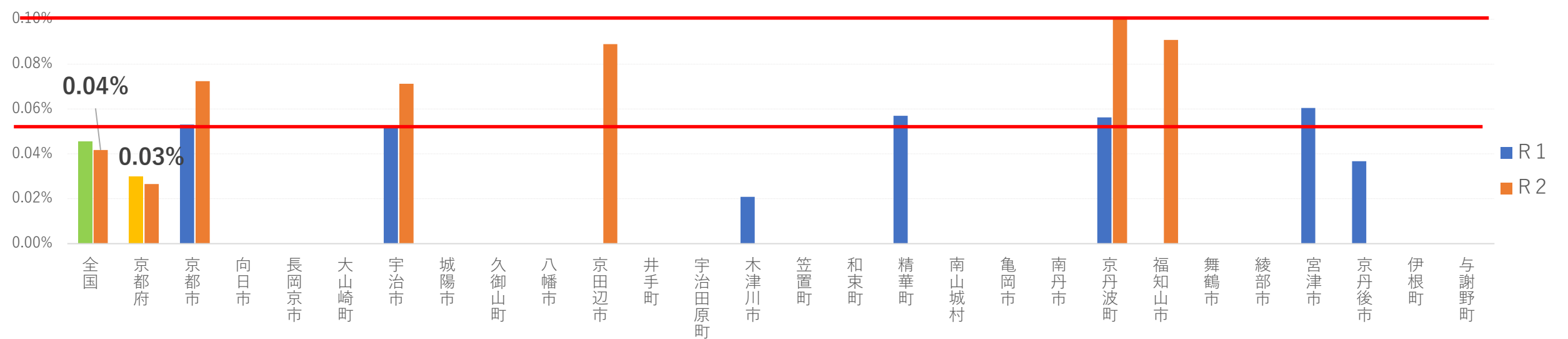
精検受診率（許容値90.0%以上）



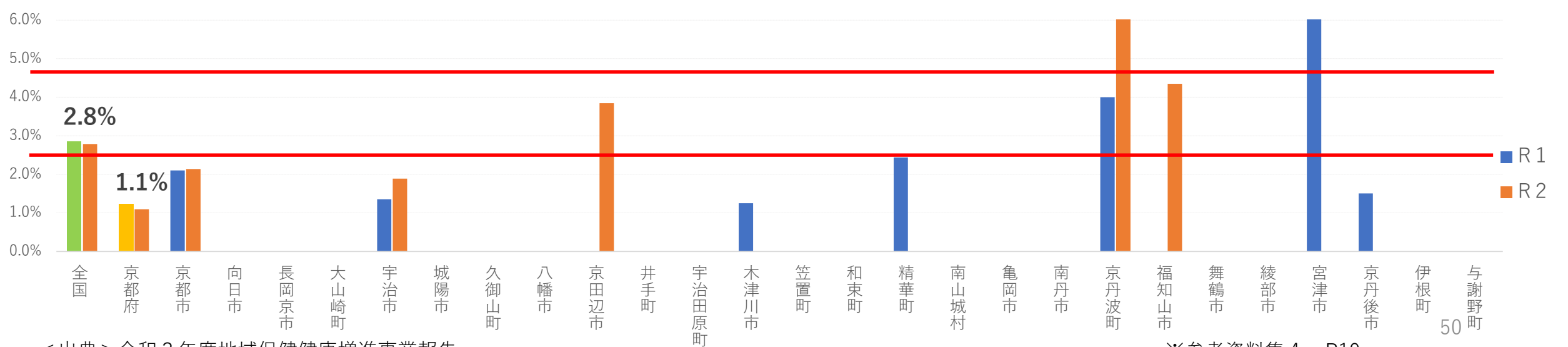
R2肺がん検診（集団） 市町村プロセス指標②

がん発見率（許容値0.10%又は0.05%以上）

(R2) 対象受診者数 33,954人 がん発見数 9人 ※40~74歳

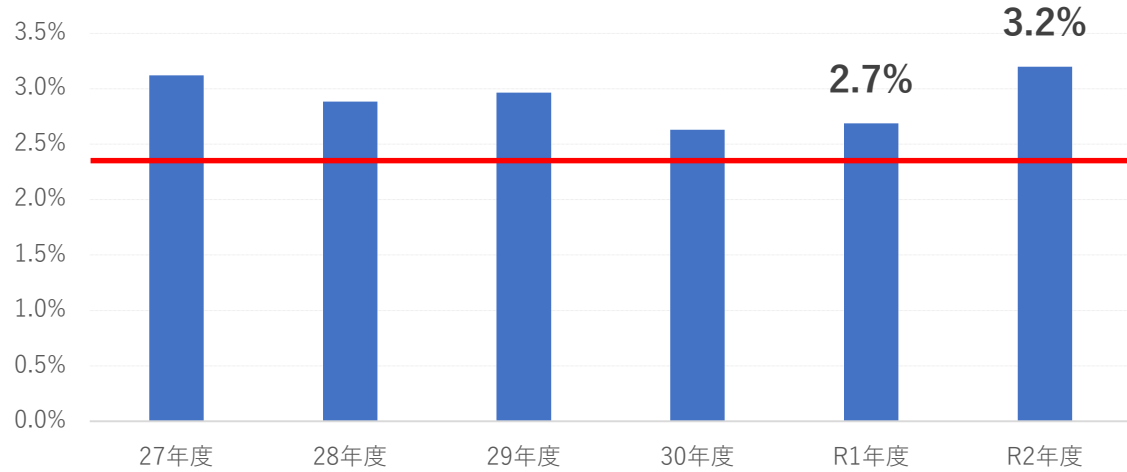


陽性反応適中度（許容値4.1%又は2.2%以上）

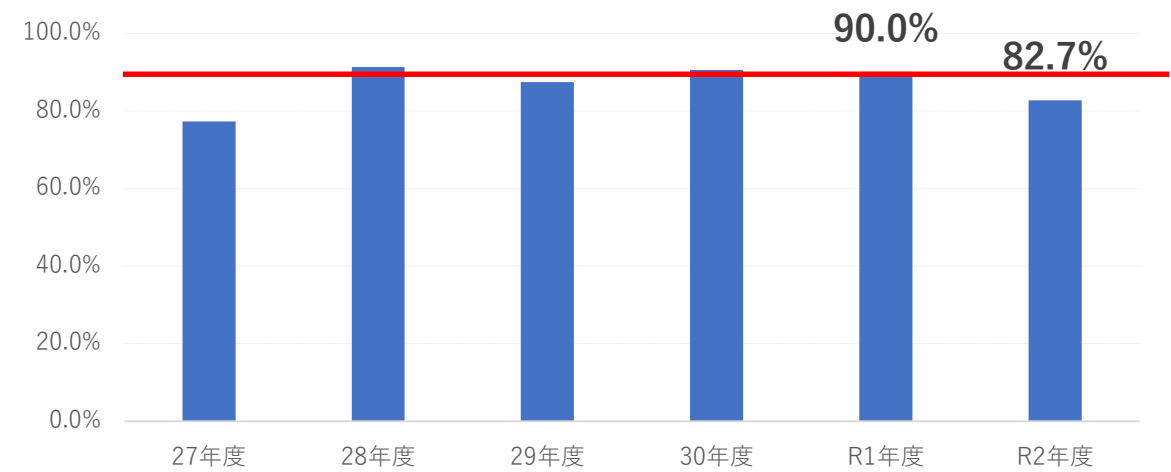


R2肺がん検診 検診機関プロセス指標（A機関・全年齢）

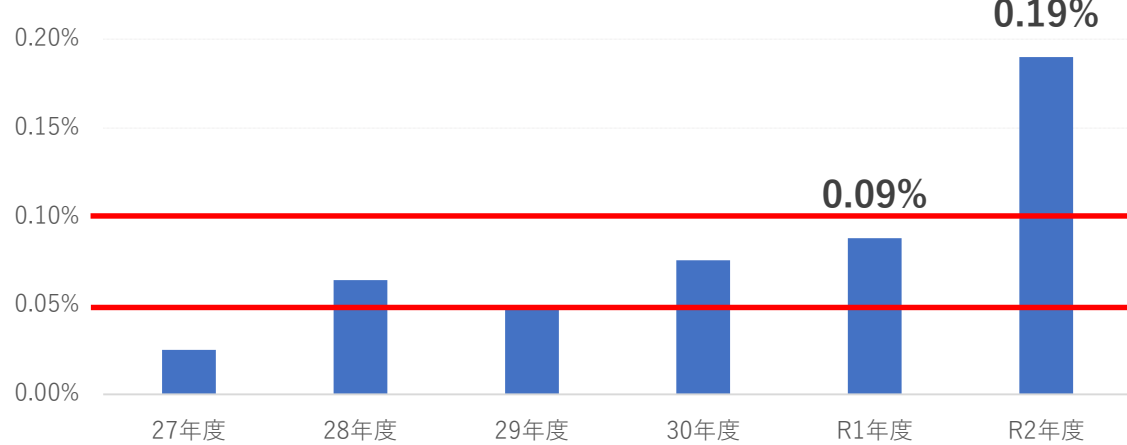
要精検率（許容値2.4%又は2.3%以下）



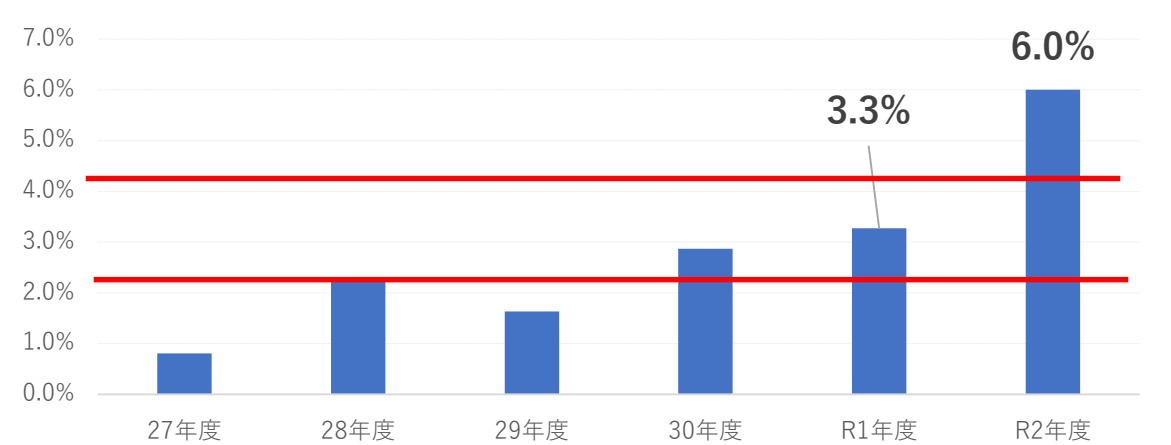
精検受診率（許容値90.0%以上）



がん発見率（許容値0.10%又は0.05%以上）



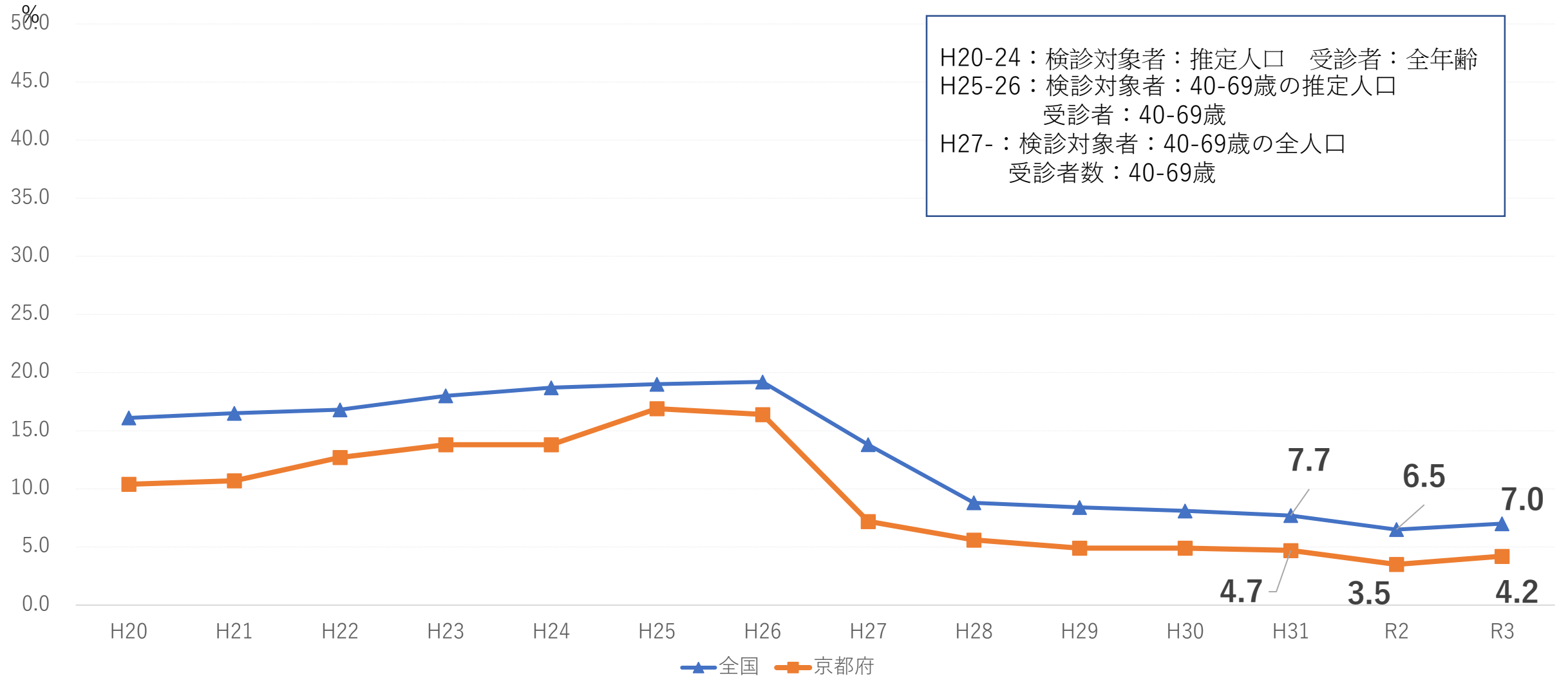
陽性反応適中度（許容値4.1%又は2.2%以上）



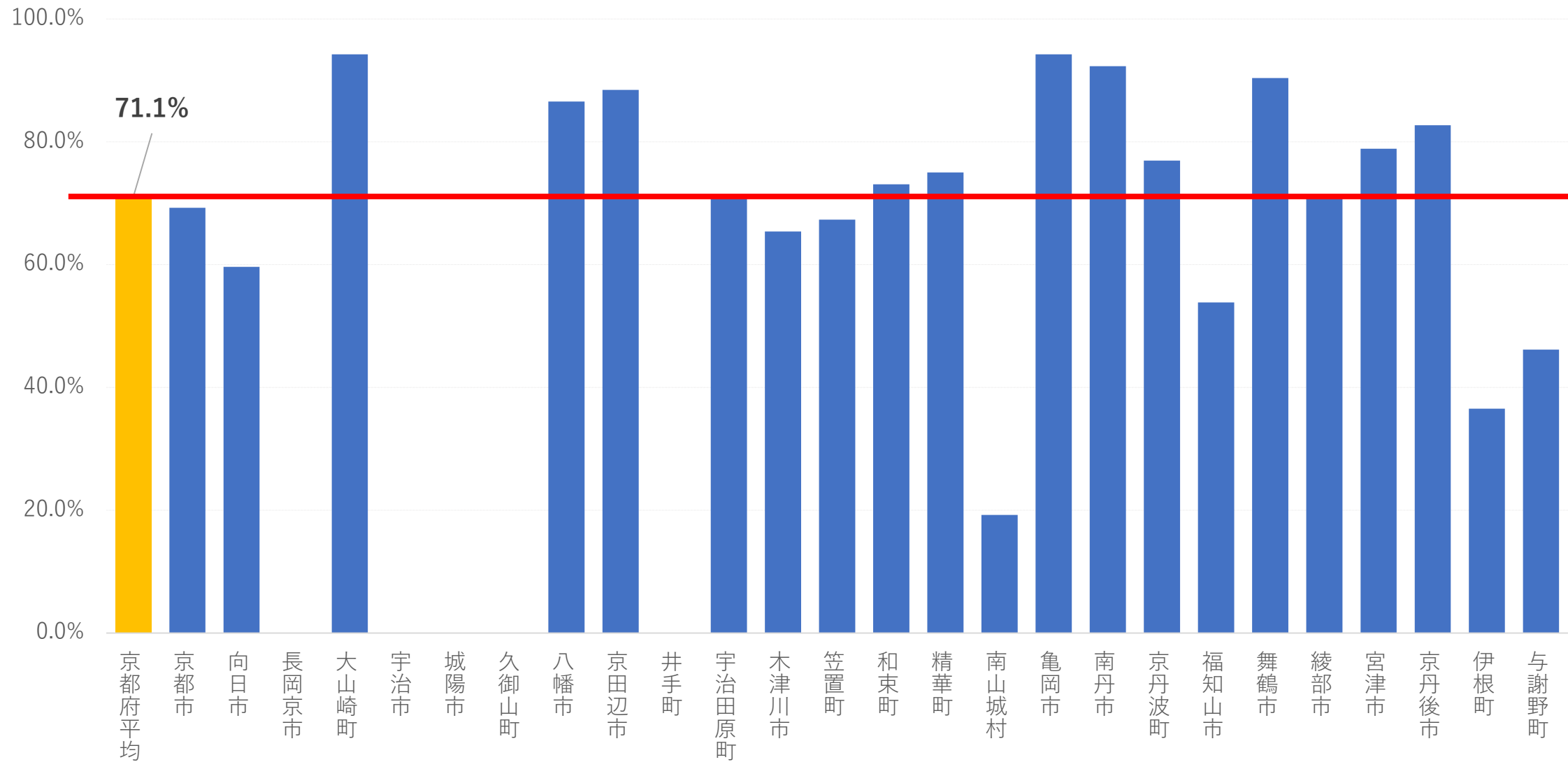
大腸がん検診

項目	内容
対象者	40歳以上
検診間隔	1年に1回
検診項目	問診及び便潜血検査（2日法）
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況 （R5年度）	◆集団方式 20市町村 ◆個別方式 16市町村
R2年度 受診者数とがん発見数 （40～74歳）	集団方式（受診者数 29,305人 、がん発見数 58人 ） 個別方式（受診者数 25,214人 、がん発見数 68人 ）

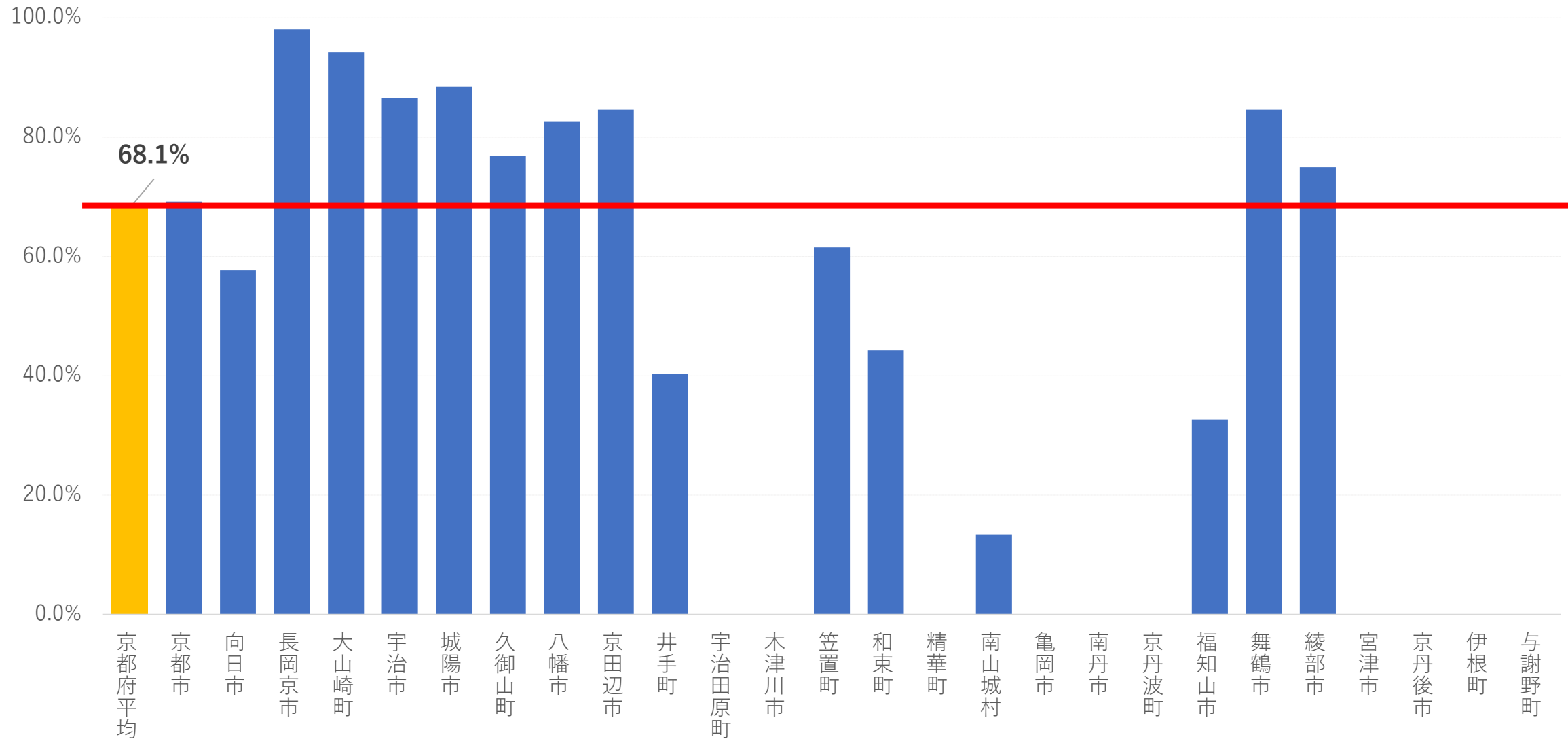
大腸がん検診 受診率推移



市町村チェックリスト達成率<市町村別>大腸がん（集団）



市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞大腸がん（個別）

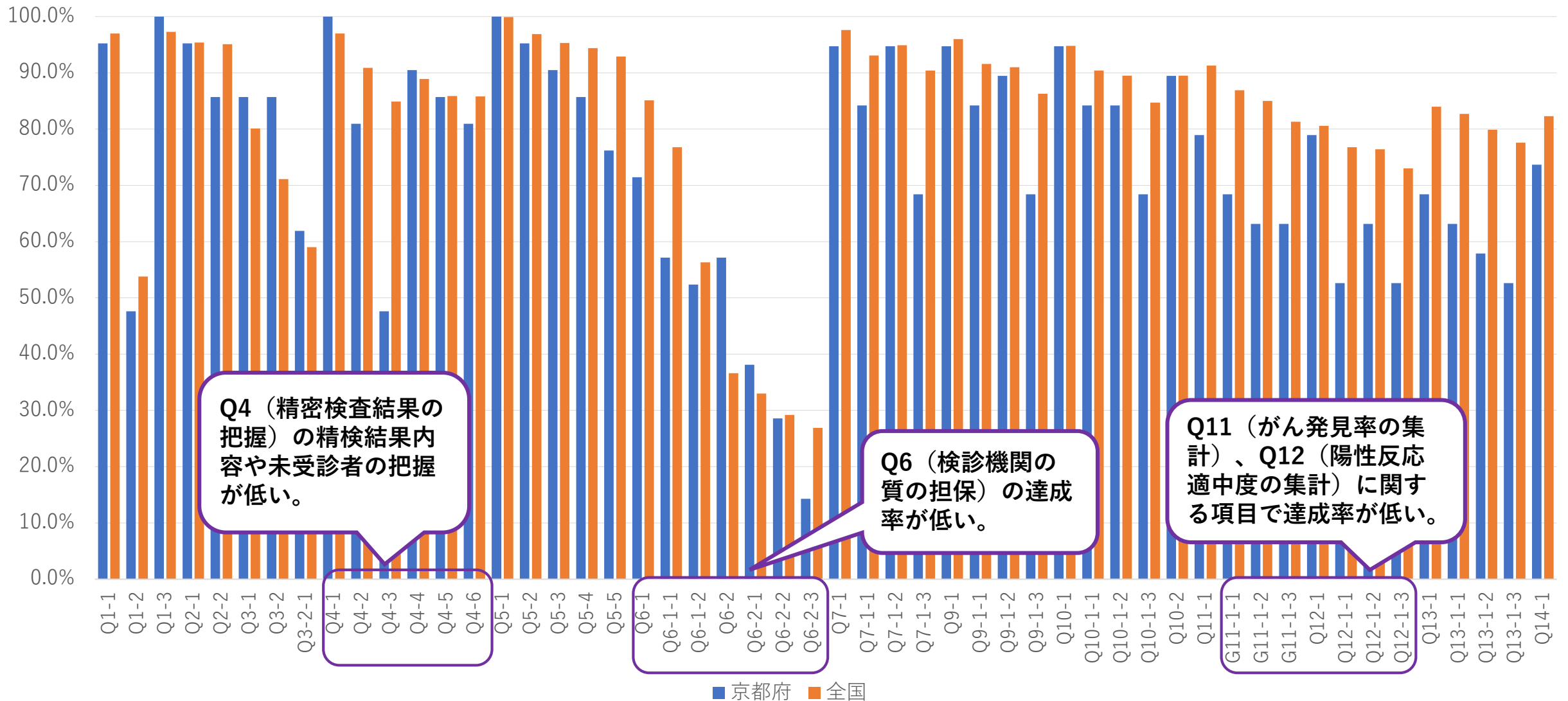


＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査

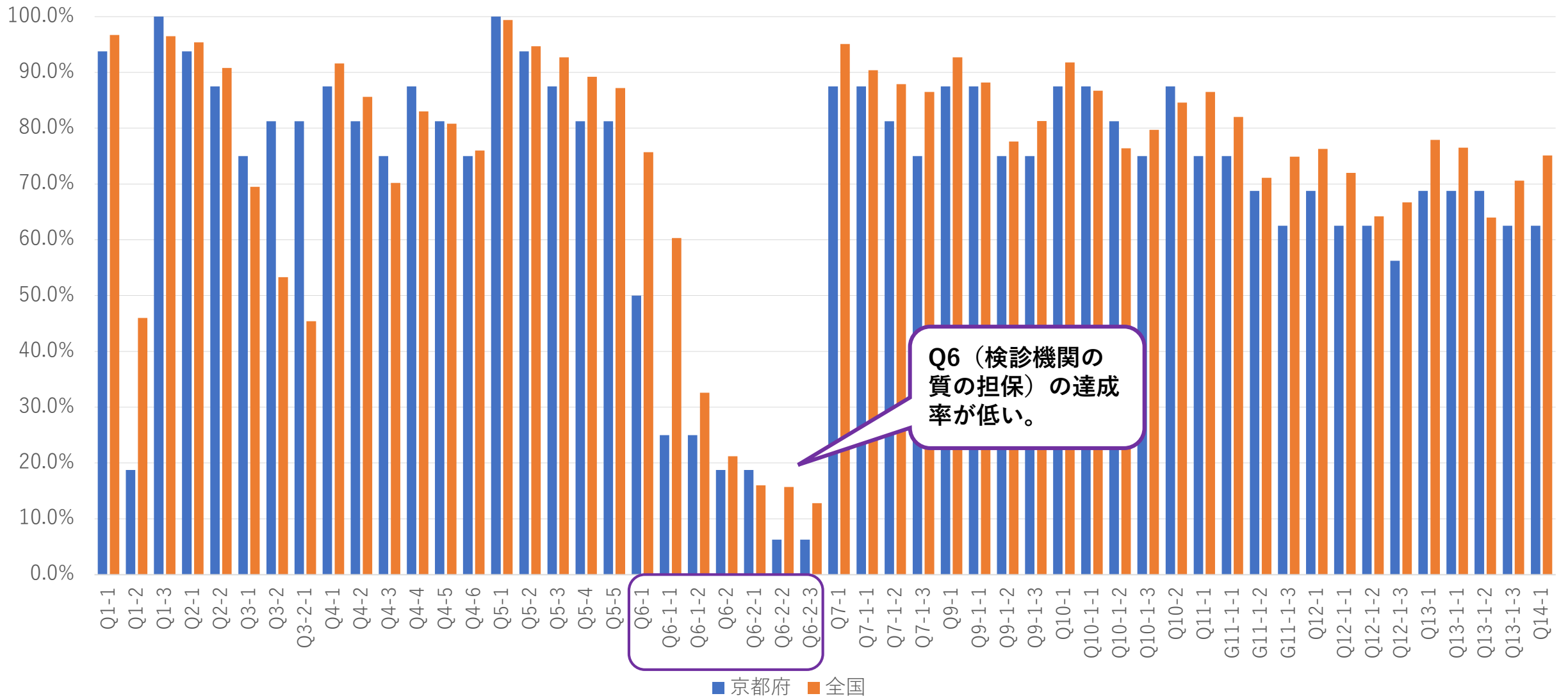
R4 : N=26 R2 : N=25

※参考資料集4 P31

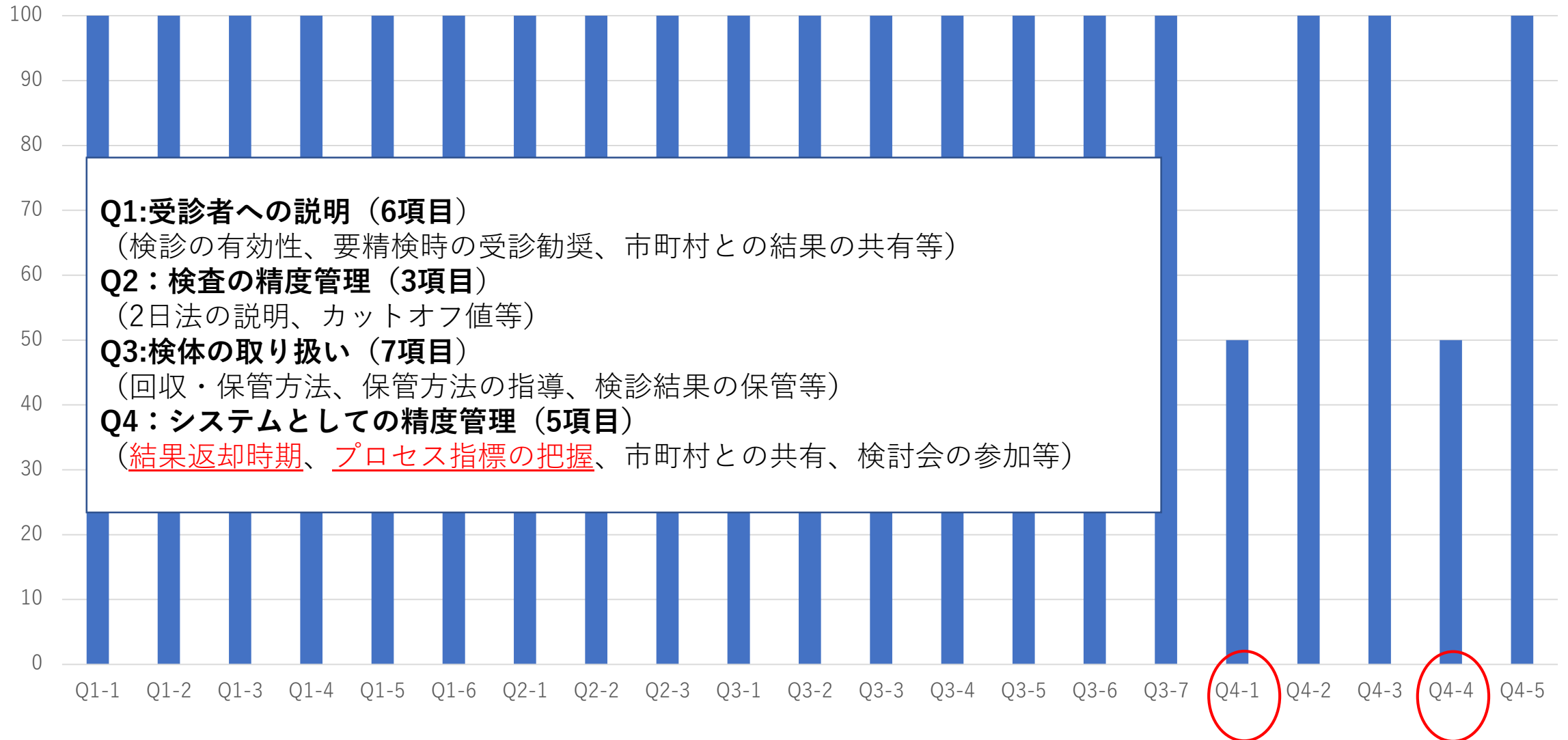
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>大腸がん（集団）



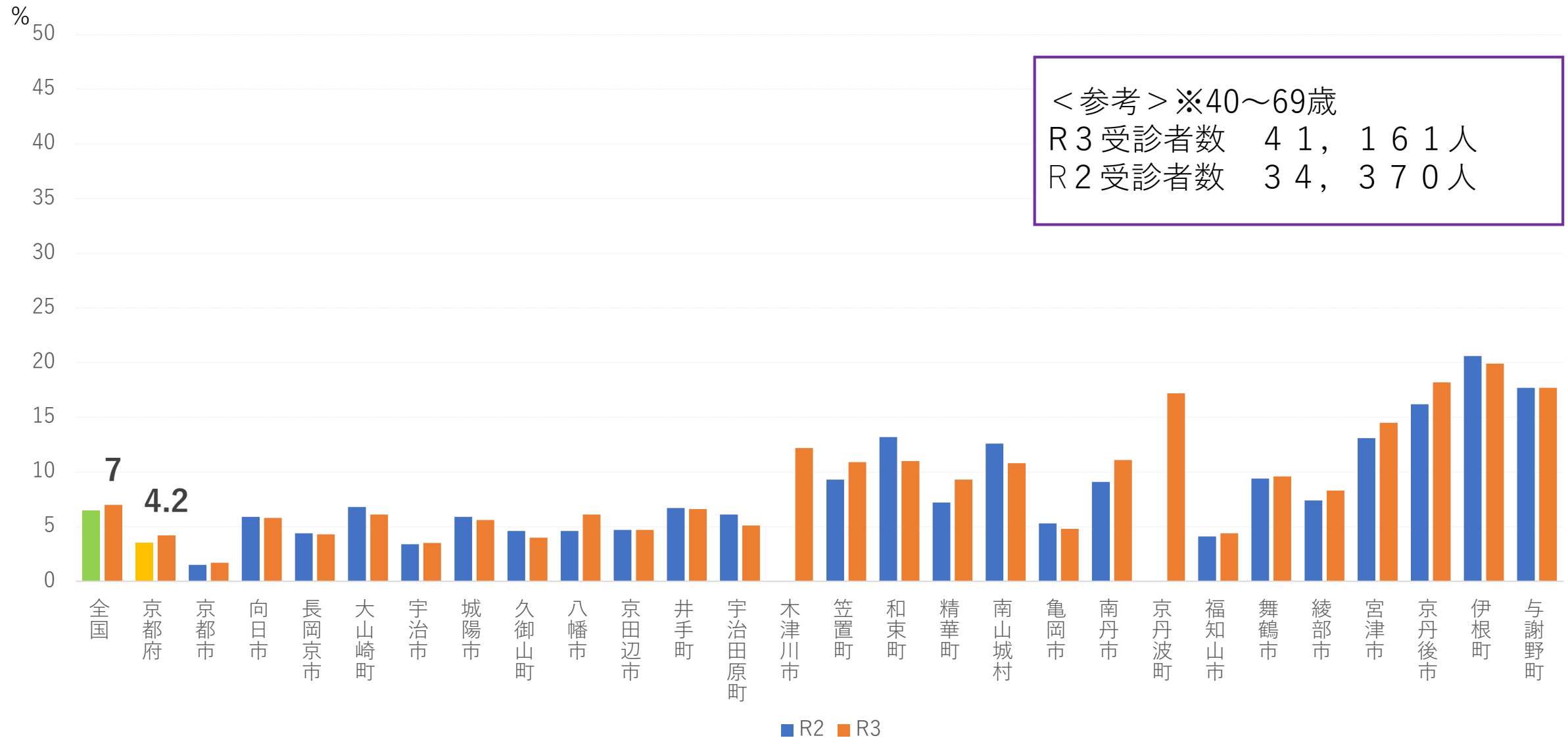
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>大腸がん（個別）



R4 検診機関チェックリスト達成率<項目別>大腸がん検診

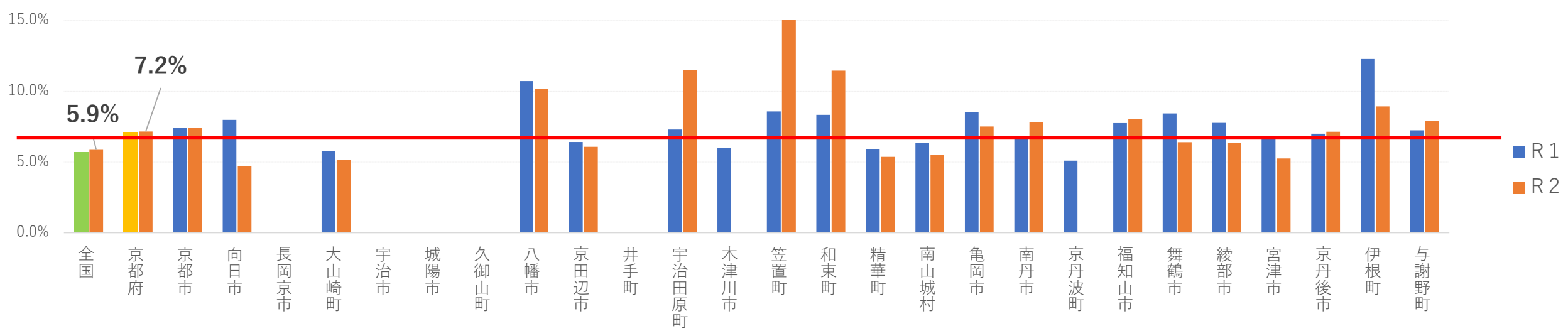


R3 大腸がん検診受診率

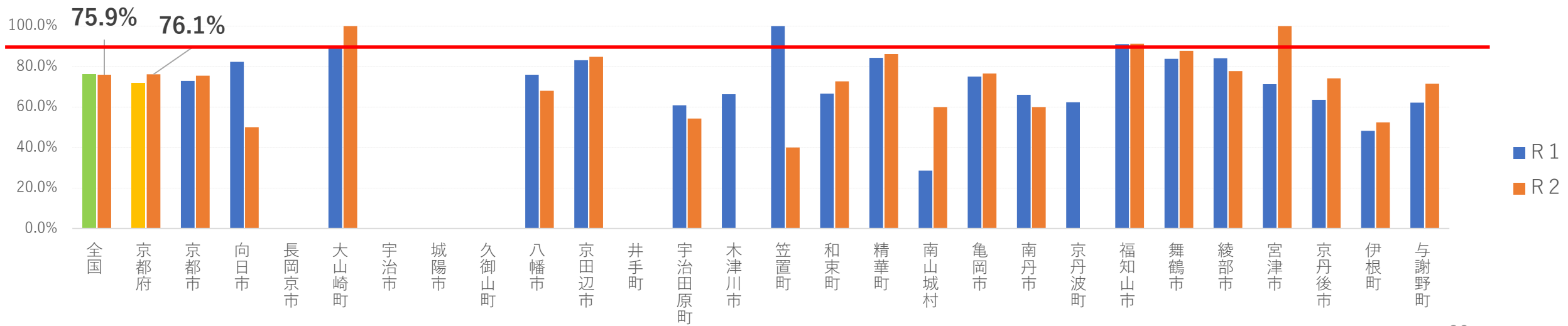


(R2) 対象受診者数 29,305人 がん発見数 58人 ※40~74歳

要精検率（許容値6.8%以下）



精検受診率（許容値90.0%以上）

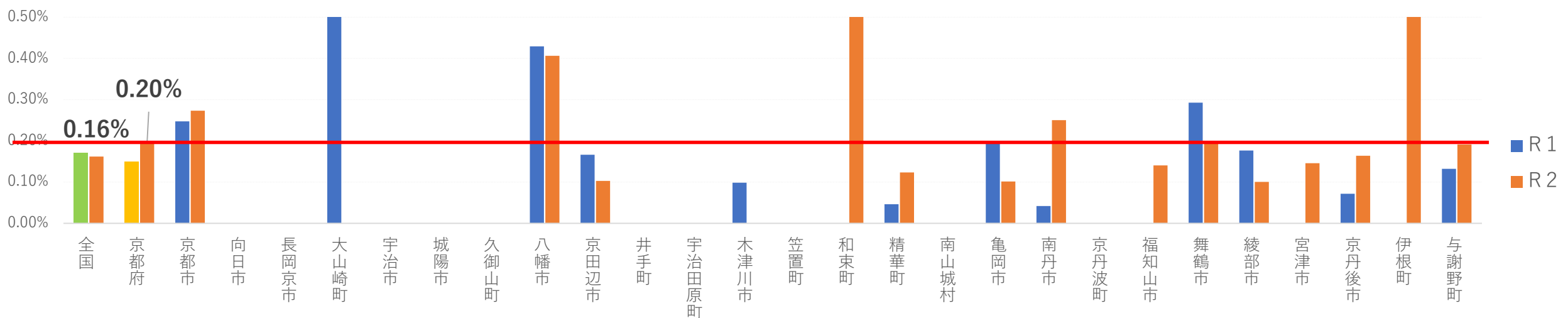


R2 大腸がん検診（集団）

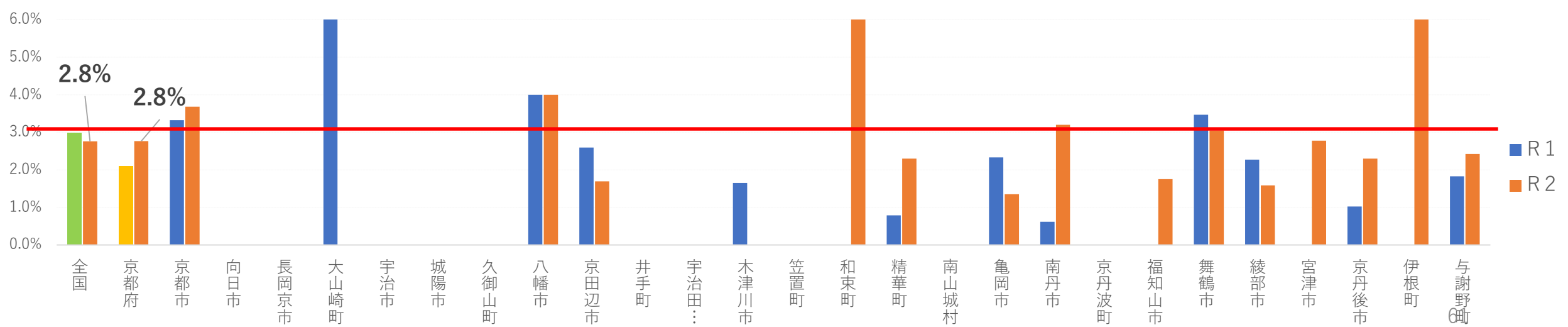
市町村プロセス指標②

(R2) 対象受診者数 29,305人 がん発見数 58人 ※40~74歳

がん発見率（許容値0.21%以上）



陽性反応適中度（許容値3.0%以上）

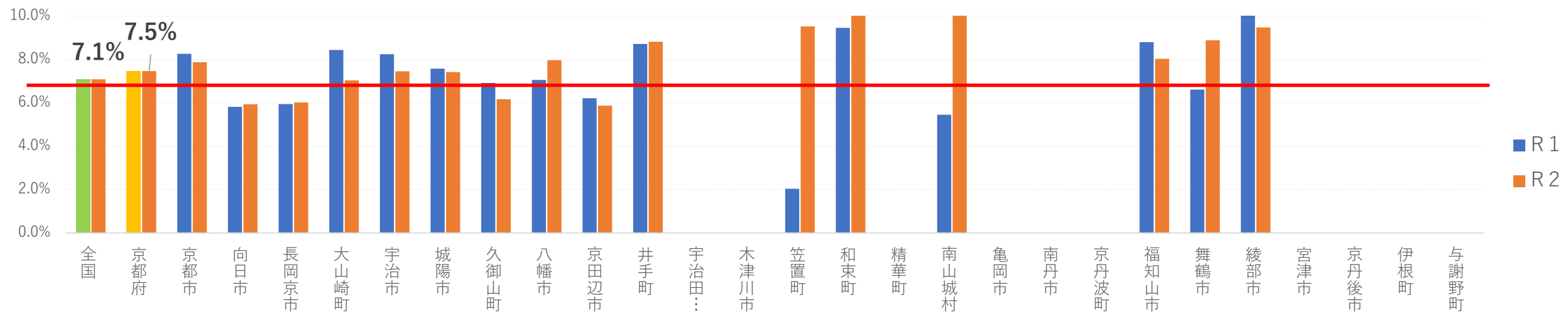


R2 大腸がん検診（個別）

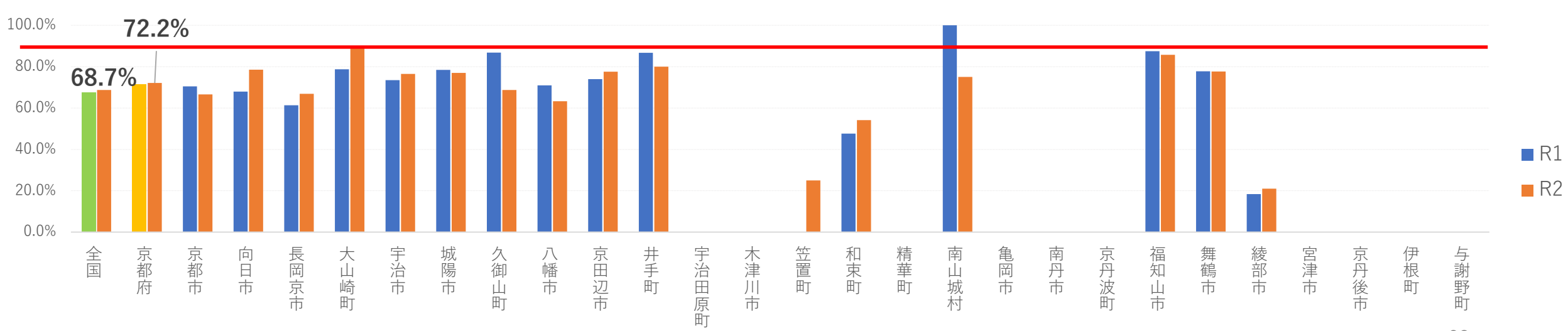
市町村プロセス指標①

(R2) 対象受診者数 25,214人 がん発見数 68人 ※40～74歳

要精検率（許容値6.8%以下）



精検受診率（許容値90.0%以上）

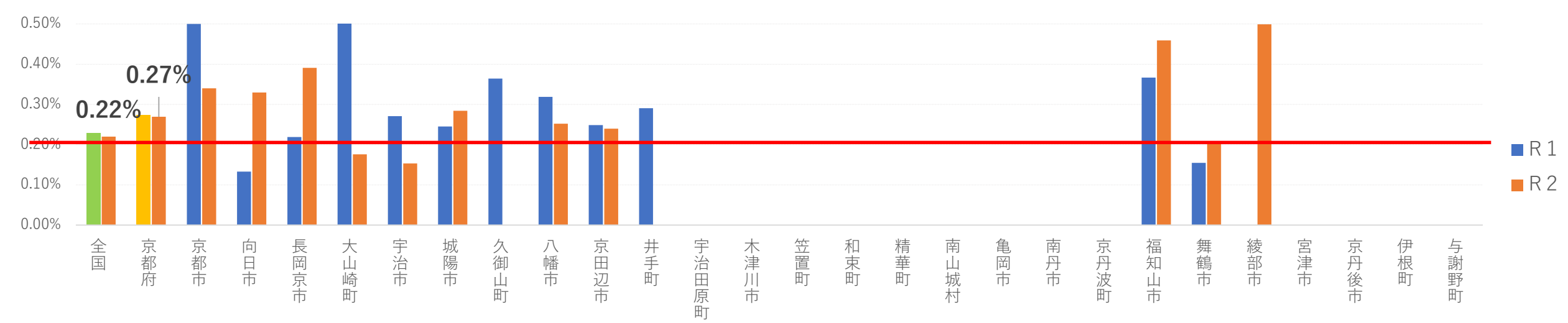


R2 大腸がん検診（個別）

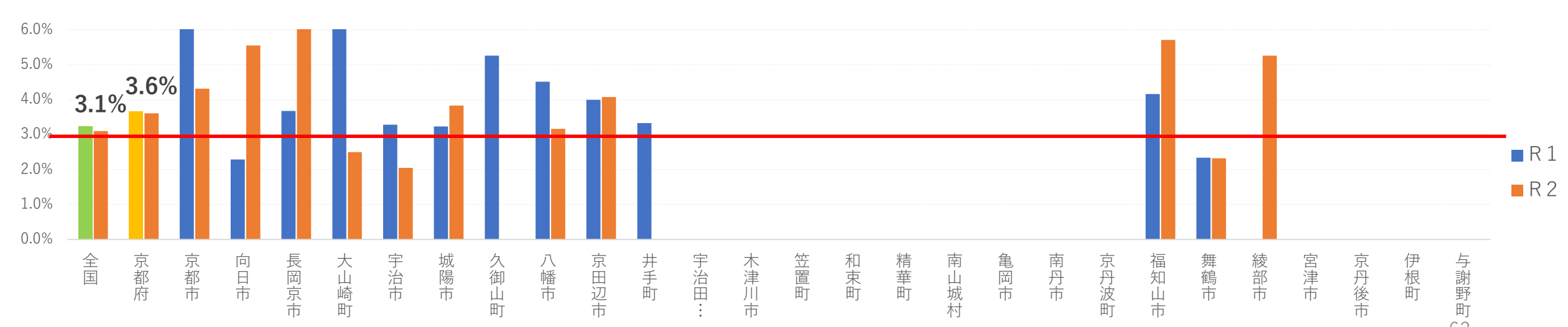
市町村プロセス指標②

(R2) 対象受診者数 25,214人 がん発見数 68人 ※40～74歳

がん発見率（許容値0.21%以上）

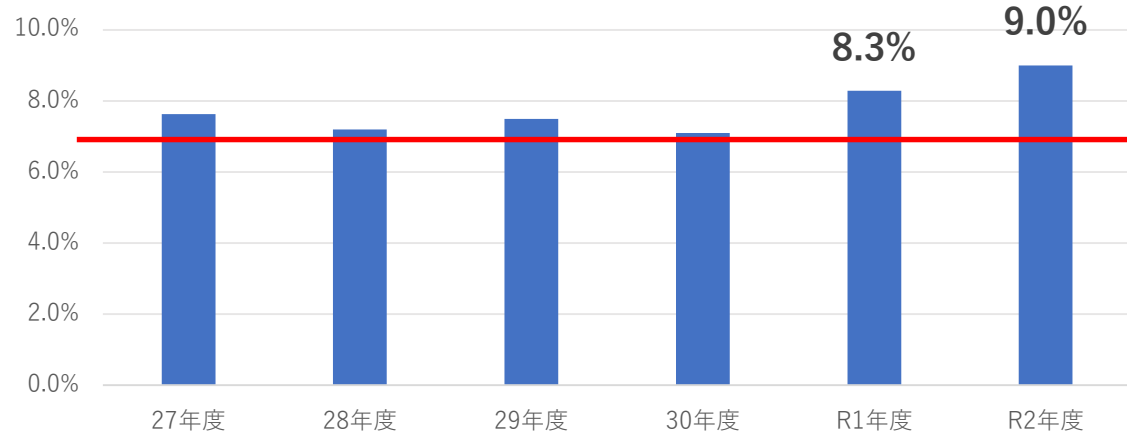


陽性反応適中度（許容値3.0%以上）

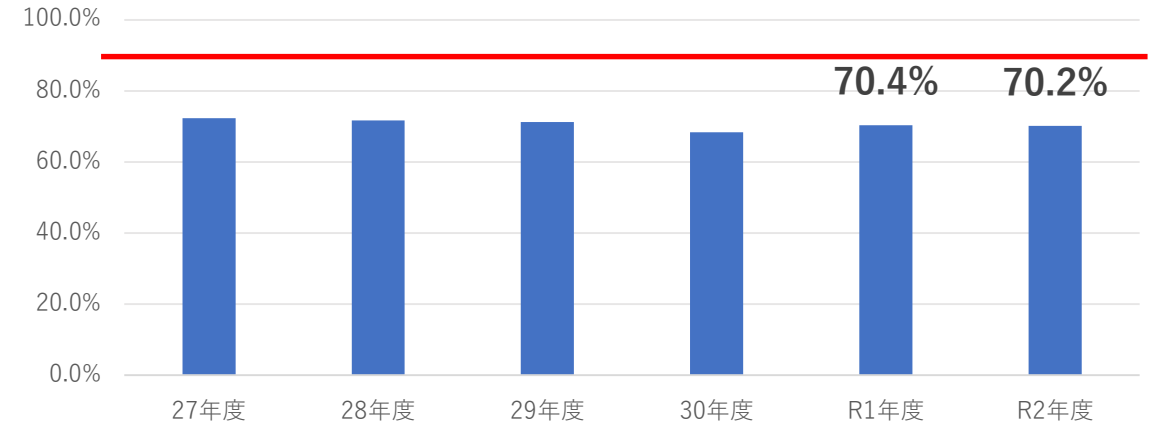


R2 大腸がん検診 検診機関プロセス指標 (A機関・全年齢)

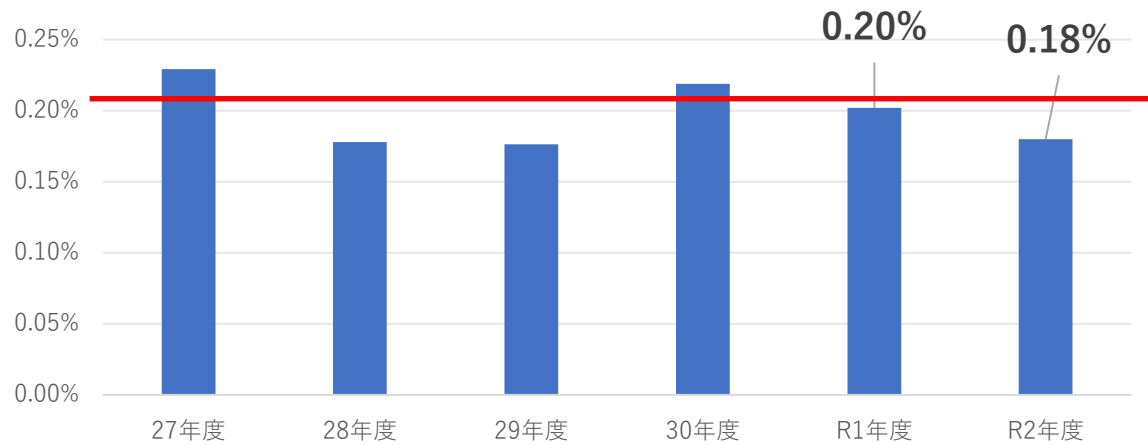
要精検率 (6.8%以下)



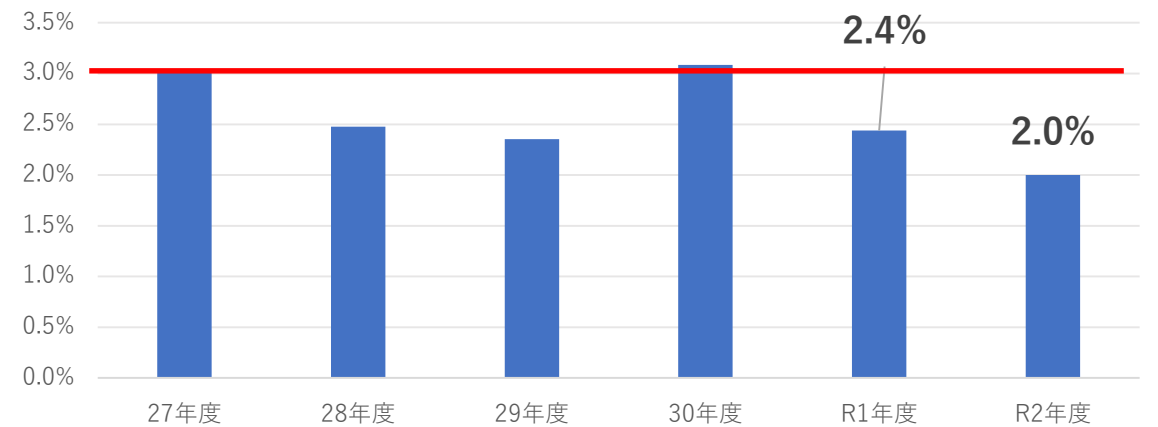
精検受診率 (90.0%以上)



がん発見率 (0.21%以上)



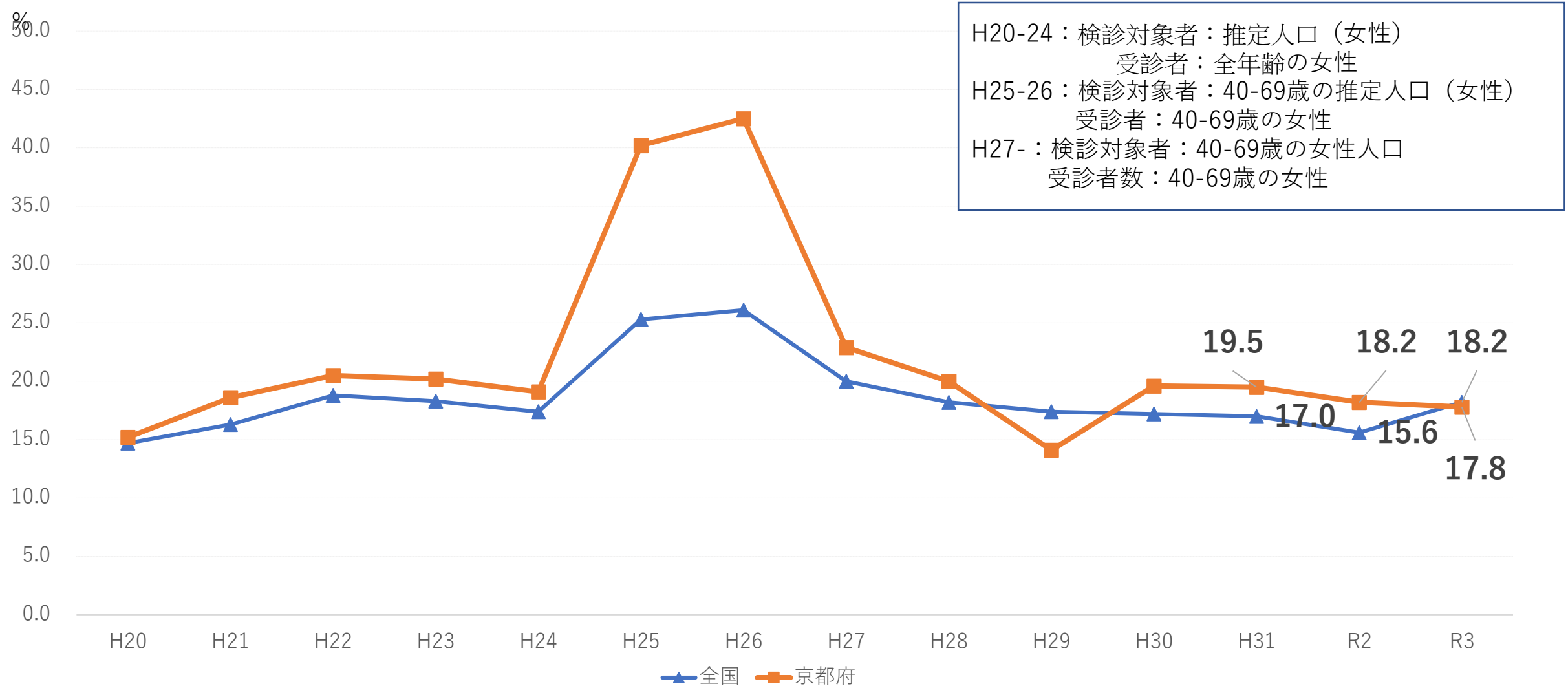
陽性反応適中度 (3.0%以上)



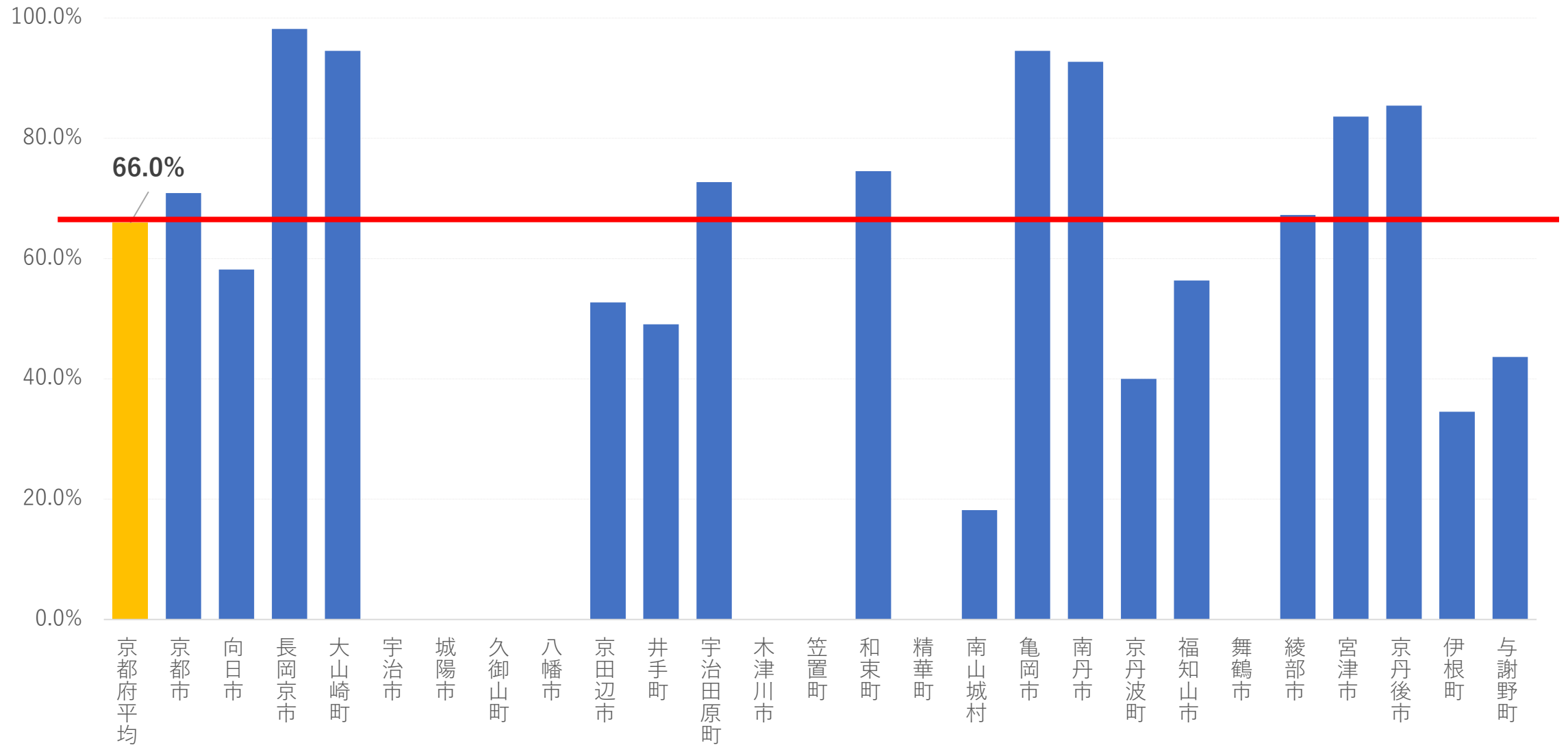
乳がん検診

項目	内容
対象者	40歳以上の女性
検診間隔	2年に1回
検診項目	質問（医師が自ら対面により行う場合は問診）および乳房X線検査（マンモグラフィ）
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	40～69歳の女性受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況（R5年度）	◆集団方式 18市町村 ◆個別方式 23市町村
R2年度受診者数とがん発見数（40～74歳）	集団方式（受診者数 12,925人 、がん発見数 29人 ） 個別方式（受診者数 20,147人 、がん発見数 63人 ）

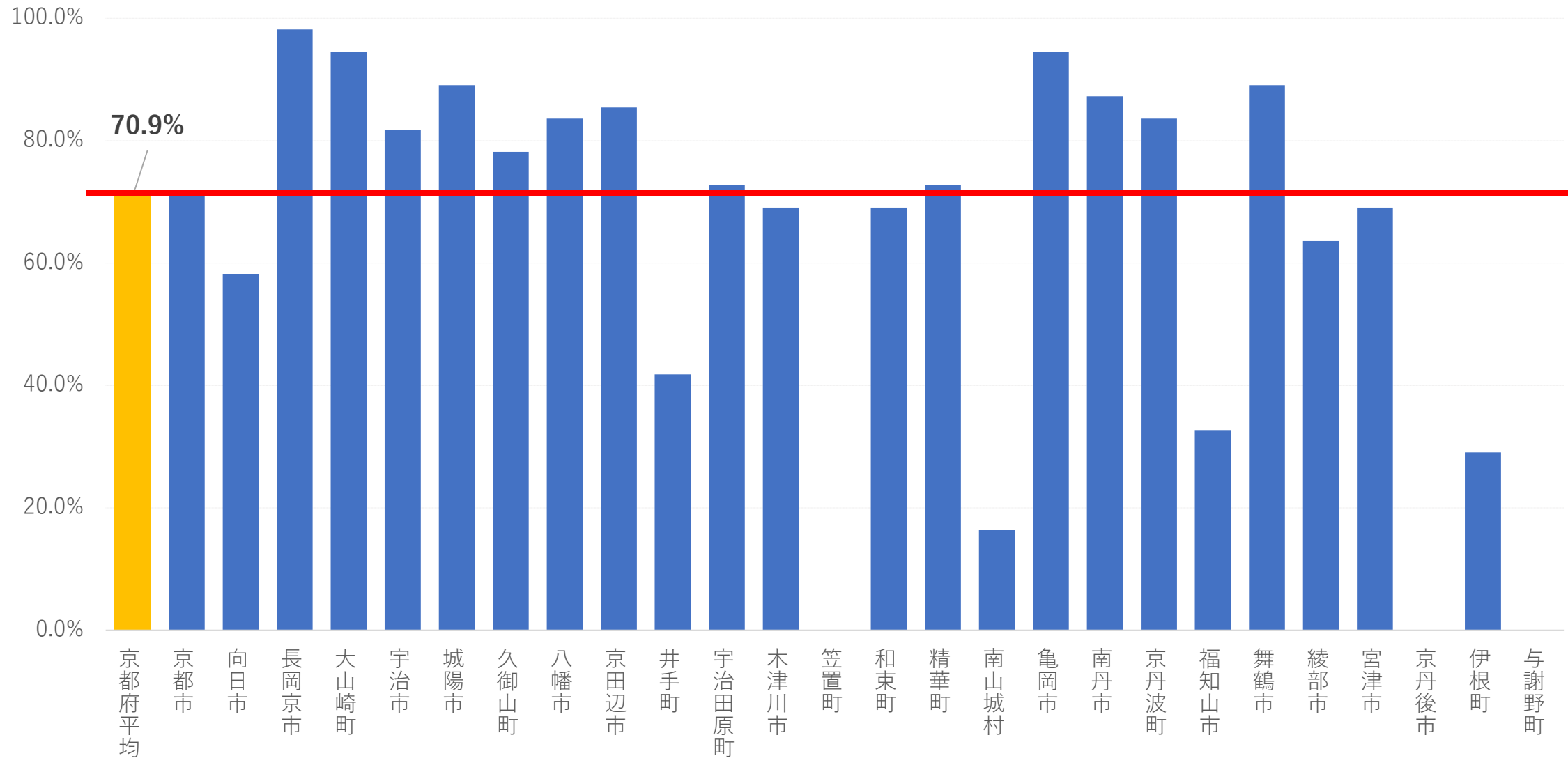
乳がん検診 受診率推移



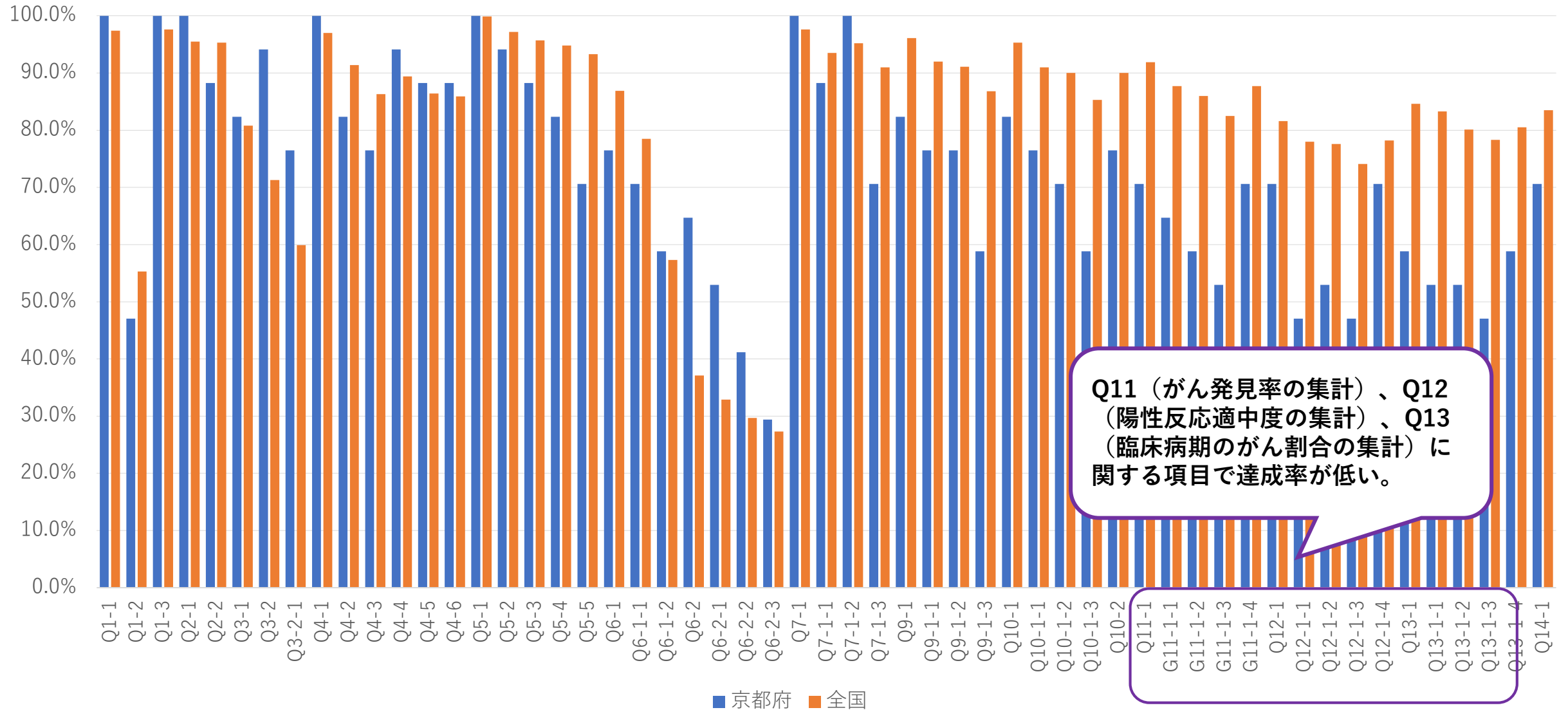
市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞乳がん（集団）



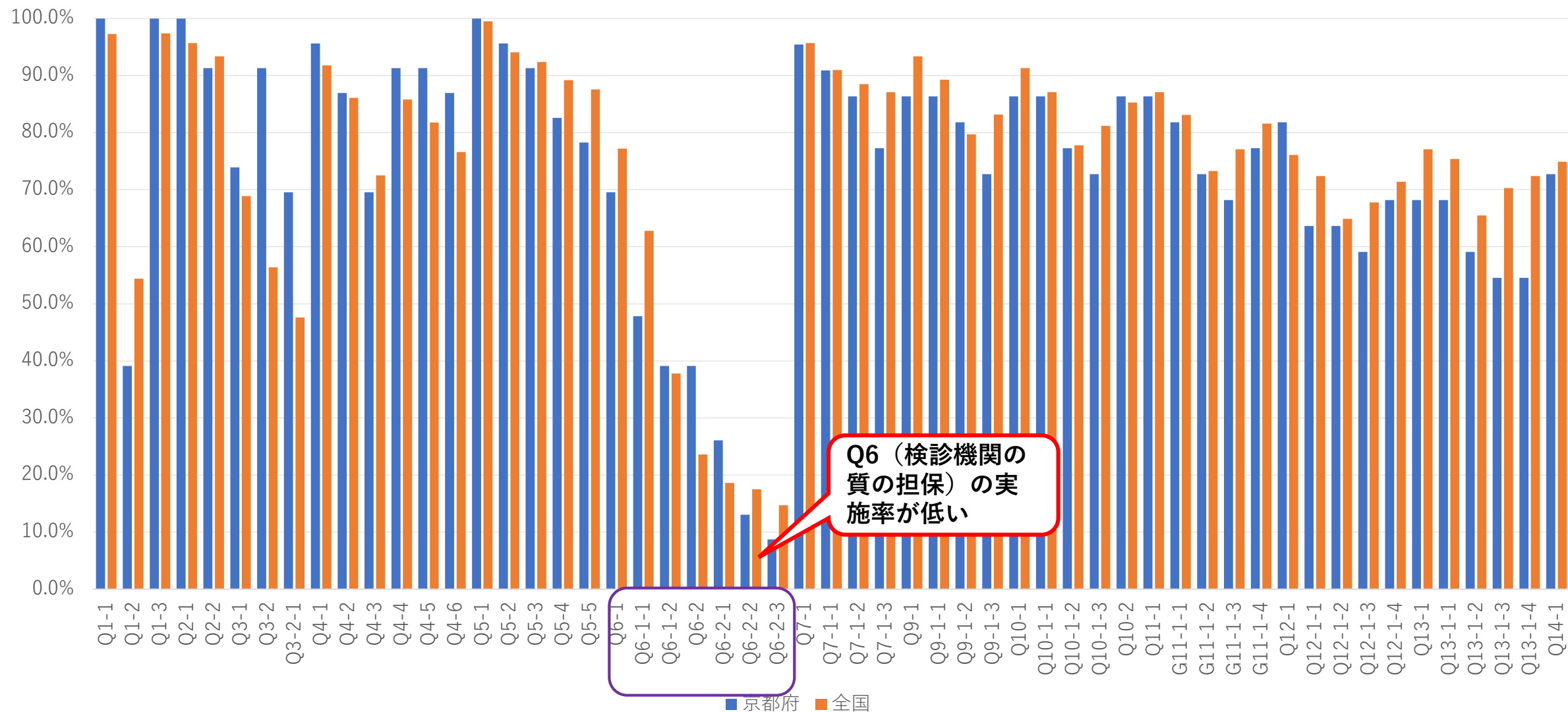
R4 市町村チェックリスト達成率<市町村別>乳がん（個別）



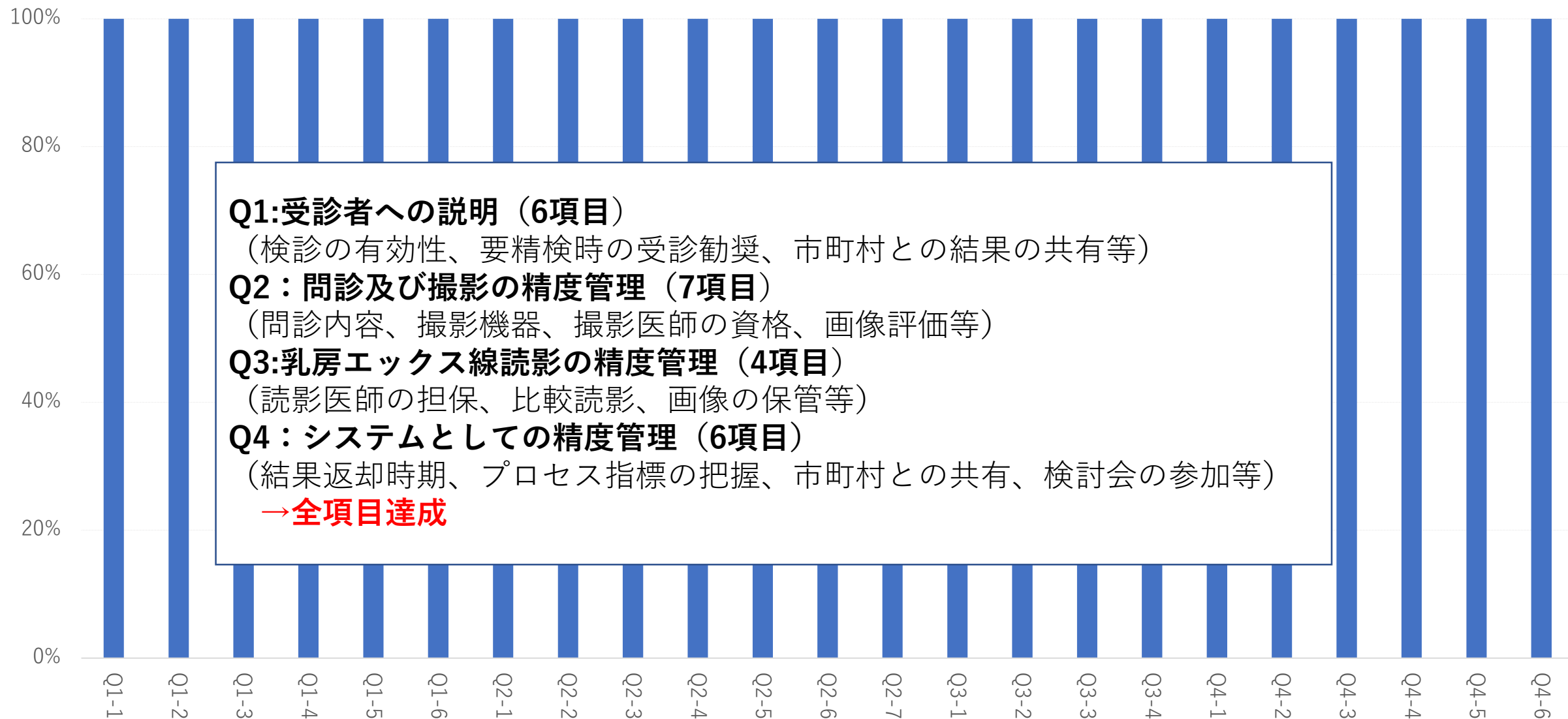
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>乳がん（集団）



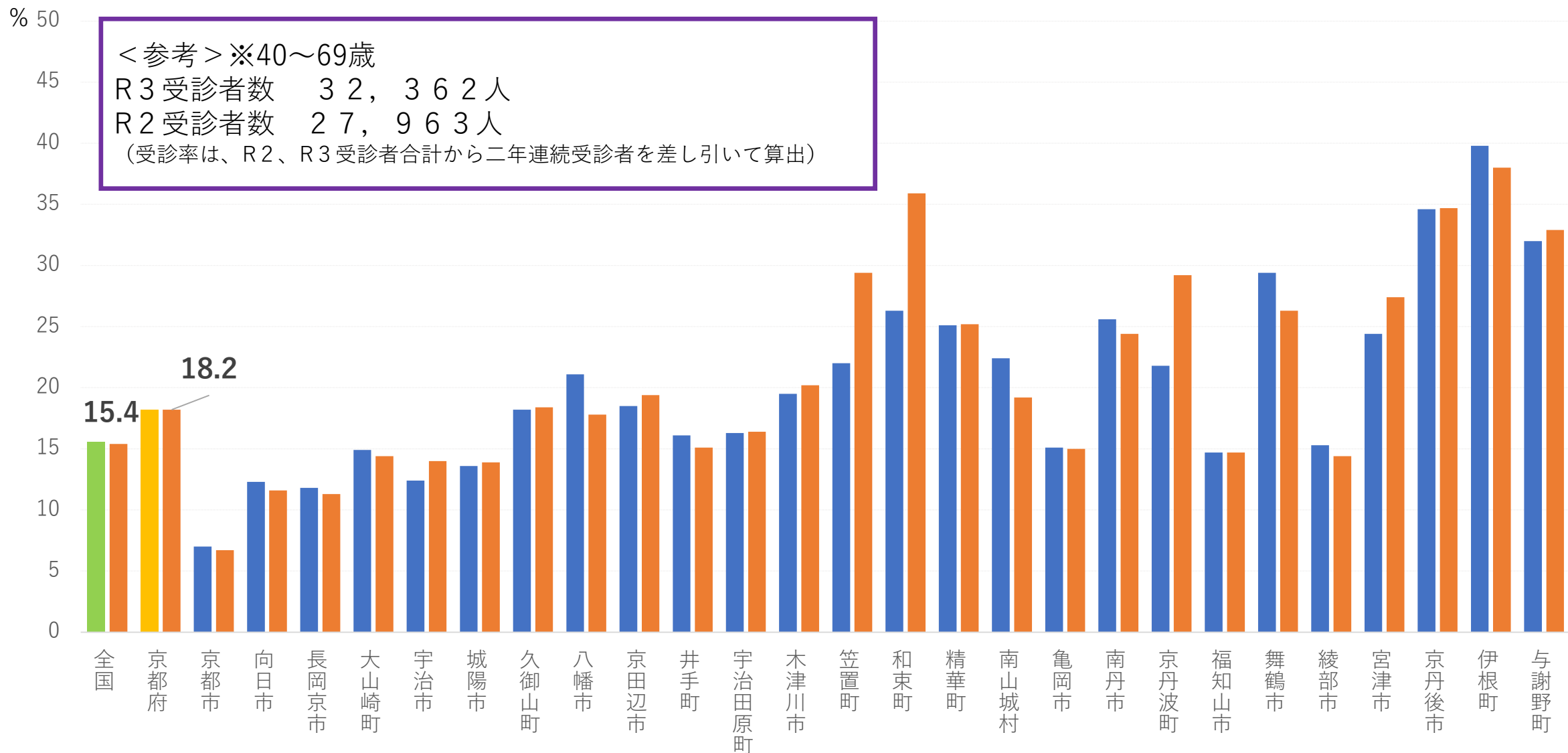
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>乳がん（個別）



R4 検診機関チェックリスト達成率<項目別>乳がん検診



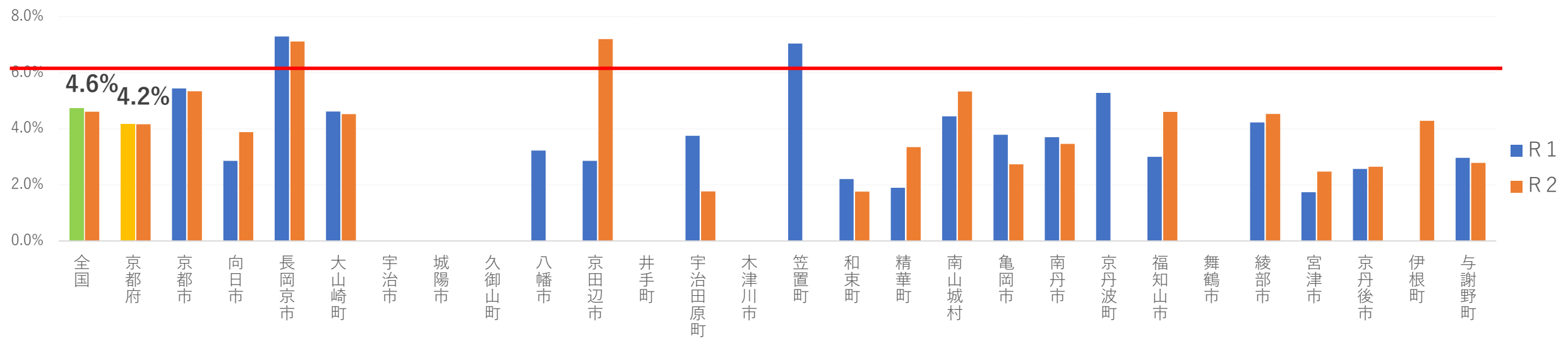
R3 乳がん検診受診率



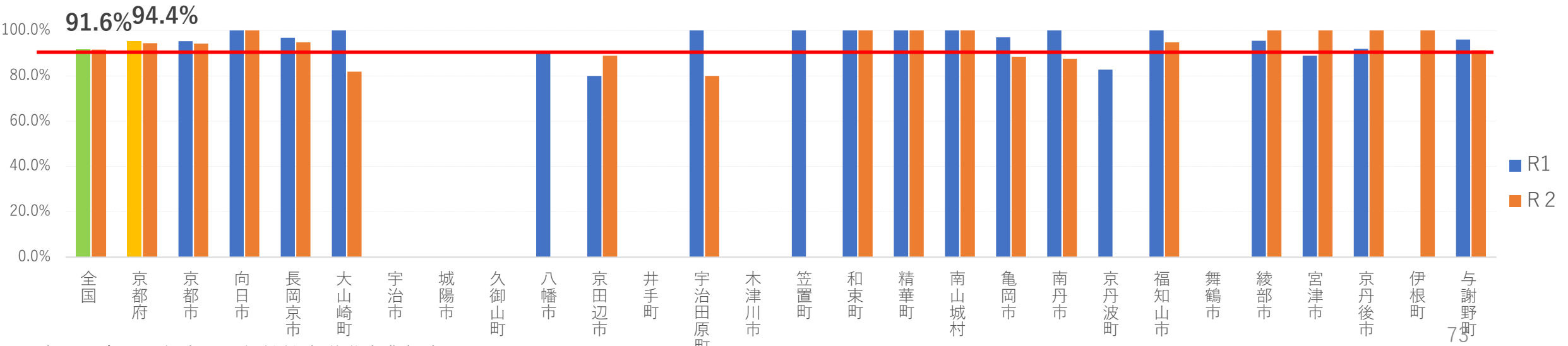
R2乳がん検診（集団） 市町村プロセス指標①

要精検率（許容値6.5%又は6.4%以下）

(R2) 対象受診者数 12,925人 がん発見数 29人 ※40～74歳



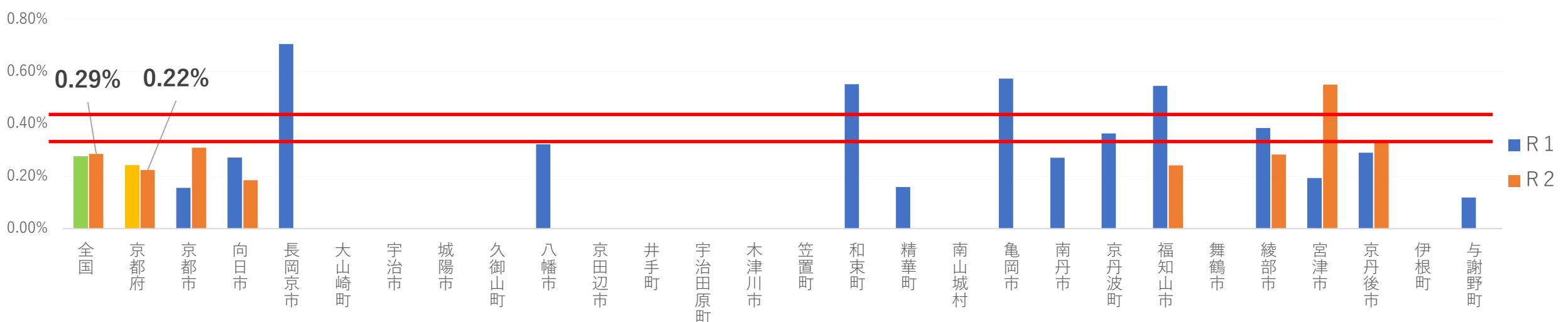
精検受診率（許容値90.0%以上）



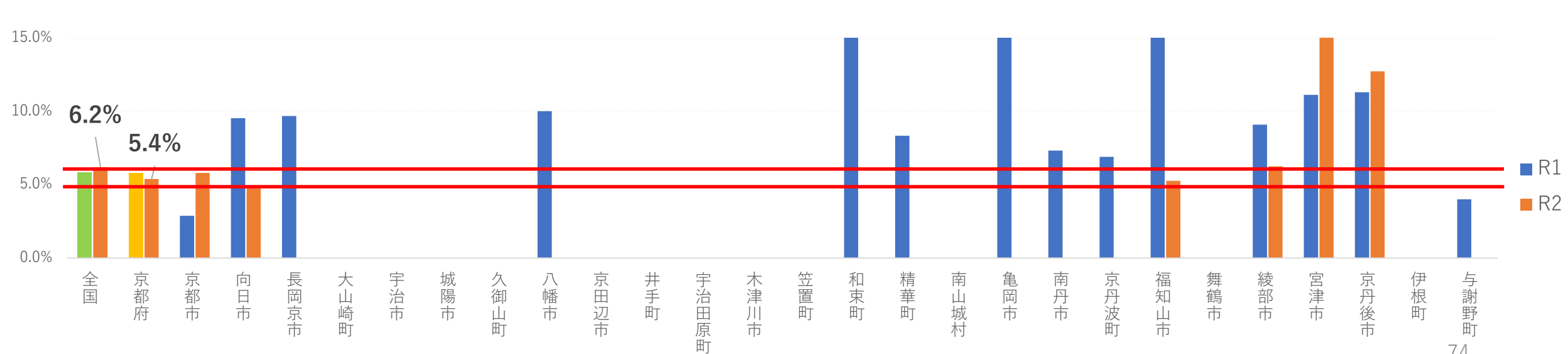
R2乳がん検診（集団） 市町村プロセス指標②

(R2) 対象受診者数 12,925人 がん発見数 29人 ※40～74歳

がん発見率（許容値0.40%又は0.31%以上）



陽性反応適中度（許容値6.1%又4.8%は以上）

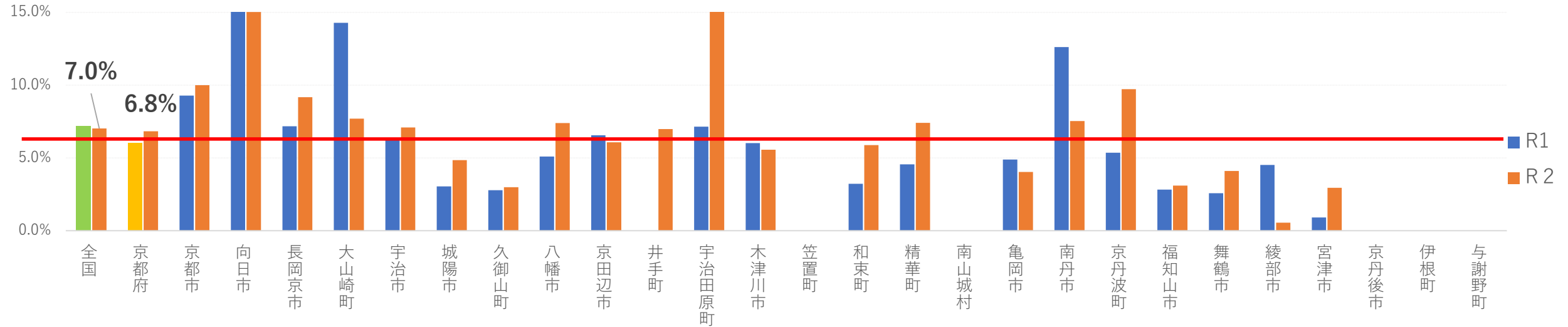


R2乳がん検診（個別）

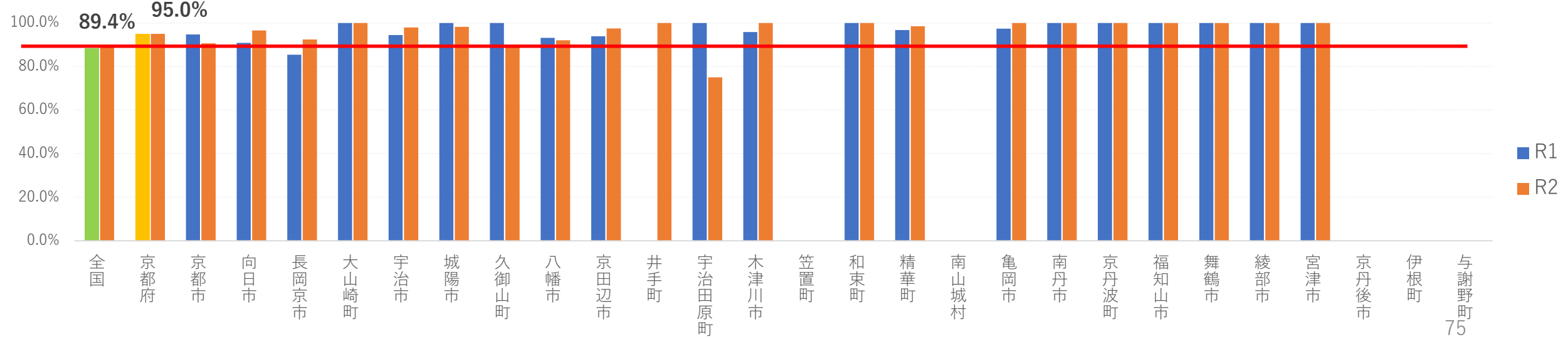
市町村プロセス指標①

要精検率（許容値6.5%又は6.4%以下）

(R2) 対象受診者数 20,147人 がん発見数 63人 ※40~74歳



精検受診率（許容値90.0%以上）



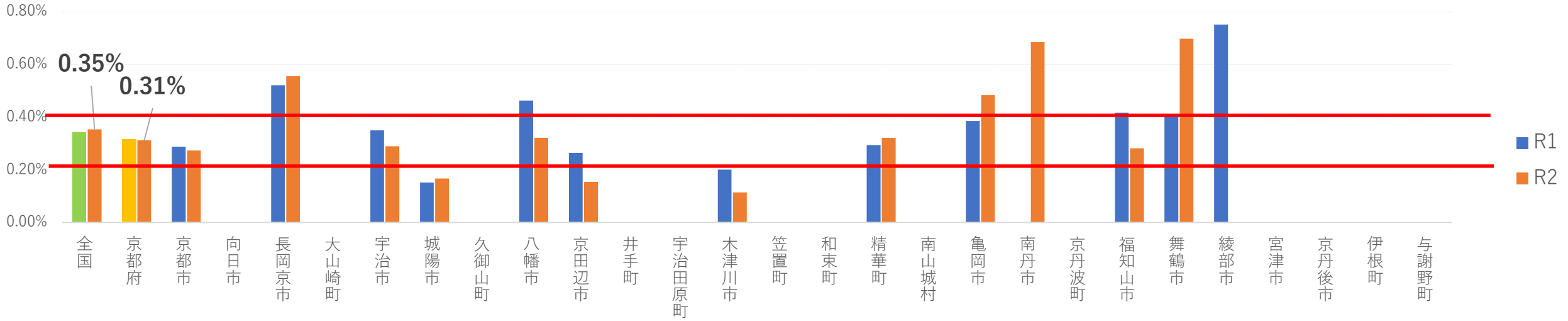
< 出典 > 令和3年度地域保健健康増進事業報告

R2乳がん検診（個別）

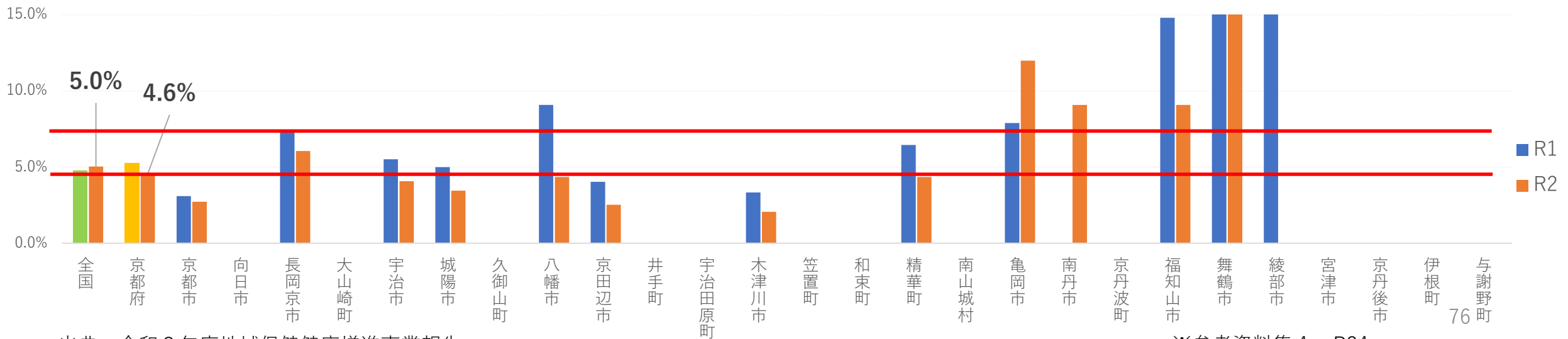
市町村プロセス指標②

(R2) 対象受診者数 20,147人 がん発見数 63人 ※40～74歳

がん発見率（許容値0.40%又は0.31%以上）

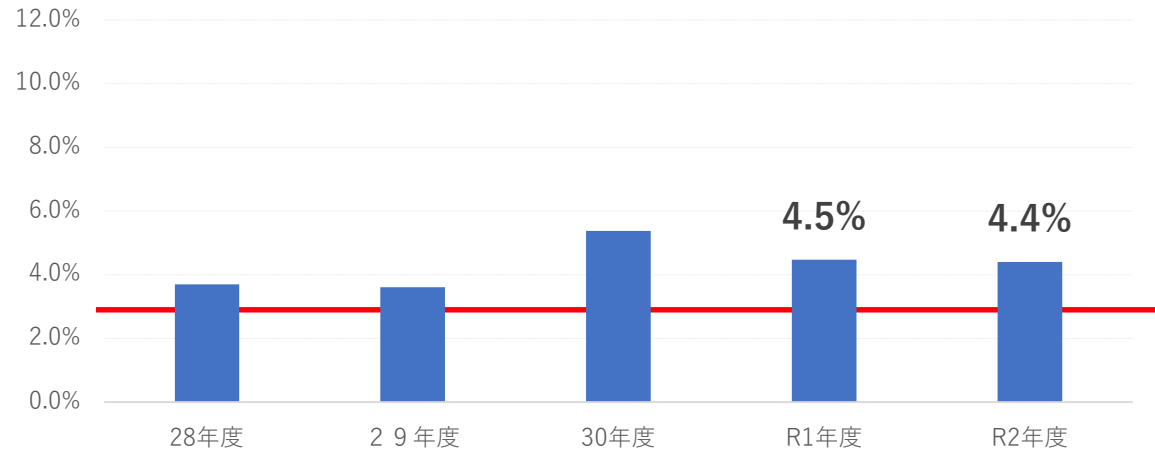


陽性反応適中度（許容値6.1%又は4.8%以上）

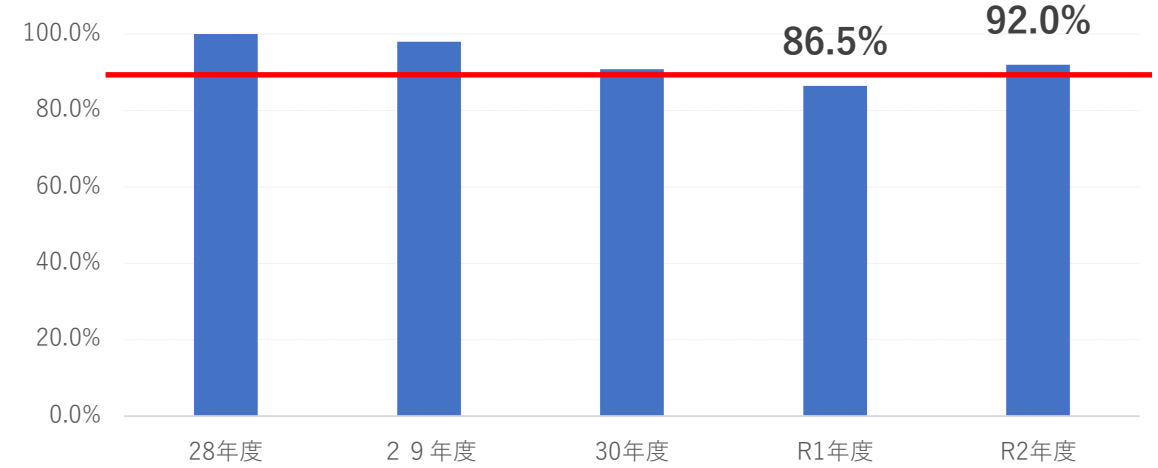


R2 乳がん検診 検診機関プロセス指標 (A機関・全年齢) ※マンモグラフィ単独のみ

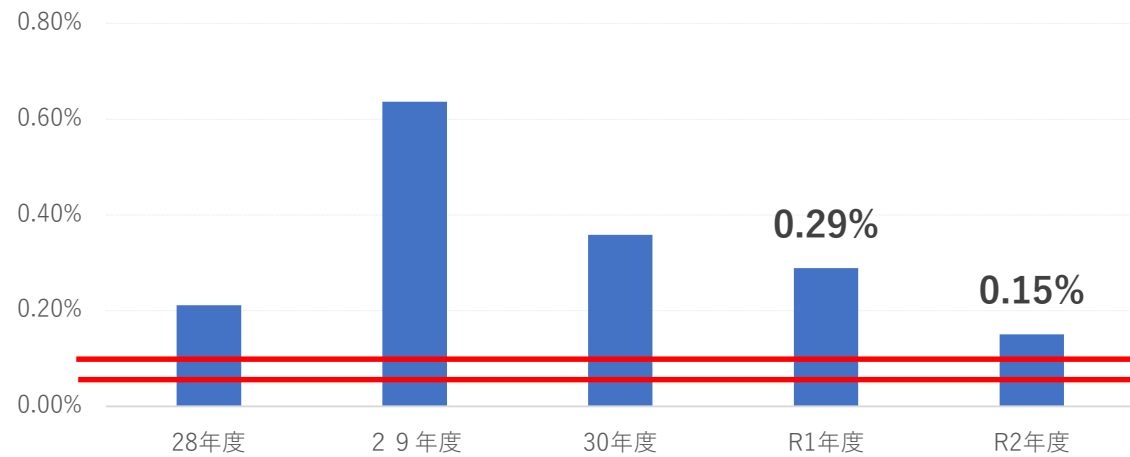
要精検率 (許容値2.4%又は2.3%以下)



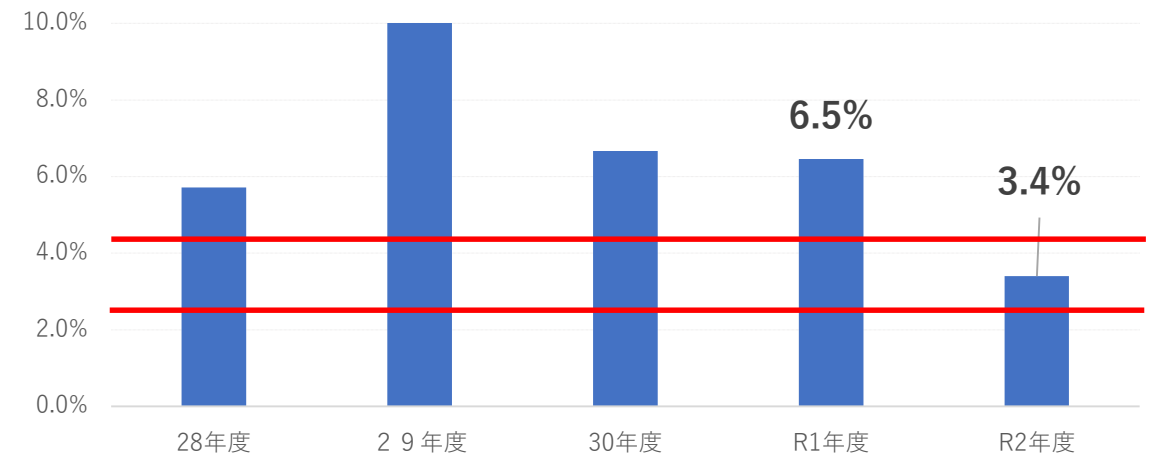
精検受診率 (許容値90.0%以上)



がん発見率 (許容値0.10%又は0.05%以上)



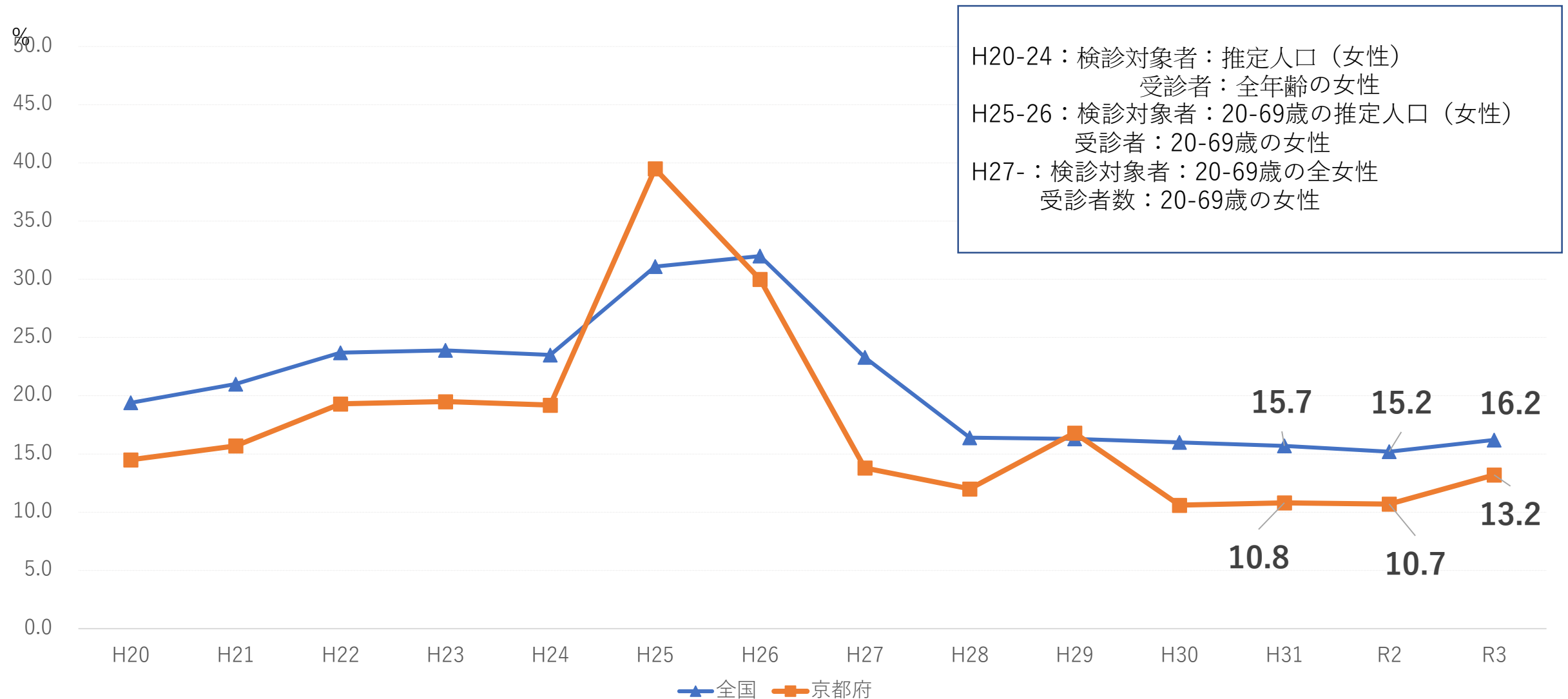
陽性反応適中度 (許容値4.1%又は2.2%以上)



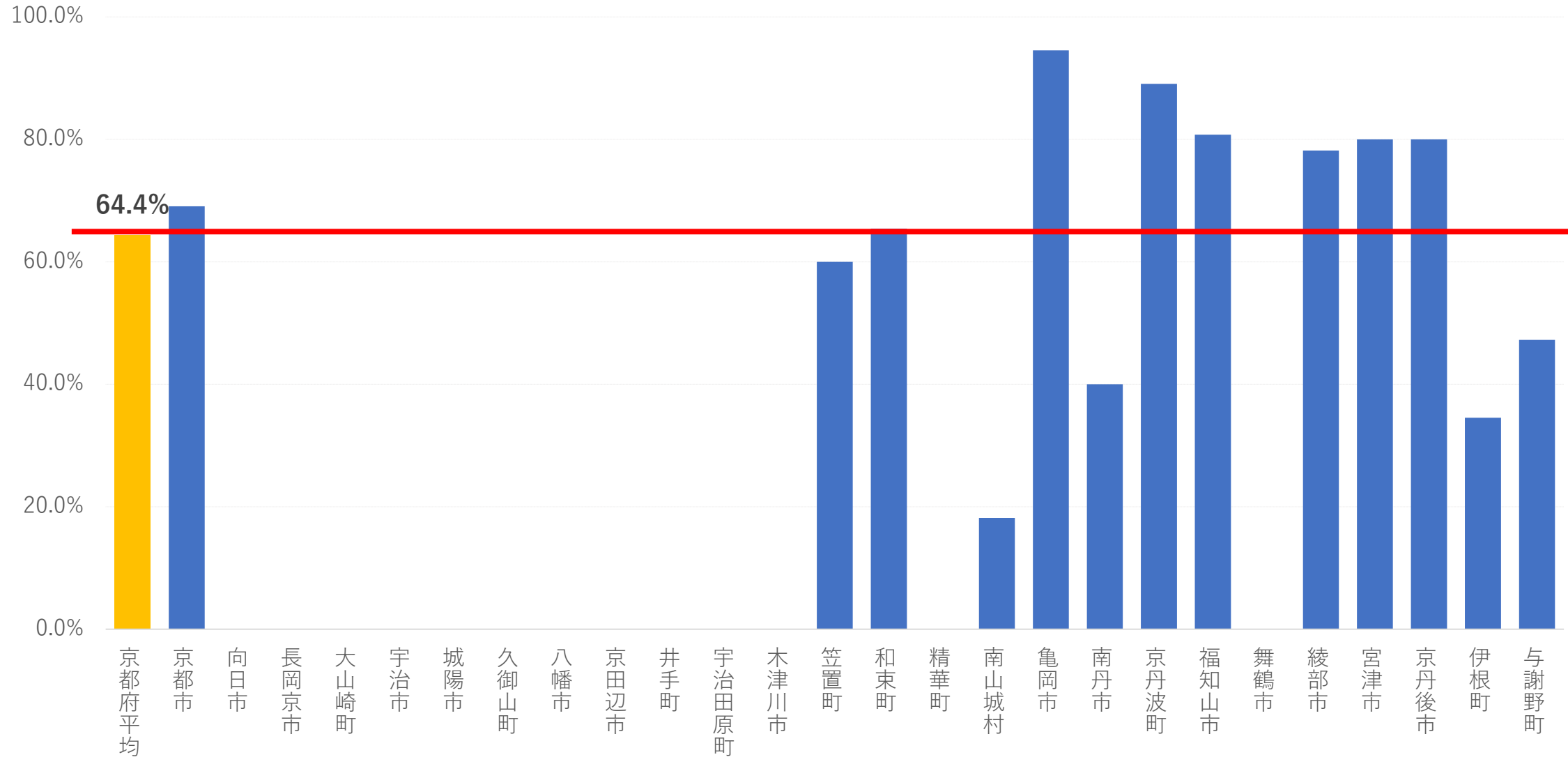
子宮頸がん検診

項目	内容
対象者	20歳以上
検診間隔	2年に1回
検診項目	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	20～69歳の女性受診者。検診対象者は、同年代の全人口。
府内の状況 （R5年度）	◆集団方式 12市町村 ◆個別方式 25市町村
R2年度 受診者数とがん発見数 （20～74歳）	集団方式（受診者数 6,119人 、がん発見数 2人 ） 個別方式（受診者数 37,731人 、がん発見数 6人 ）

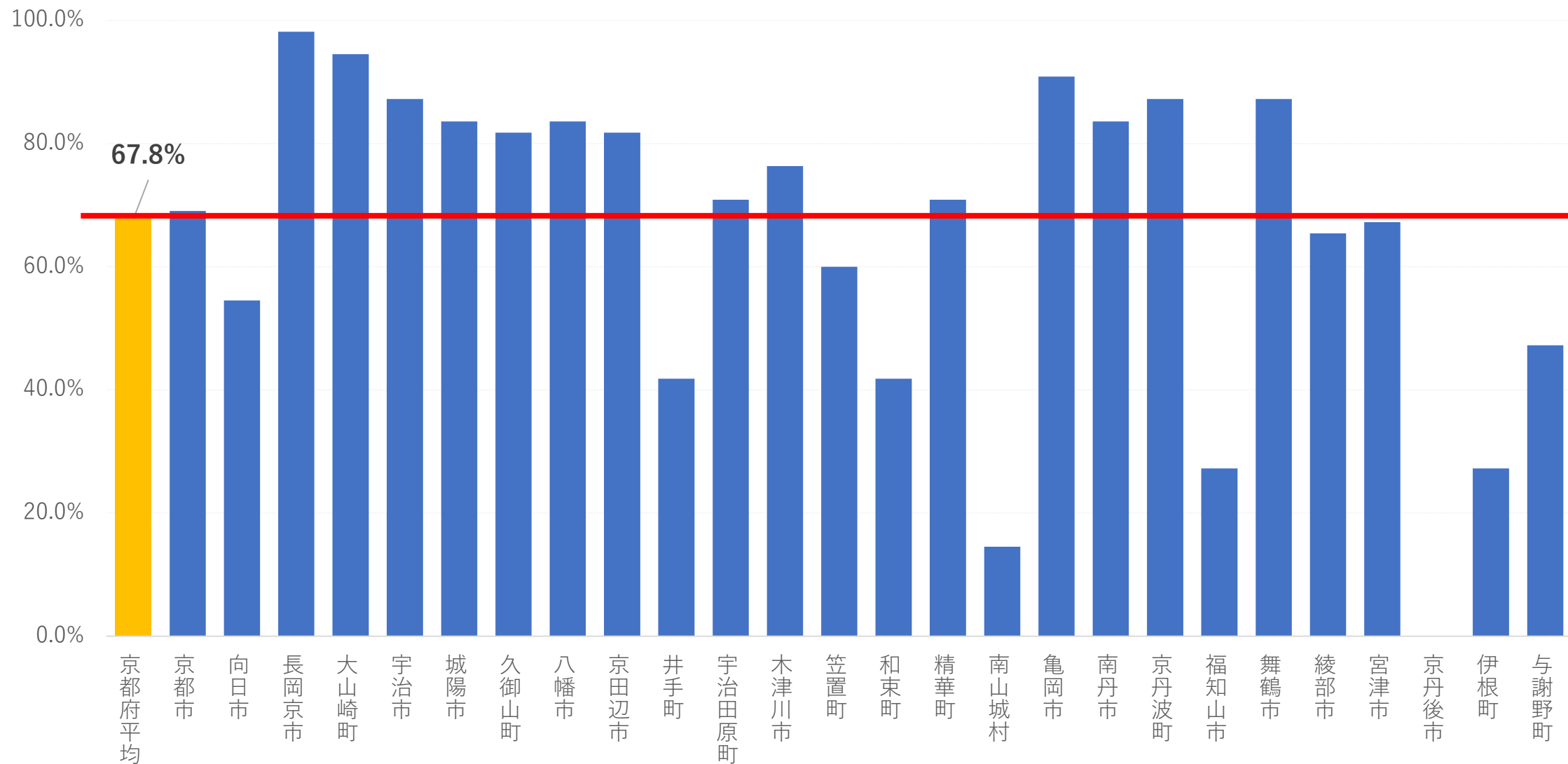
子宮頸がん検診 受診率推移



R4市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞子宮頸がん（集団）



R4 市町村チェックリスト達成率<市町村別>子宮頸がん（個別）

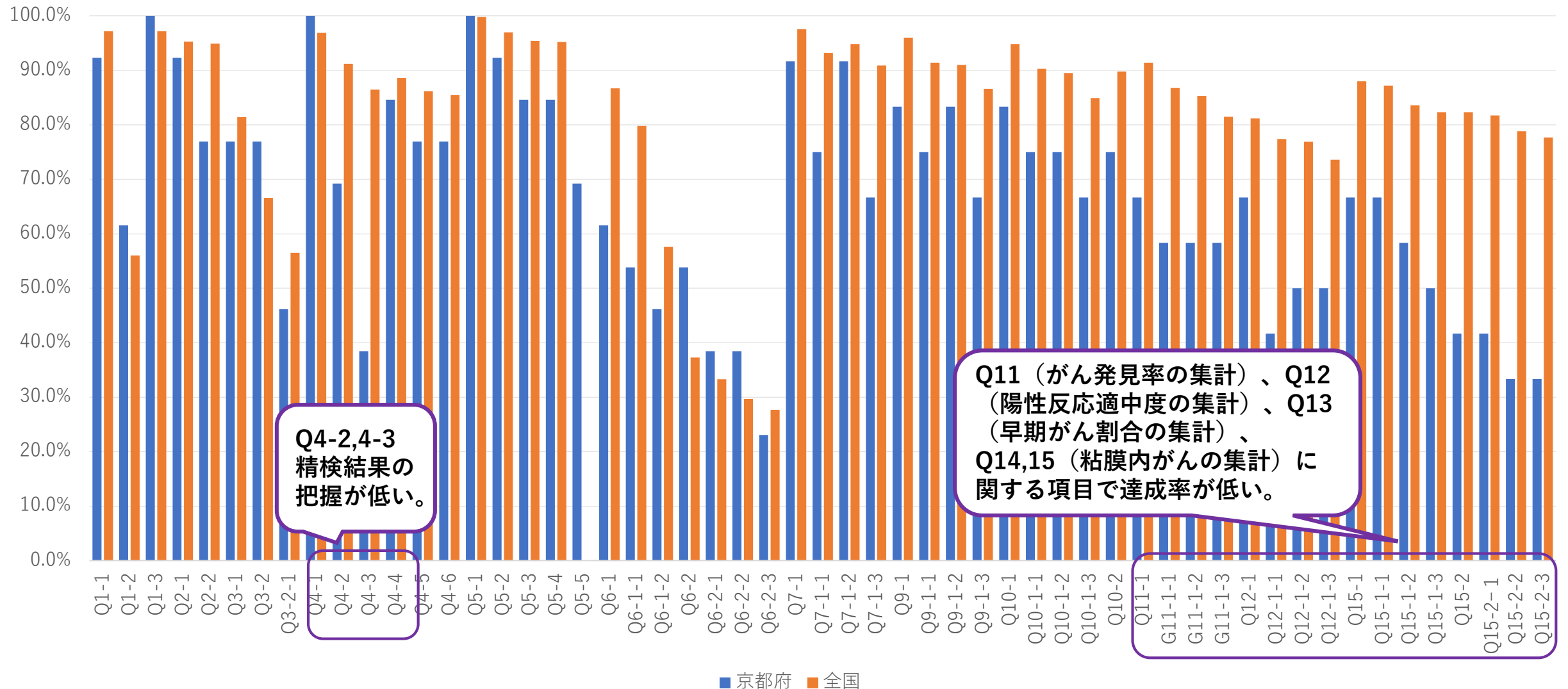


<出典> 地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査

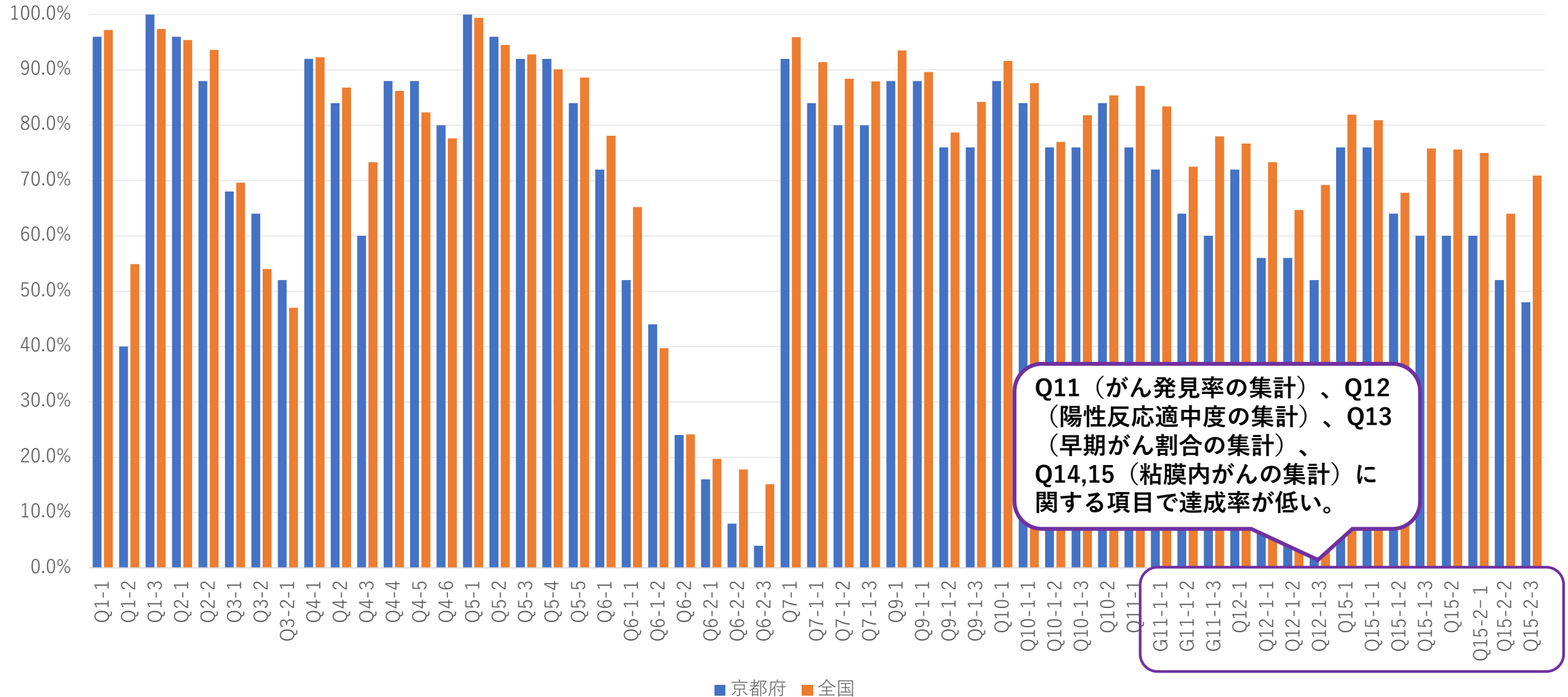
R4 : N=25 R2 : N=25

※参考資料集4 P31

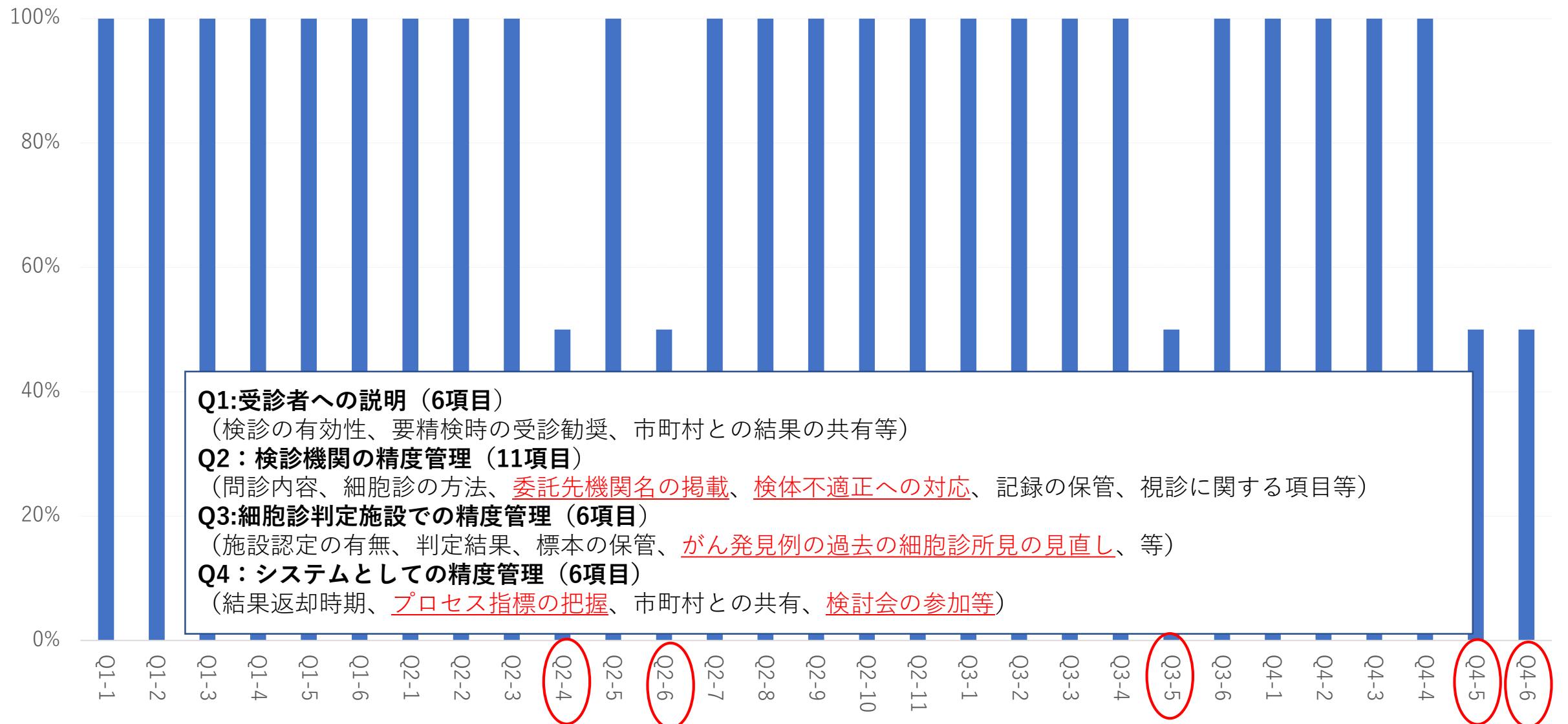
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>子宮頸がん（集団）



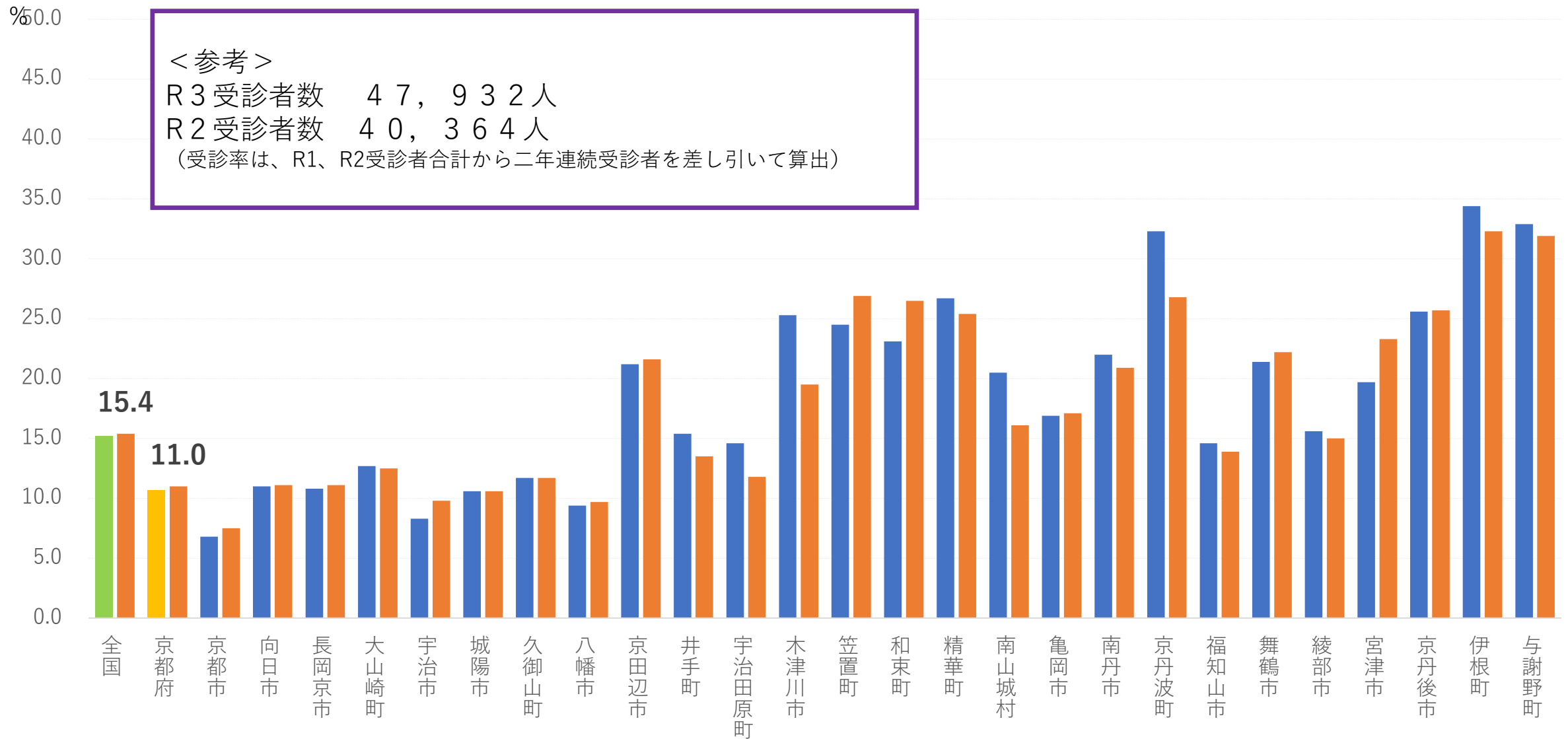
R4 市町村チェックリスト達成率<項目別>子宮頸がん（個別）



R4 検診機関チェックリスト達成率<項目別>子宮頸がん検診



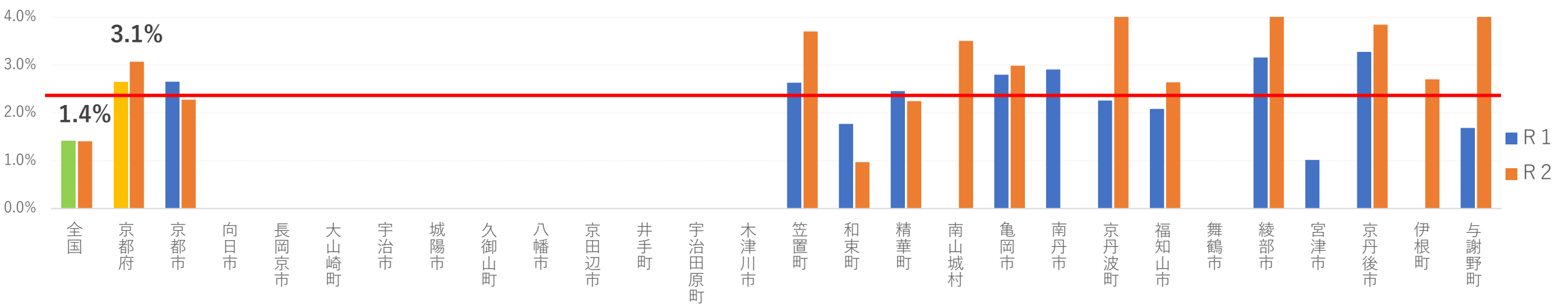
R3 子宮頸がん検診受診率



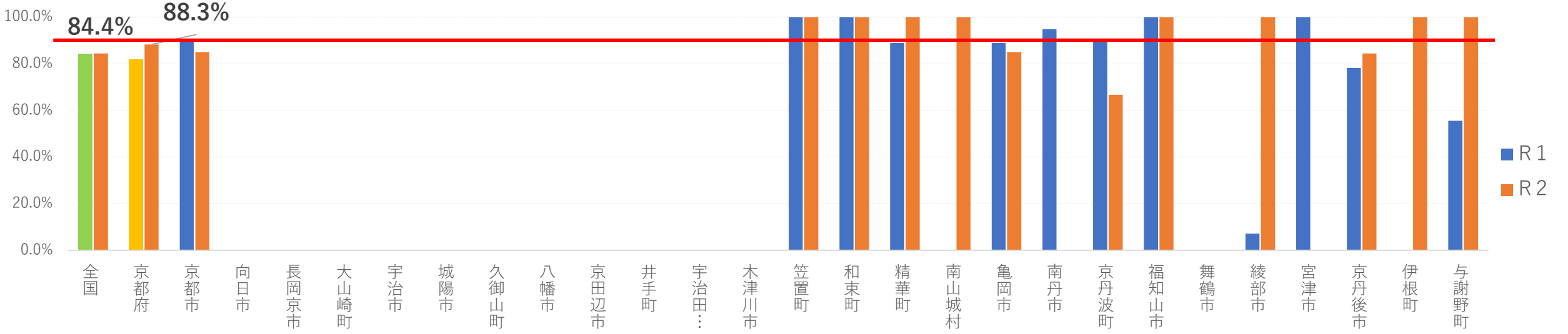
R2子宮頸がん検診（集団） 市町村プロセス指標①

要精検率（許容値2.5%以下）

(R2) 対象受診者数 6,119人 がん発見数 2人 ※20~74歳



精検受診率（許容値90.0%以上）



がん発見率（許容値0.15%以上） ※CIN3以上※

(R2) 対象受診者数 6,119人 **がん 2人 AIS 0人 CIN3 15人** ※20~74歳



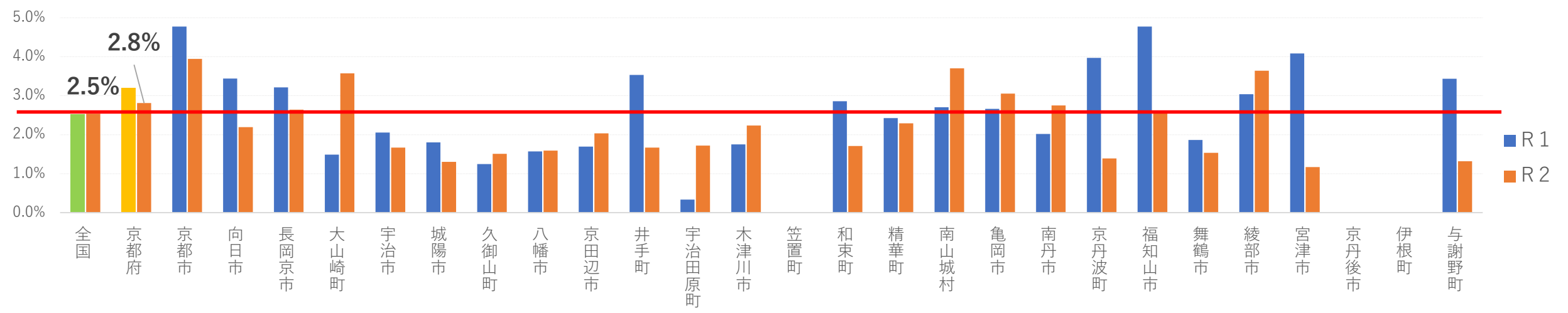
陽性反応適中度（許容値5.9%以上） ※CIN3以上※



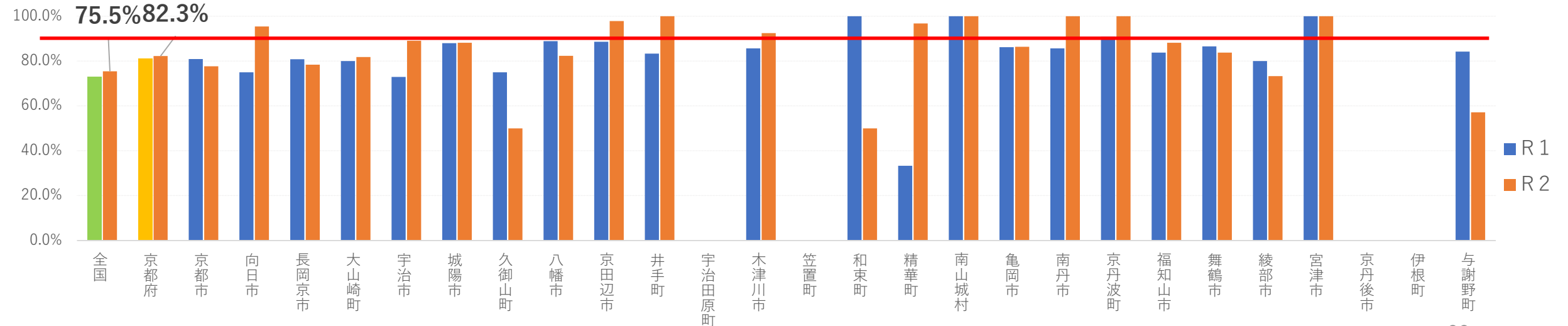
R2子宮頸がん検診（個別） 市町村プロセス指標①

要精検率（許容値2.5%以下）

(R2) 対象受診者数 37,731人 がん発見数 6人 ※20~74歳



精検受診率（許容値90.0%以上）



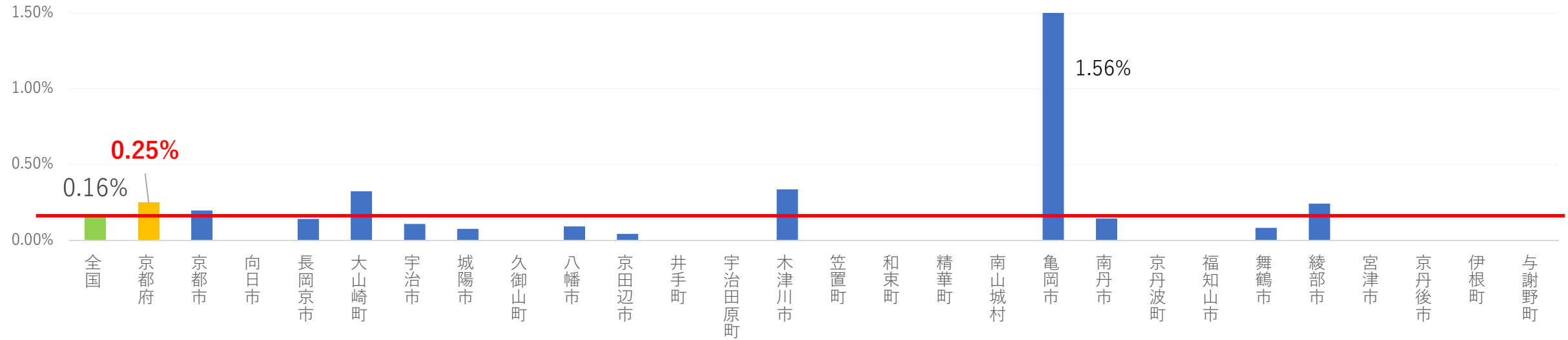
R2子宮頸がん検診（個別）

市町村プロセス指標②

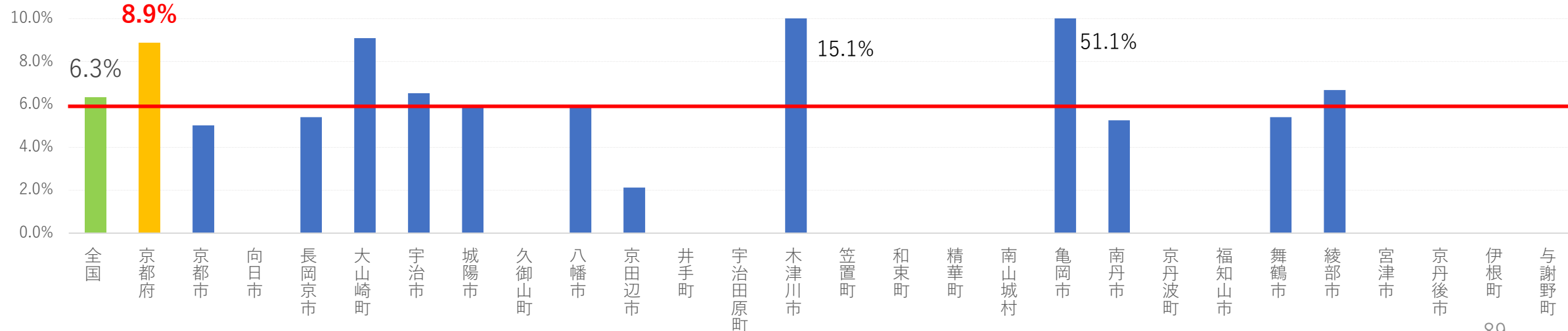
※修正後※

がん発見率（許容値0.15%以上）※CIN3以上※

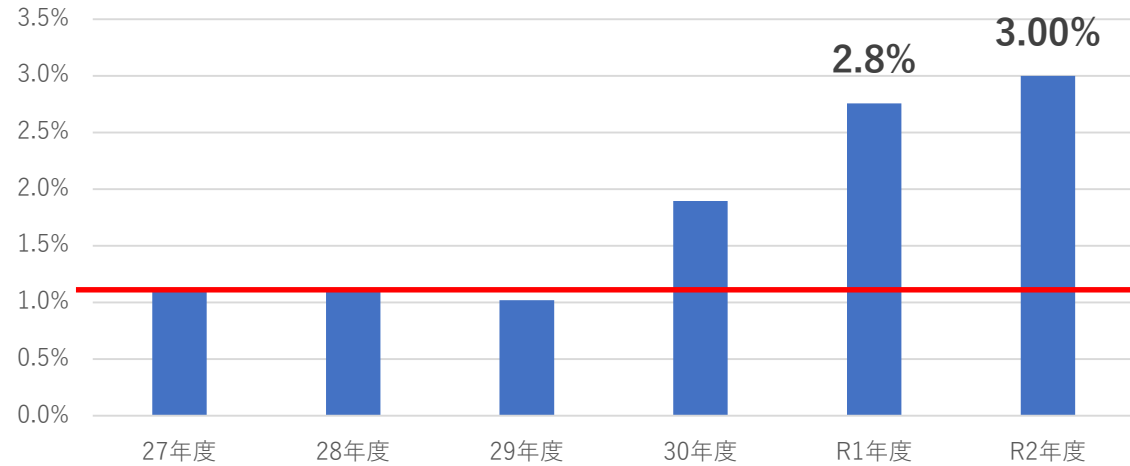
(R2) 対象受診者数 37,731人 **がん 6人 AIS 2人 CIN3 86人** ※20~74歳



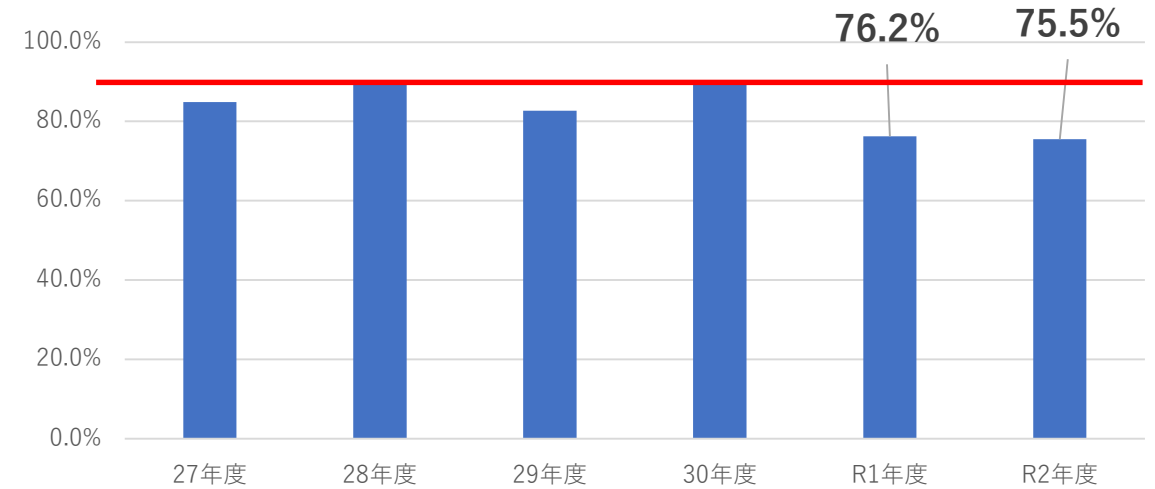
陽性反応適中度（許容値5.9%以上）※CIN3以上※



要精検率 (許容値2.5%以下)



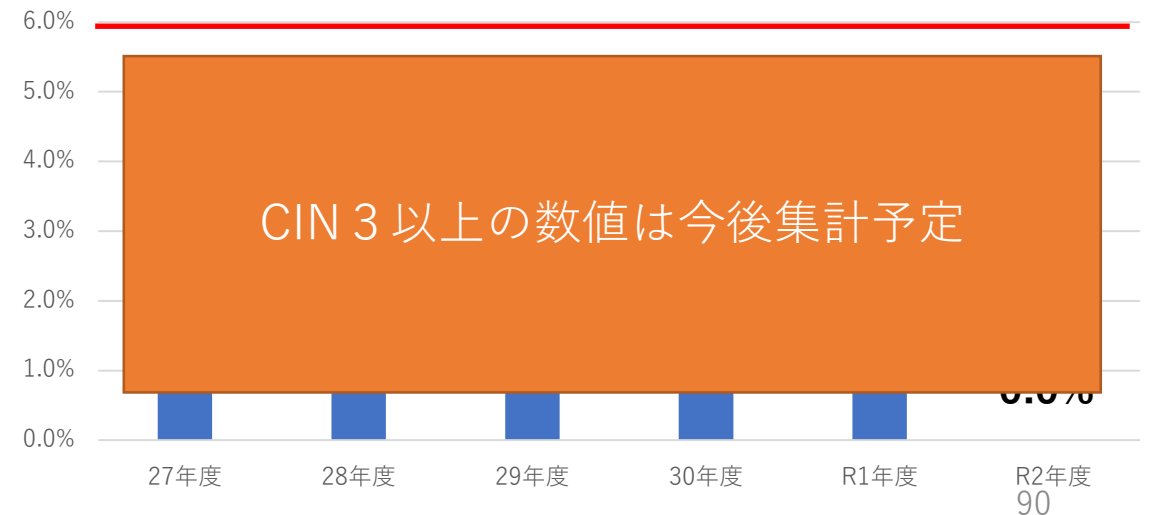
精検受診率 (許容値90.0%以上)



がん発見率 (許容値0.15%以上)



陽性反応適中度 (許容値5.9%以上)



R5 京都府がん検診の実施状況調査結果①（国立がん研究センター実施）

R4年度 実施内容	検査方法		検査方式		対象年齢				間隔
			集団	個別	20歳以上	30歳以上	40歳以上	50歳以上	隔年
胃がん	胃X線検査	26	25	1	0	0	26		3
	胃内視鏡	3	0	3	0	0	1	2	
肺がん	胸部X線 + 喀痰細胞診	26	26	0	0	0	26	0	0
大腸がん	便潜血二日法	26	21	16	1	0	25	0	0
乳がん	マンモグラフィ	23	17	22	0	0	23	0	20
	マンモ + 視触診	3	0	3	0	0	3	0	3
	エコー	0	0	0	0	0	0	0	-
子宮頸がん	頸部細胞診	26	12	25	26	0	0	0	21

※京都府内検診実施自治体数（N=26自治体）

※参考資料集4 P103-105

R5 京都府がん検診の実施状況調査結果②（国立がん研究センター実施）

R4 年度実施内容	検査項目	R3 実施状況	R4 実施状況	備考
胃がんリスク	ペプシノゲン・ヘリコバクターピロリ併用	5	5	個別方式で実施
	ヘリコバクターピロリ単独	1	1	集団方式で実施
前立腺がん	PSA検査	24	24	
肝臓がん	エコー	0	0	R2年度で全市町村廃止
子宮体がん	細胞診	0	0	R2年度で全市町村廃止
卵巣がん	エコー	0	0	
甲状腺がん	エコー	0	0	
口腔がん		0	0	
咽頭・喉頭がん		0	0	